

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

見立てと折り紙

Mitate (Modelling) and Origami

羽鳥公士郎

Hatori Koshiro

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

ガルーダ

Garuda

神谷哲史

Kamiya Satoshi

折り図 Diagrams

ジャツカロープ

Jackalope

神谷哲史

Kamiya Satoshi

つまみおり Information

第15回折紙探偵団関西コンベンション参加申し込み受付開始

The Registration Open for the 15th Origami Tanteidan Kansai Convention

通巻 **149** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

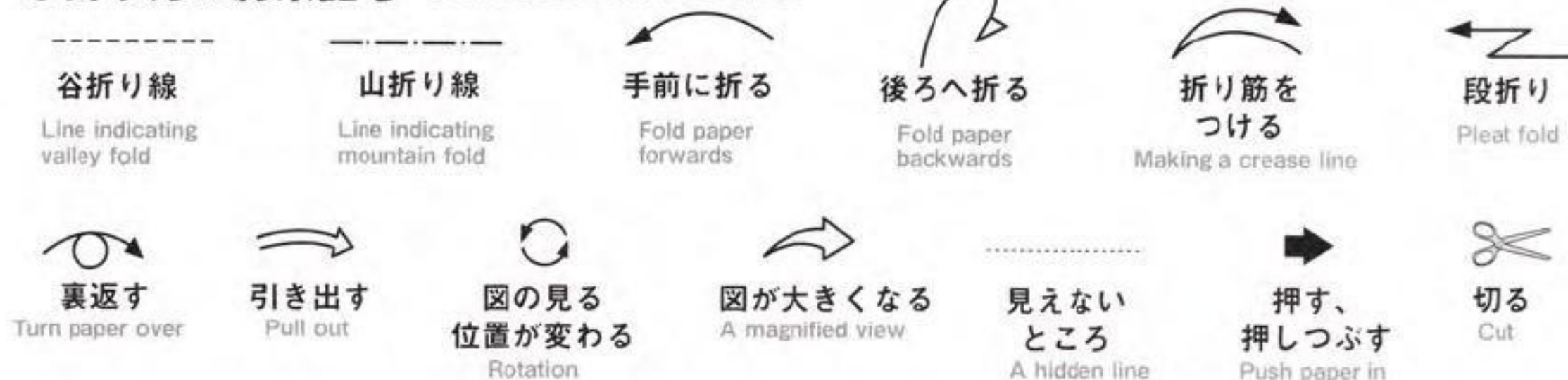
Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



「ガルード」(P.38) Garuda (P.38)
作: 神谷哲史 by Kamiya Satoshi

■背面に巨大な羽根を背負った神鳥の像。このような「本体をはるかに上回る大きさの装飾品が付いた題材」を作るために必要な技術が蓄積されてゆけば、「不切1枚折りで背景も付いたディオラマ」などもさらに高質なものが登場してくるだろう、と期待が高まります。

(解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi



Garuda: Kamiya Satoshi

クローズアップ / Close-up

P.13 見立てと折り紙
 Mitate (Modelling) and Origami

羽鳥公士郎
 Hatori Koshiro

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.26 ジャッカロープ
 Jackalope

神谷哲史
 Kamiya Satoshi



P.38 展開図折りに挑戦!
 Crease Pattern Challenge!

ガルータ
 Garuda
 神谷哲史
 Kamiya Satoshi

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
 Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より
 Models Based on Diagrams and Crease
 Patterns of This Issue

解説・北條高史
 Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 うず組みの世界
 The Spiral Module Series
 正5角、正7角箱
 Pentagonal and Heptagonal Boxes

川崎敏和
 Kawasaki Toshikazu

P.8 おりがみ我楽多市
 Origami Odds and Ends
 4枚組みのトレイと椿
 Tray with Four Modules, Camellia

やまぐち真
 Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.16 折紙図書館の本棚から
 From the Bookshelves of the JOAS Library
 一生スーパーコンプレックスおりがみ
 Issei Super Complex Origami

川畑文昭
 Kawahata Fumiaki

P.18 ぼくらは折紙探偵団
 Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN
 「千羽鶴折形」再現録
 Recreating Hiden Senbazuru Orikata

堀口直人
 Horiguchi Naoto

P.39 ペーパーフォルダーの横顔
 Paper Folders on File
 橋間 仁
 Hashima Hitoshi

取材：北條高史
 Hojyo Takashi

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺
 Origami and Its Neighbors

布施知子
 Fuse Tomoko

P.36 おりすじ
 Orisuzi ("Fold-Creases")

小原智美
 Ohara Tomomi

P.37 折紙三昧
 Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司
 Nishikawa Seiji

情報 / Information

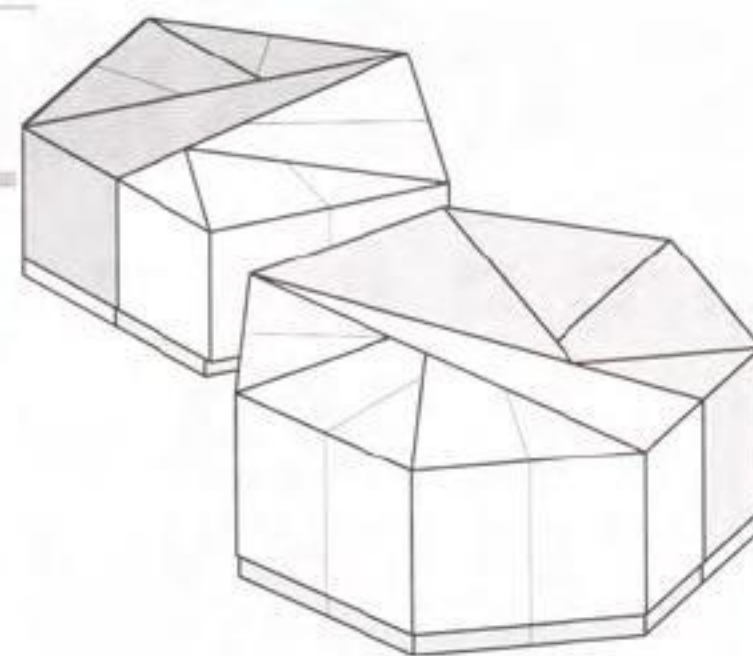
P.40 つまみおり Rabbit Ear
 第15回折紙探偵団関西コンベンション
 参加申し込み受付開始
 The Registration Open for the 15th Origami Tanteidan
 Kansai Convention

第10回 正5角、正7角箱

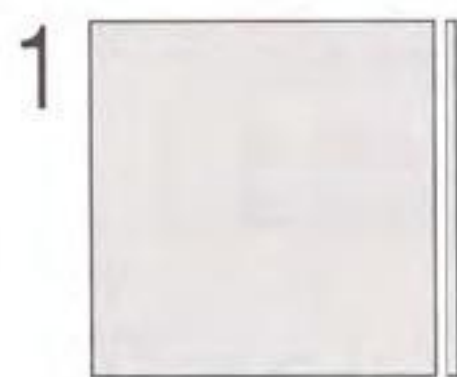
Pentagonal and Heptagonal Boxes

©2014 KAWASAKI Toshikazu

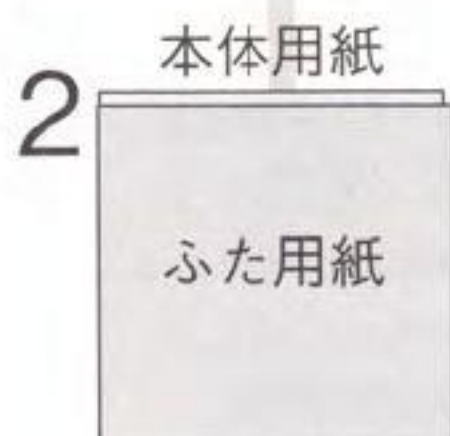
正7角箱は2014年マイ・ベスト作品です。二等辺三角形分割に基づくつる巻き折りで作ります。一般の n (奇数) 角形の展開図も解説します。ただし、 $\tan \theta$ を使うので少し難しいかも。



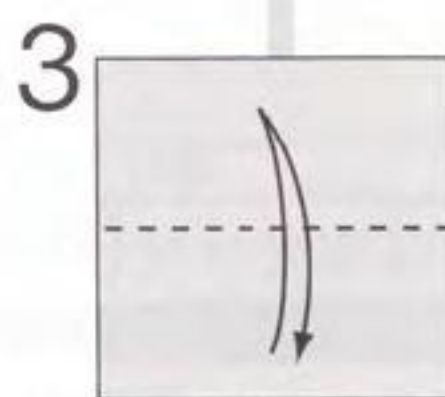
正5角箱のふたを折る 24cm角で説明します。



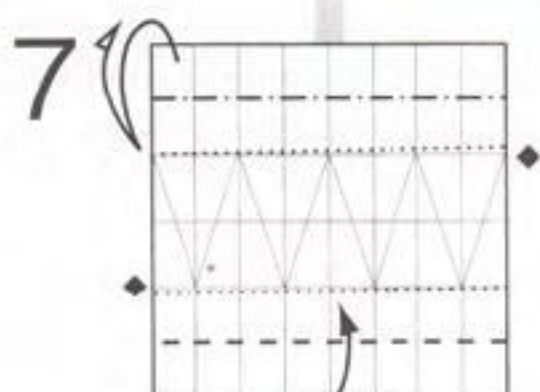
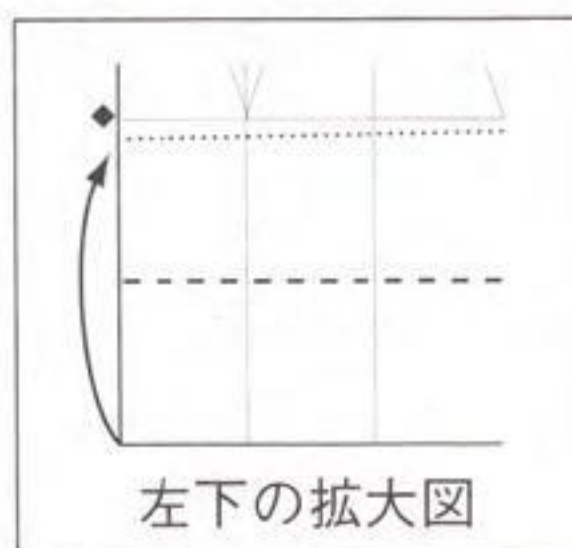
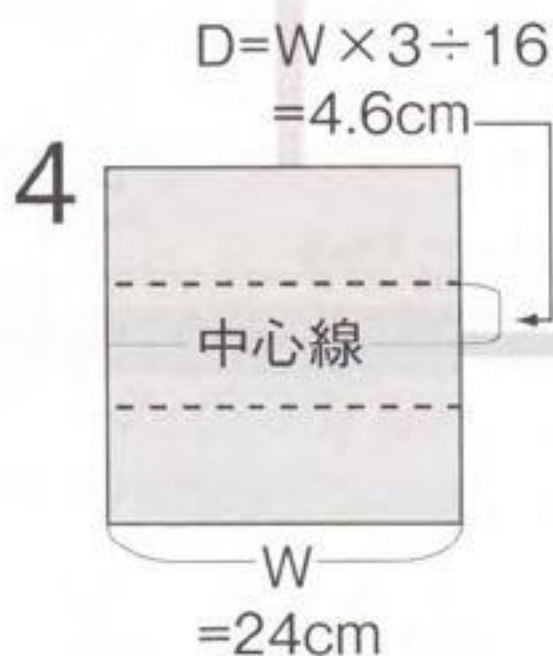
2枚を重ねて
幅5mmほど切って
1枚だけ縦横置き替える



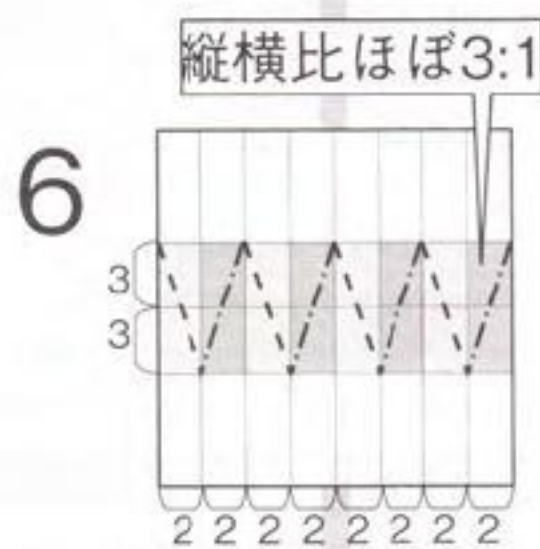
横長がふた用紙



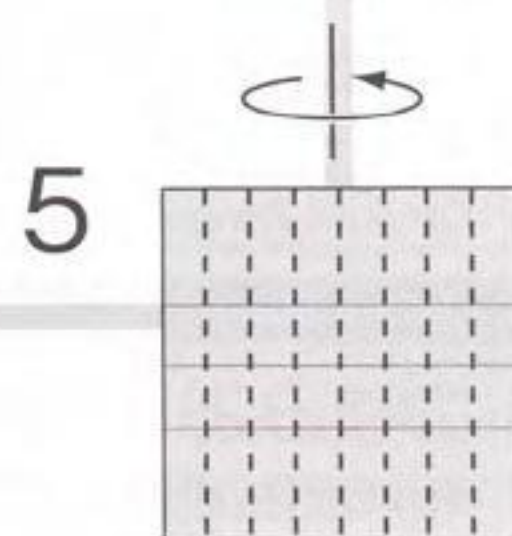
半分の折り目をつける



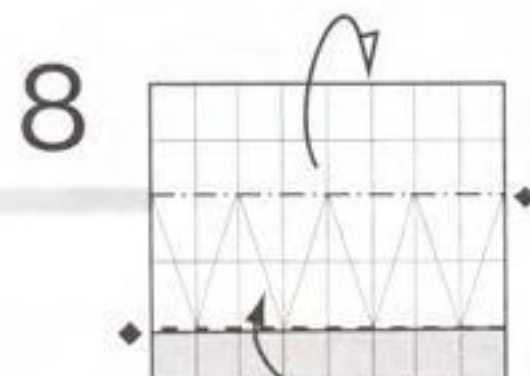
フチを点線に合わせる
(◆から1mm程空ける)



手芸用鉄筆で
長方形の対角線に
折り目をつける

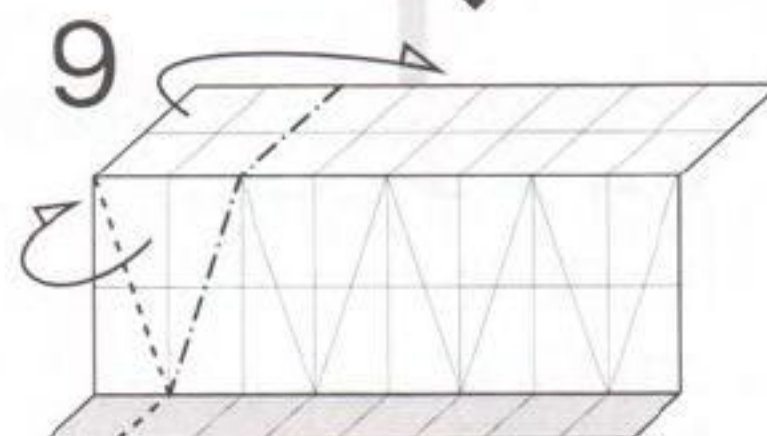


8等分

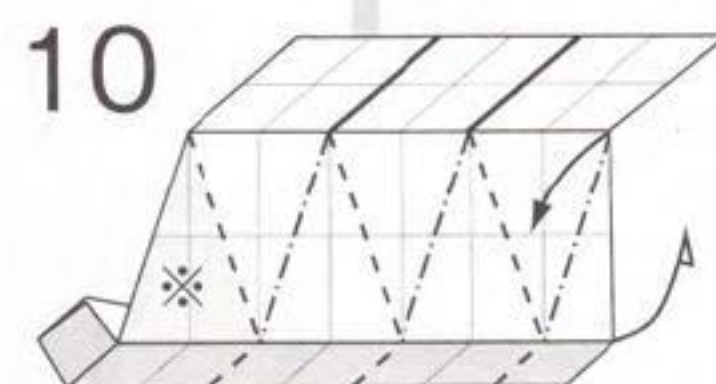


山谷とも直角に折る

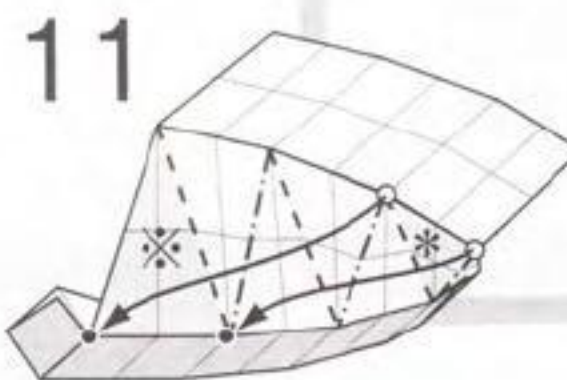
拡大



裏側に折る



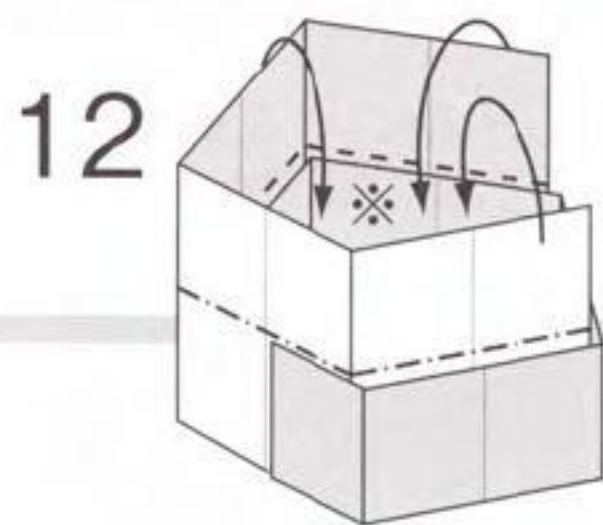
※の三角を固定してねじる
(太線は少し山折り)



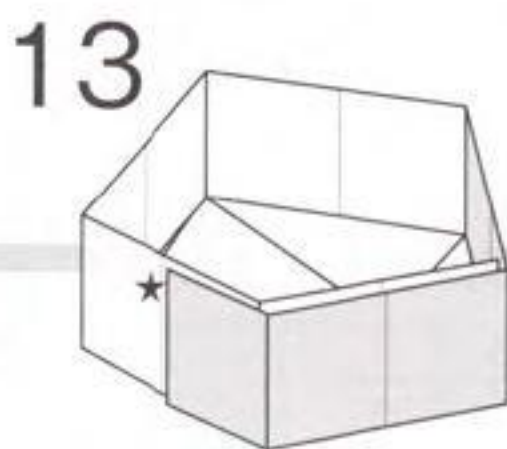
○を●に近づけ
三角※を三角※に重ねると
勝手に5角箱にまとまる

拡大

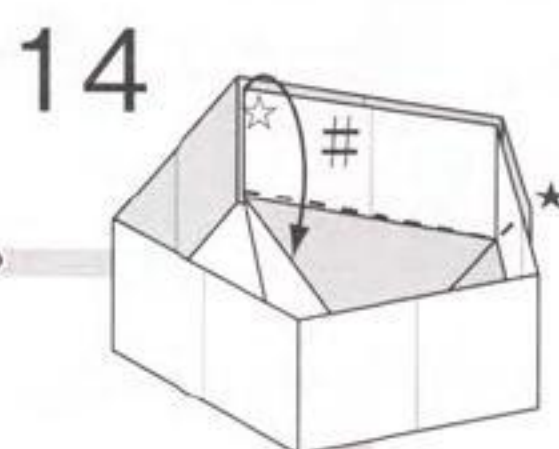
+



12 内側に折って※を包む



13



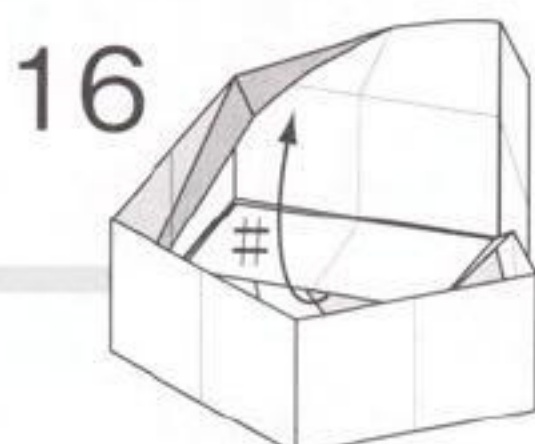
14

#を内側に倒す



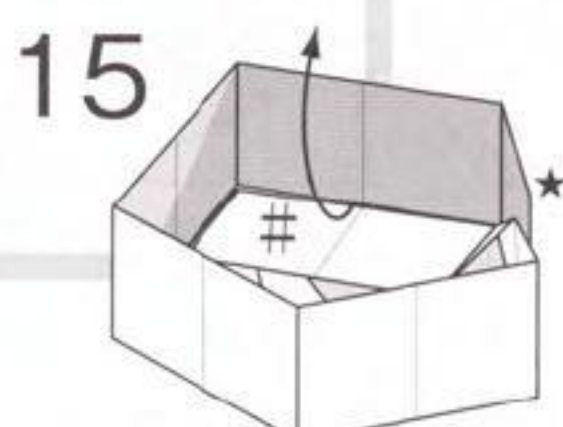
17

#のカド☆を奥まで入れる



16

#をを起こす

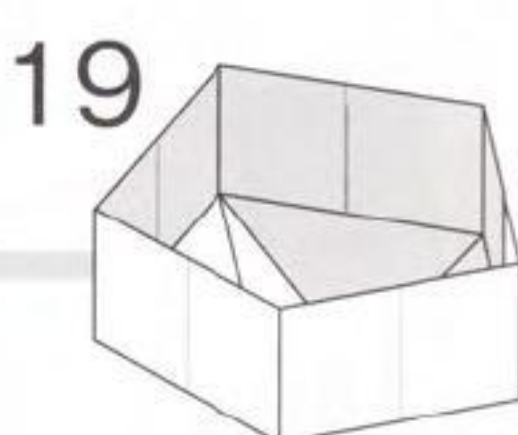


15

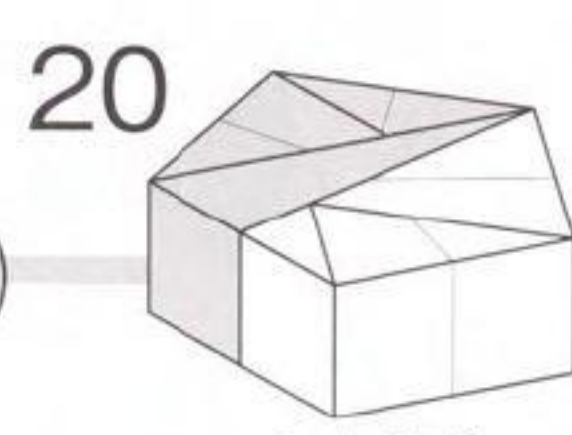
濃い部分を開く



18



19

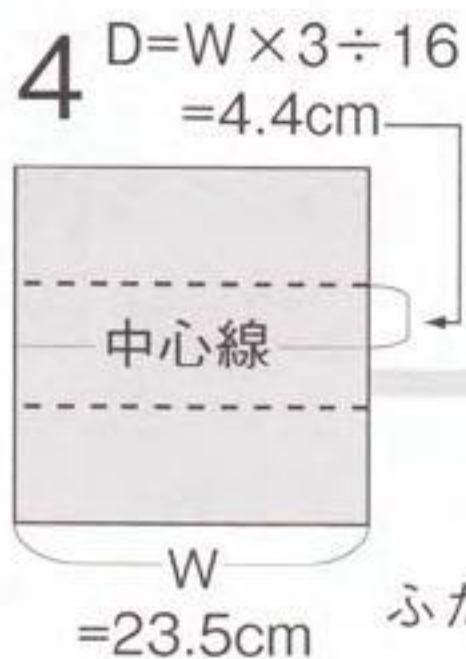


20

ふた完成

正五角箱の本体を折る

前頁工程2の本体用紙で、ふたと同じように折るだけです。

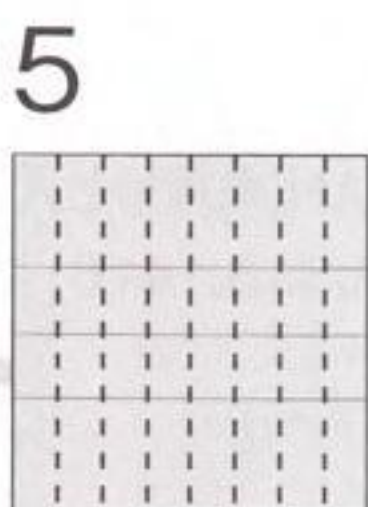


4

$$D=W \times 3 \div 16 = 4.4\text{cm}$$

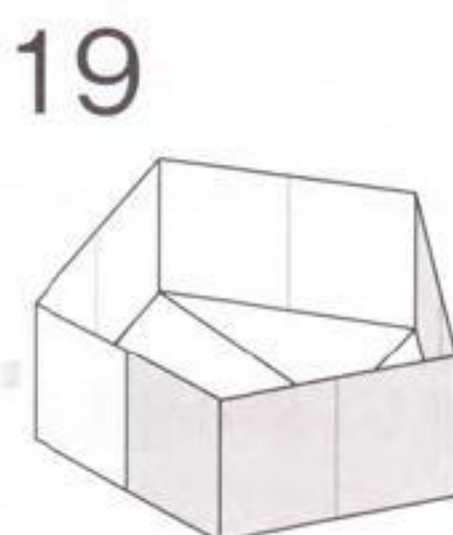
中心線

W=23.5cm



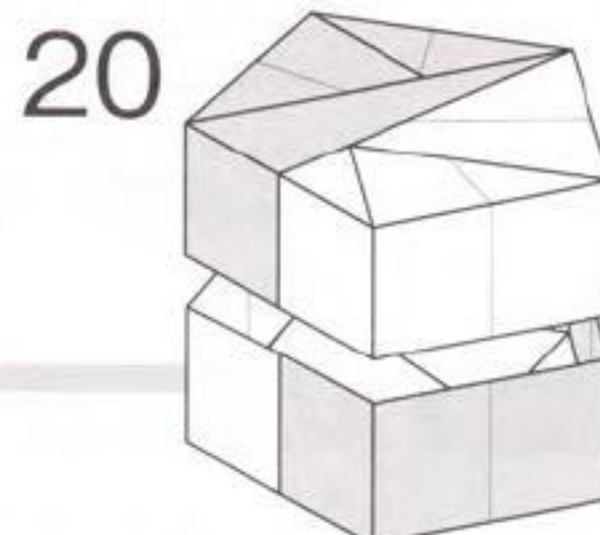
5

ふたの工程5~19をくり返す



19

本体完成



20

本体にふたをかぶせる

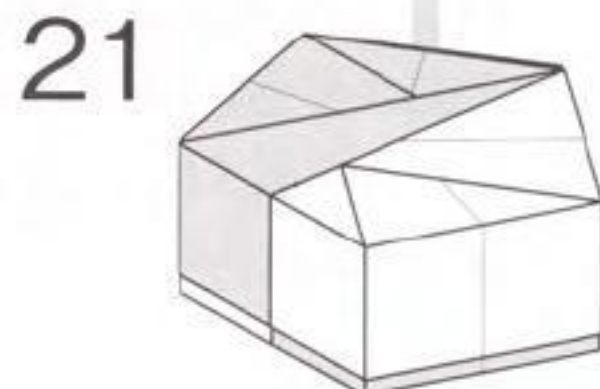
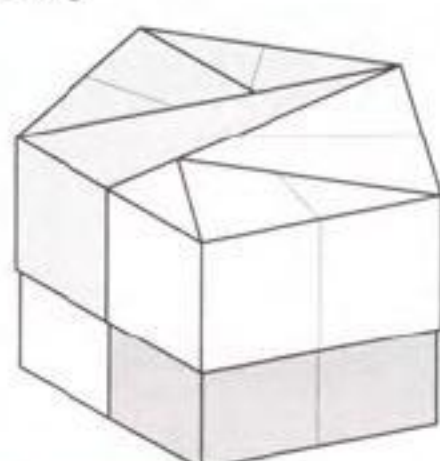
ふた用紙と本体用紙の関係



本体用紙

ふた用紙

本体用紙の横幅はふた用紙より5mm~10mm狭くします。縦は、いくらでも長くできて、下図のようになります。



21

正五角箱完成

正n(奇数)角箱

一辺の長さ=aの正n角底（nは奇数）、深さ=bの箱のふたは、次の①②でmとDを計算して用紙を切り出す。

① $m = \frac{n+1}{2}$

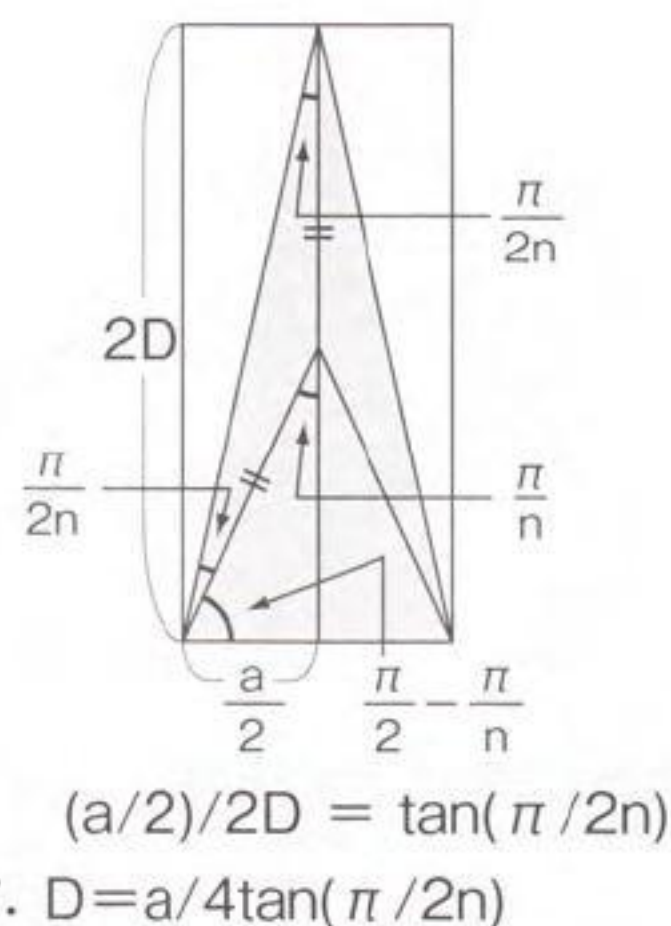
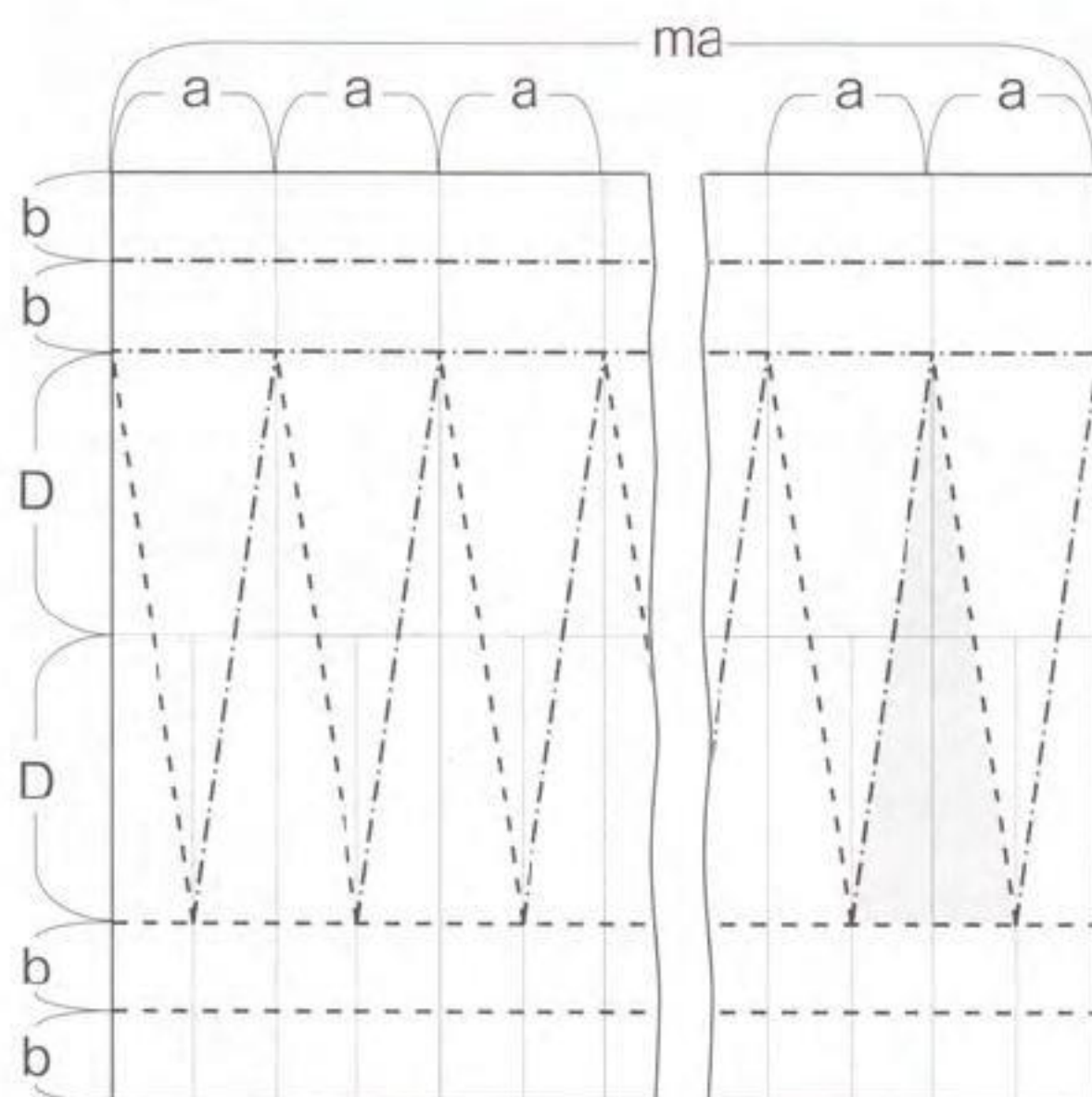
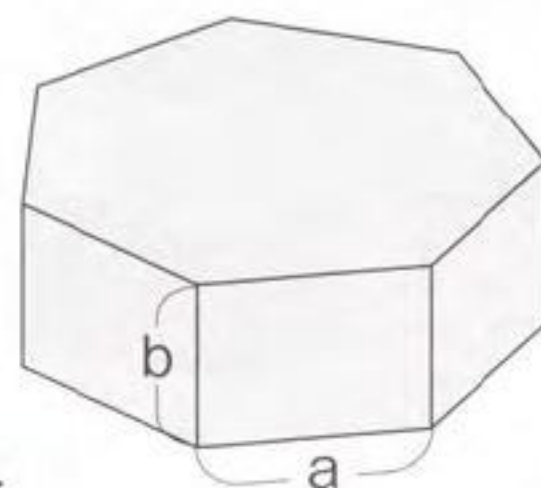
② 横幅=ma、高さ=2D+4bの用紙を準備する。

ただし、 $\pi=3.1416$ 、 $D = \frac{a}{4\tan(\pi/2n)}$

③ 下図のように折り線をつける。

ボールペンPILOTフリクションボールで線を引いてから折る。

④ ドライヤーで加熱して、ボールペンの線を消す。



三角関数 $\tan\theta$ の値は、表計算ソフトExcel の枠に『=TAN(角度)』と入力すると計算してくれます。
 (π は3.1416)

正7角箱

次の①でmを計算し、②の用紙を切り出す。

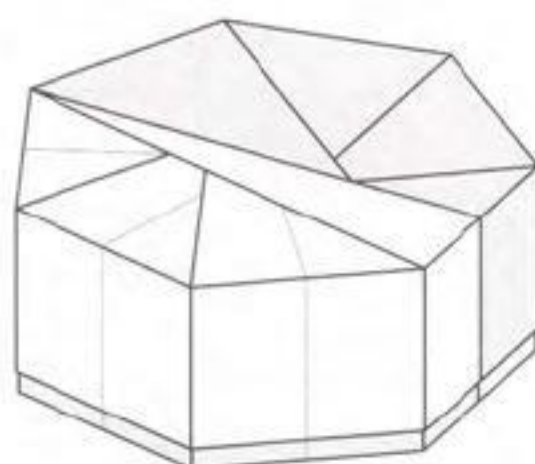
① $m = \frac{7+1}{2} = 4$

② 横幅 4a、高さ 2.2a + 4b の用紙。

A4コピー用紙を縦長で折るときは、短辺の長さ21cmを4等分して、

a=5.25cm、D=5.75cm、

深さb=4.52cmになる。

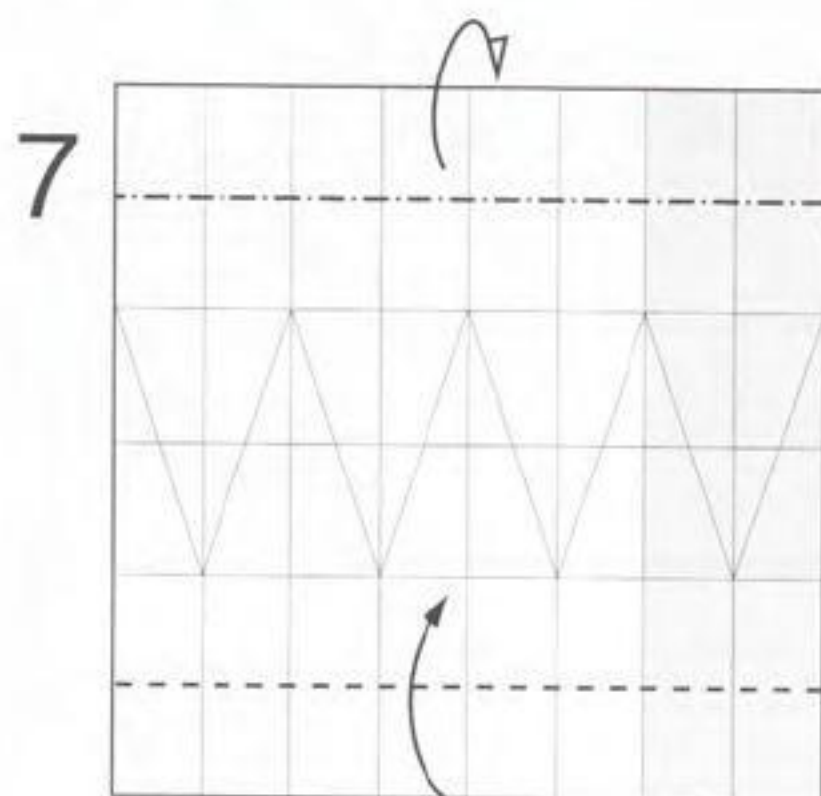


n	D
3	0.43a
5	0.70a
7	1.10a
9	1.42a
11	1.74a
13	2.06a
15	2.38a
17	2.70a
19	3.02a

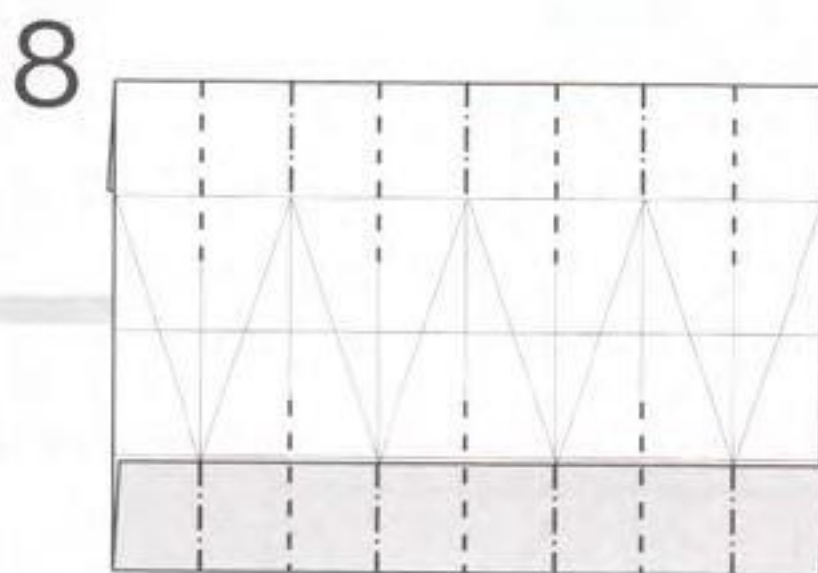
星の容器

15cm角の両面折り紙で折ると可愛い星型容器になります。

正5角箱のふたの続き。



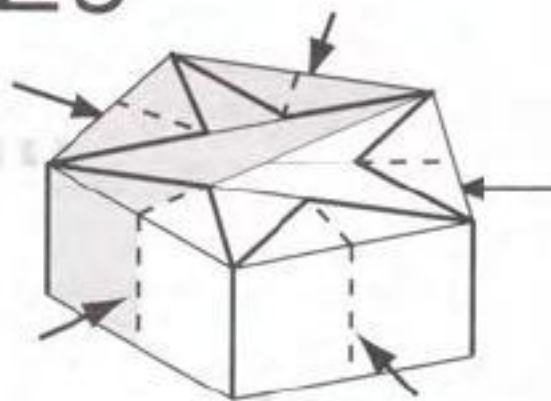
前頁の理論では濃い部分は不要



折り目をつけてから
正5角箱のふたにする

工程20の太線は
紙の厚みの境目

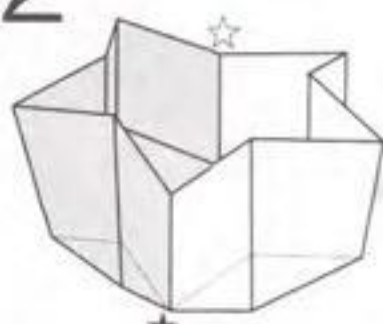
20



破線を押し込んで
谷折りしながら
太線をつまんで山折りする

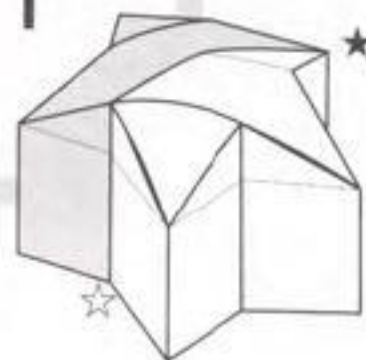
普通の折紙容器では紙のフチ
や折り線が底の中心で交わる
ため、中央がほころびやす
くなります。しかし、この容器
では折り線が中心を通らない
ので壊れません。

22



完成

21



折り紙の 周辺

第68回
30枚組

Universe with 30 Modules

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

初雪が根雪になった。今冬初めての大雪の日、あちこちで木が折れて、各所で通行止め。停電にもなった。冬ごとに雪の重みで木が折れる。アカシアや杉など傾いていた木は根ごとひっくり返る。間引きがなされていない林は団塊で寄りかかり合いながら倒れる。打ち捨てられた小屋などもつぶれる。いろいろなものが淘汰される。停電の夜は静か。闇の密度が濃く感じられる。停電はいつも不意打ちだが、冬はある程度覚悟しているので、『来たか』と

思う。さて何をしたものか、時間の尺度が変わる。窓の雪で読書をするには老眼が進んでいるし、ロウソクの光で折り紙をしようか、なんてことも思ってみるけれど、折り紙が仕事となった今では素朴な気持ちになれない。たまにはこういう口があってもいいものだと思え、豆炭アンカを抱いてネコを誘い早々と布団に入る。

ユニット折り紙をしない人、つまり好きでない人は多い。理由のひとつは、数を折らなくてはならないことだろう。同じものを6枚12枚と折らなくてはならない。数を折ることは苦痛だ。時間の無駄に思える。しかしその果てに現れたものを見て満たされる心持ちは、それを成し遂げた者でなければ味わえない。

そのべ式に代表されるユニットは6枚組、12枚組、30枚組を基本と考えている。その手のユニットを作っ

たら、必ず30枚組までは試してみる。ユニットを創作して、6枚組、せいぜい12枚組で終わらせてしまうのはもったいない気がする。ユニットによって12枚組はいいが、6枚組が弱くなるものや、12枚組は難しいのに30枚組になるときちんとできるものや、味わいが違う。手間ひまを惜しまないで、その先の変化を見極めてほしい。話は戻るが、そのべ式ユニットについての私の理解は次の通り。藺部光伸さんが「カラーボックス」という名で6枚組(立方体)を発表。それを笠原邦彦さんが12、30、36枚組などの球状組へと発展させた。数を変えて組むと別な宇宙があることを見つけた笠原邦彦さんの功績は大きい。

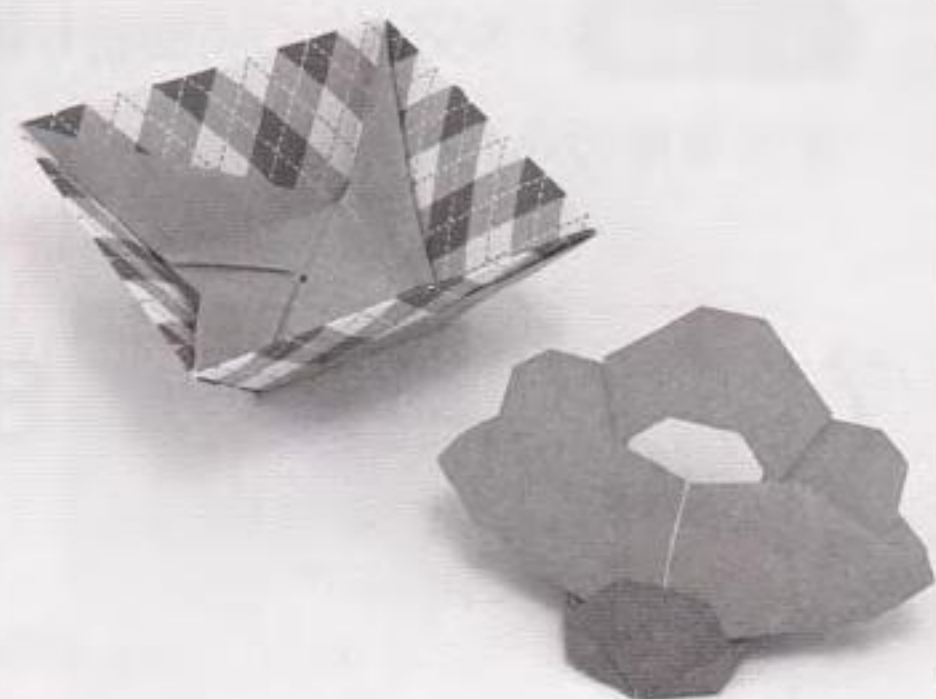
ユニットの30枚組は、組む数を増やしていく中で、初めて球を感じさせる。五角の模様も出てくる。それも魅力。さあ、30枚組を作ろう!

第70回 **4枚組みのトレイと椿**

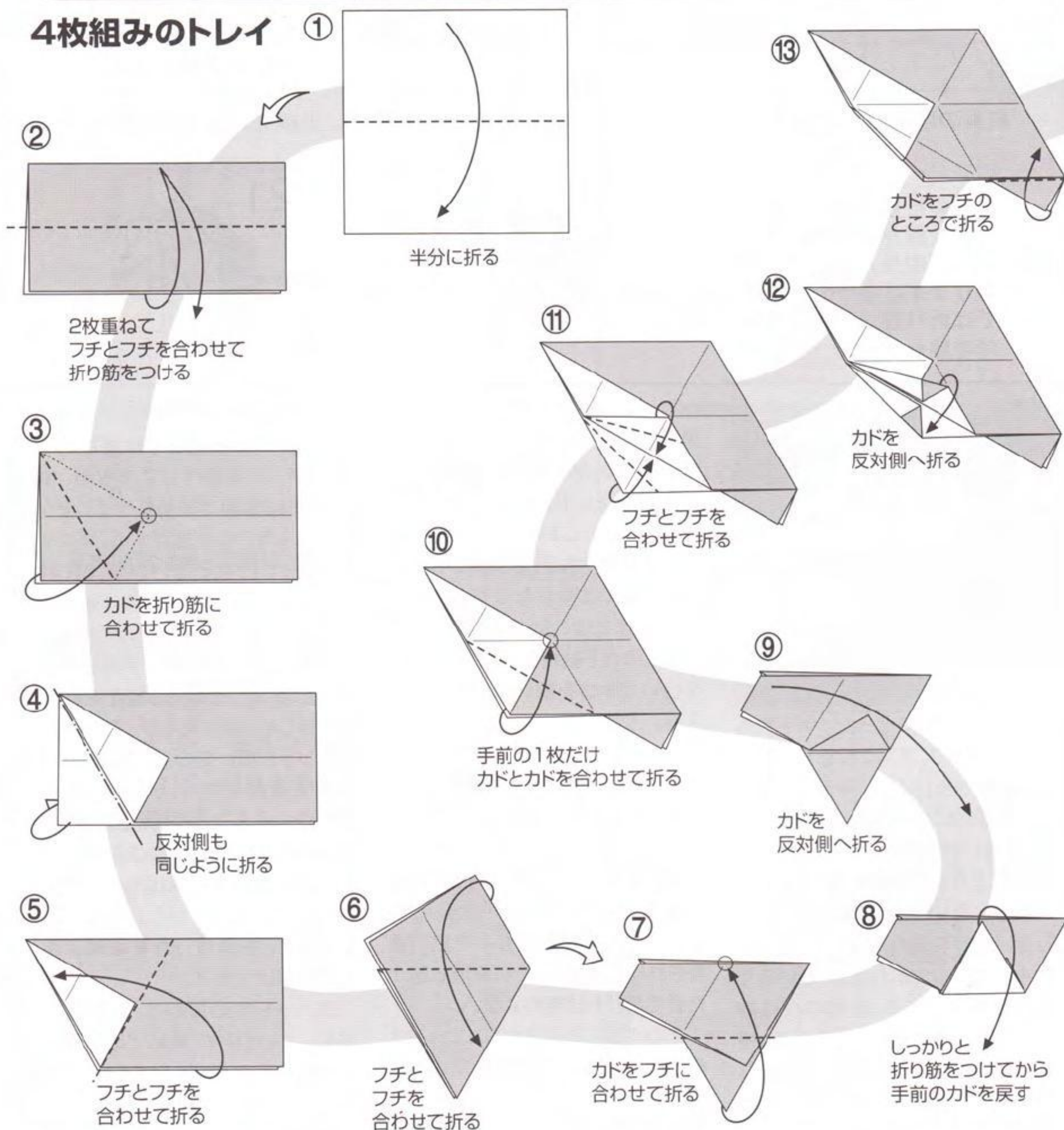
Tray with Four Modules, Camellia

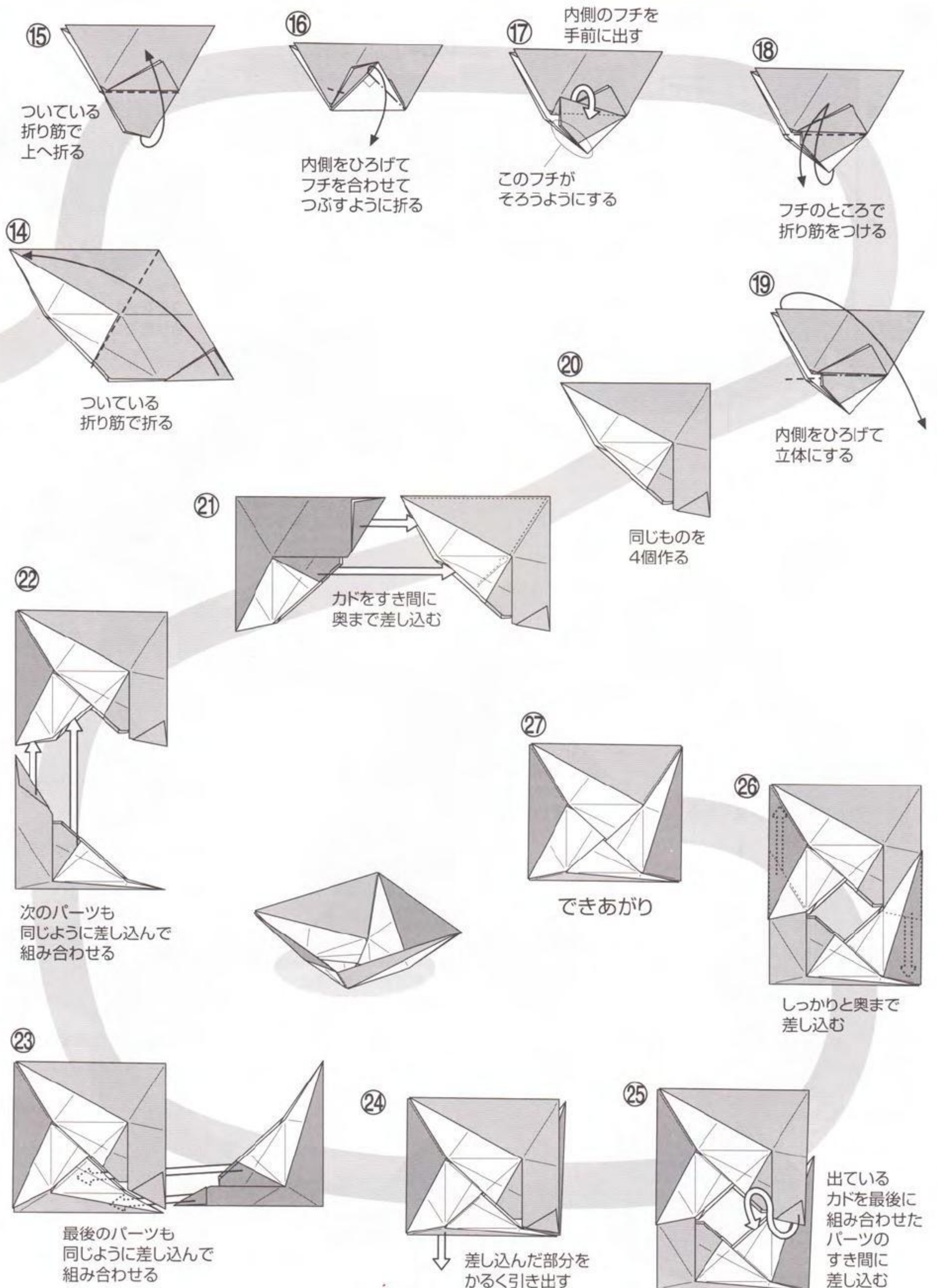
作:やまぐち真 折り図:おりがみはうす

トレイは、ちょっと厚みが出ますが、実用に耐える強度があります。のりづけしなくても組めますが、のりを使った方がより実用的です。椿は、カードやOrigami ATCに使えるような平面的な花を、というリクエストを受けて作りました。



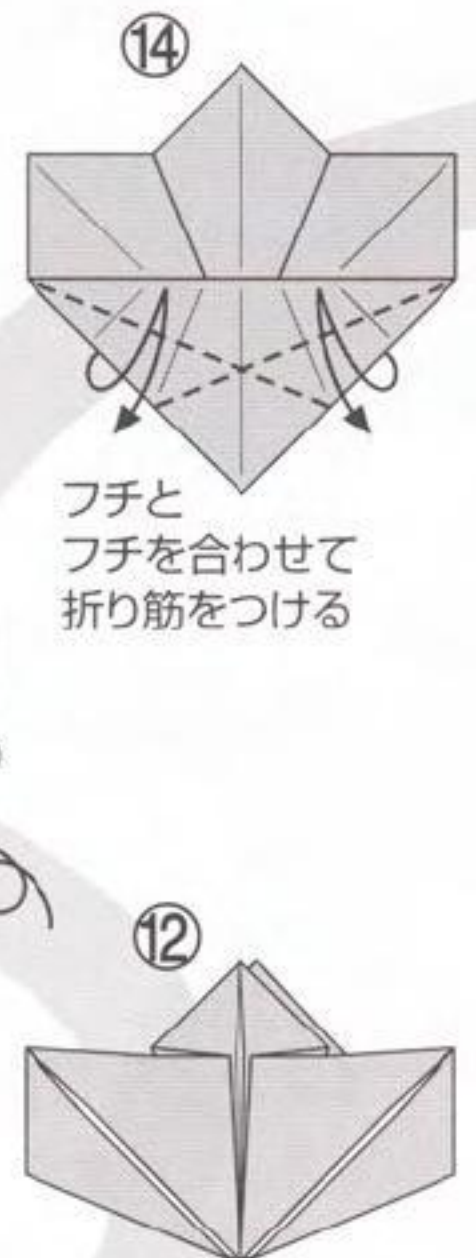
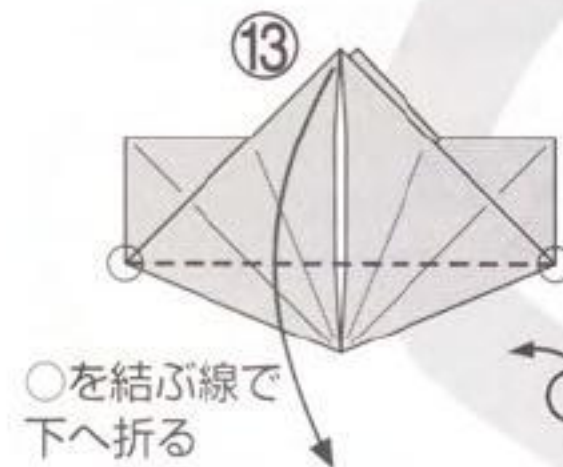
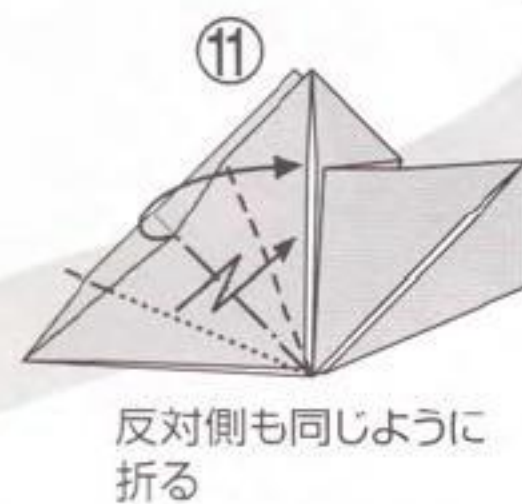
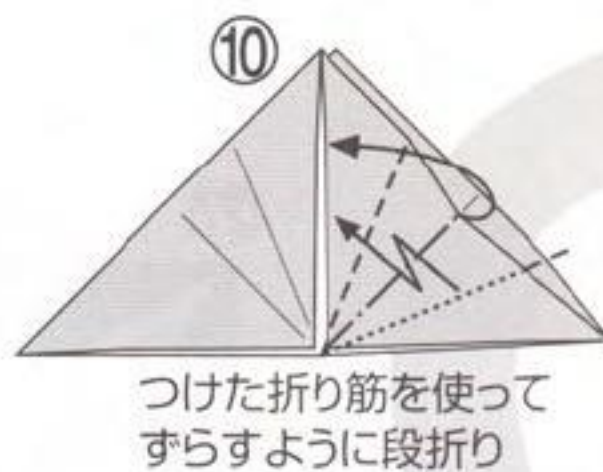
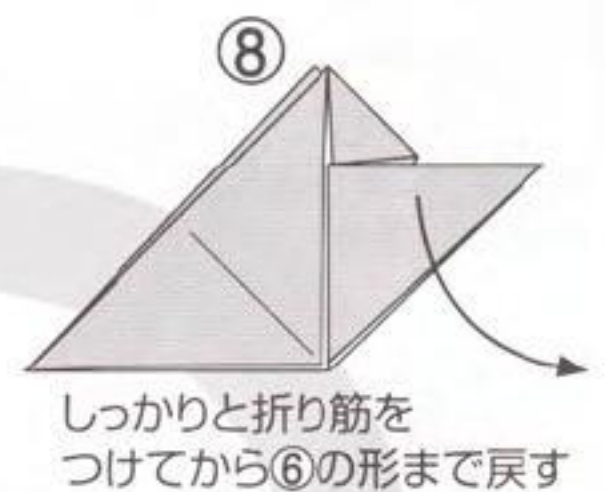
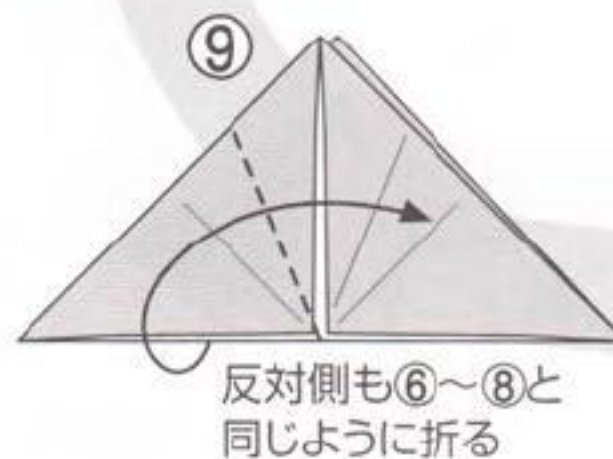
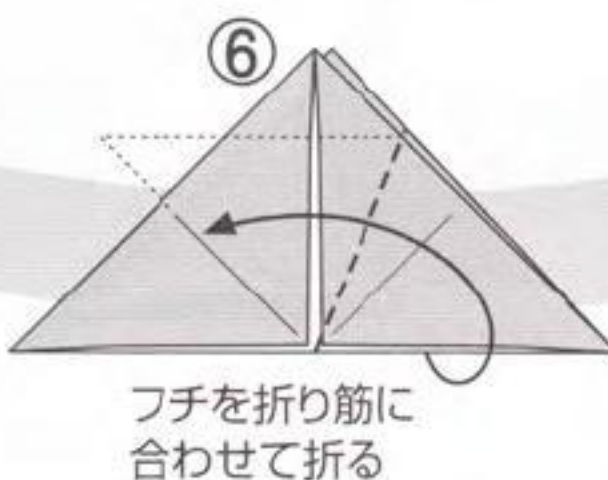
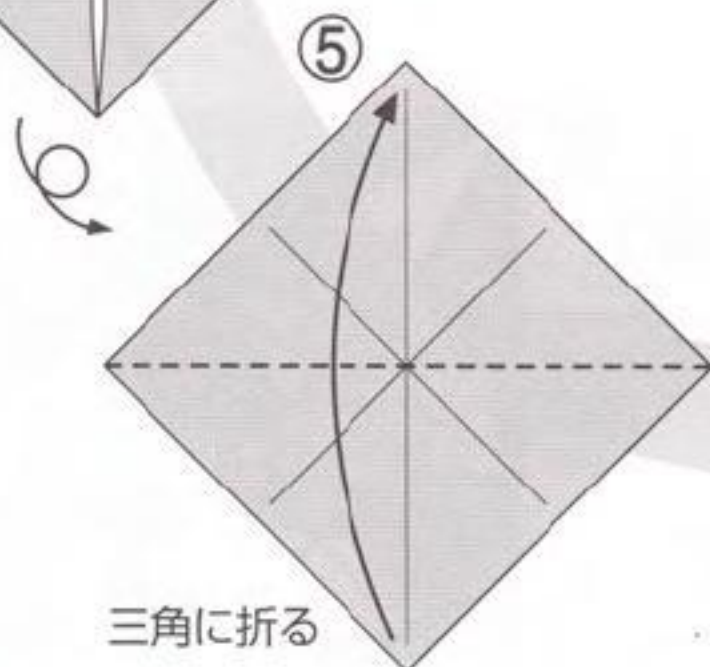
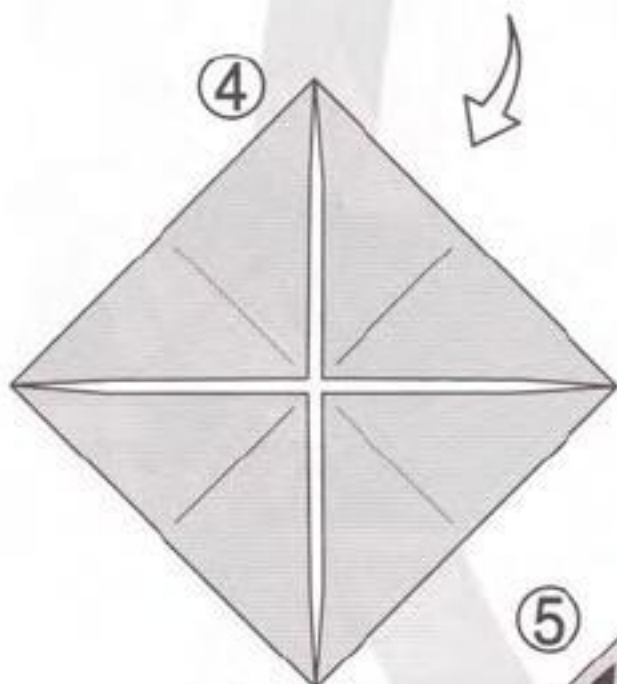
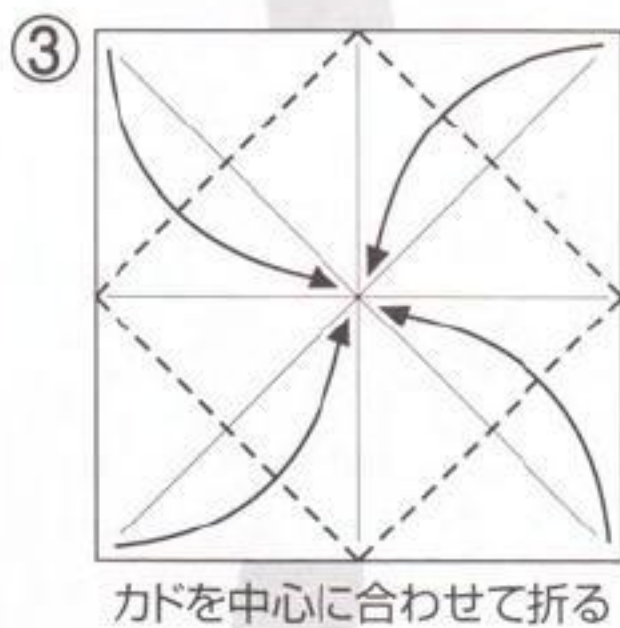
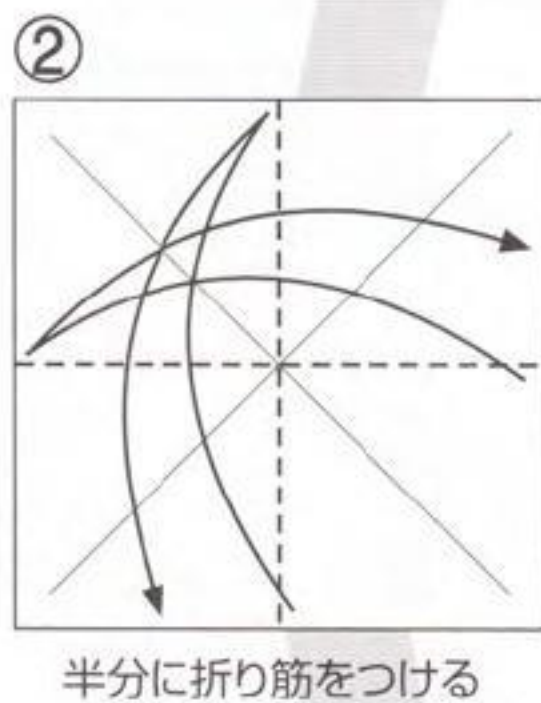
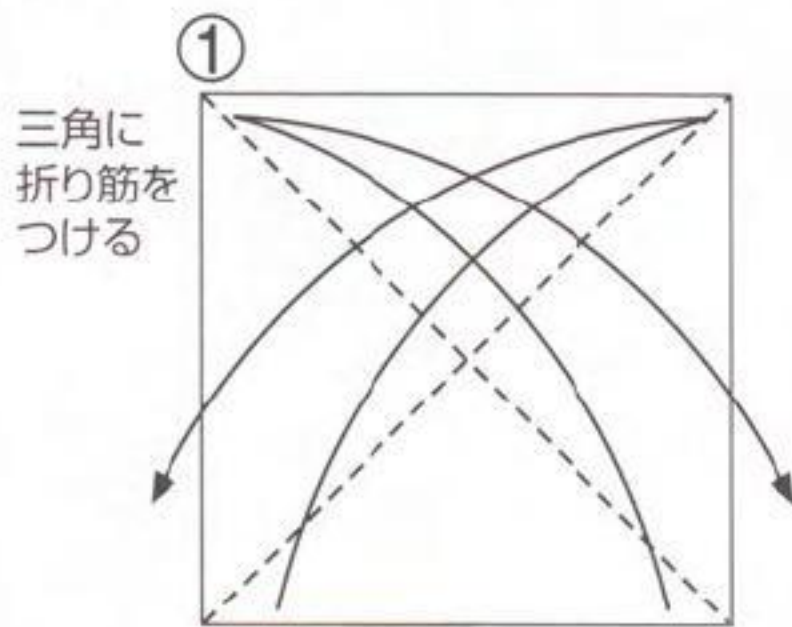
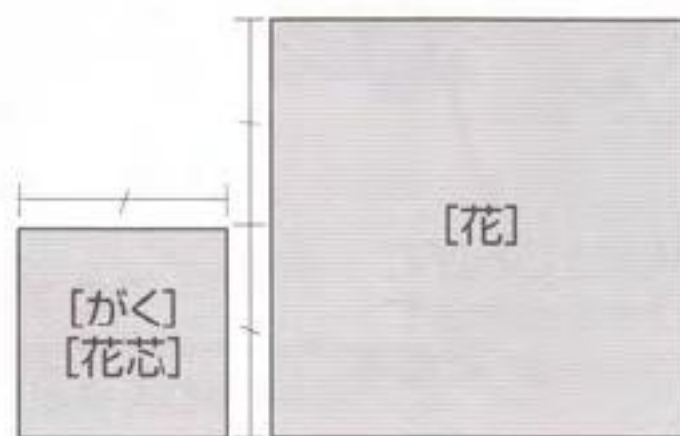
4枚組みのトレイ



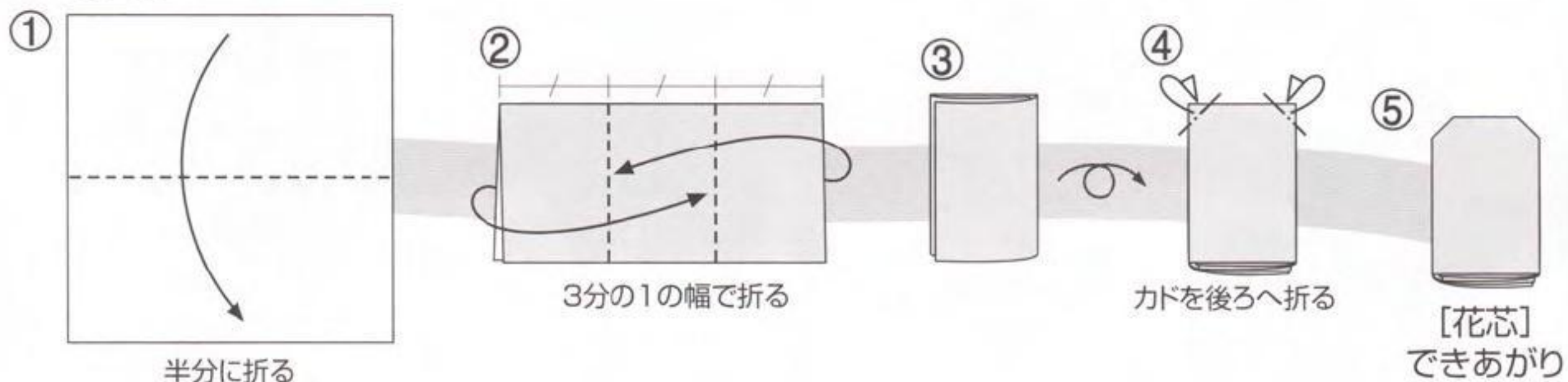


椿 [花]

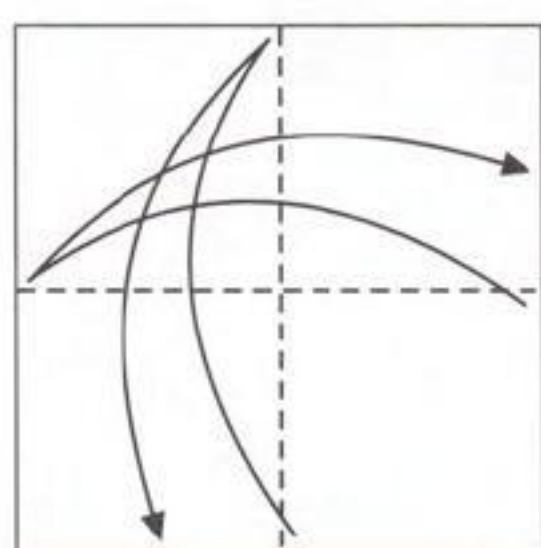
[紙の比率]



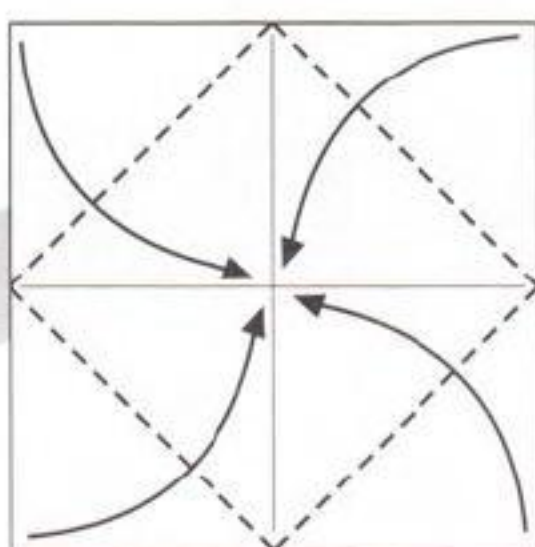
[花芯]



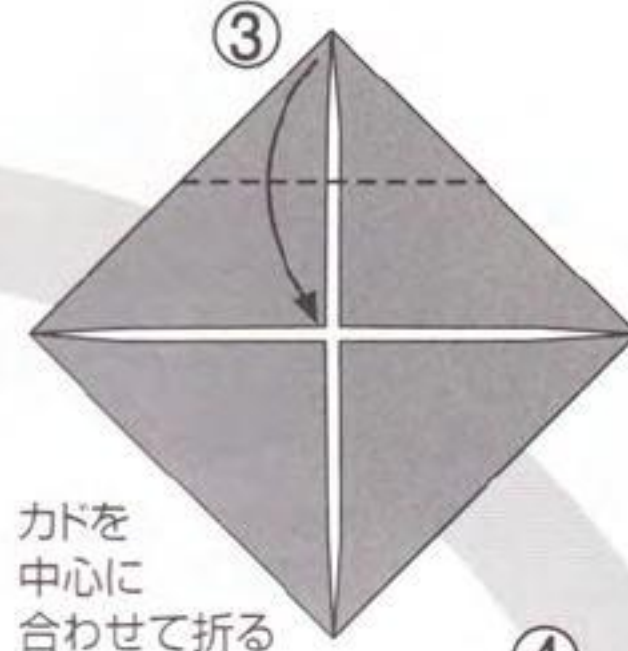
① [がく]



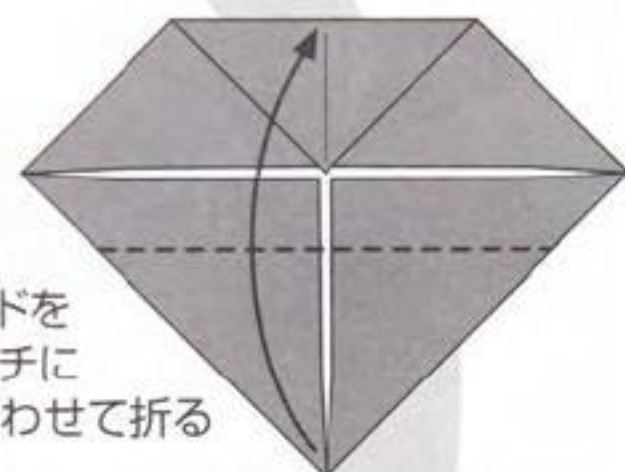
②



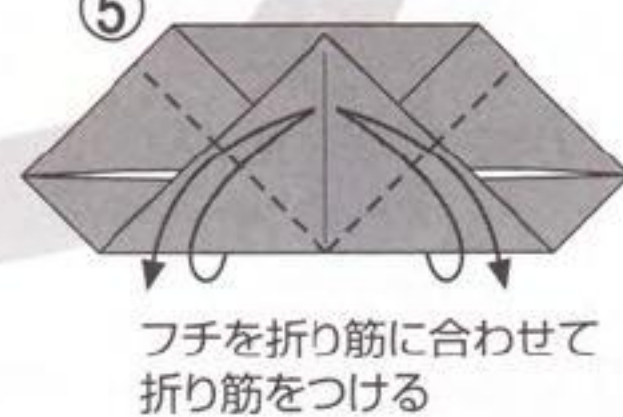
③



④



⑤



⑧



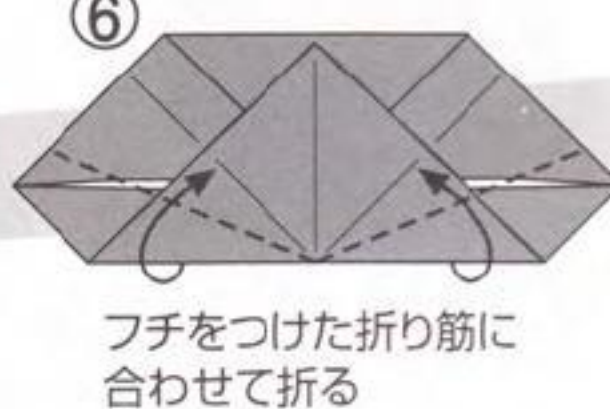
⑨



⑦



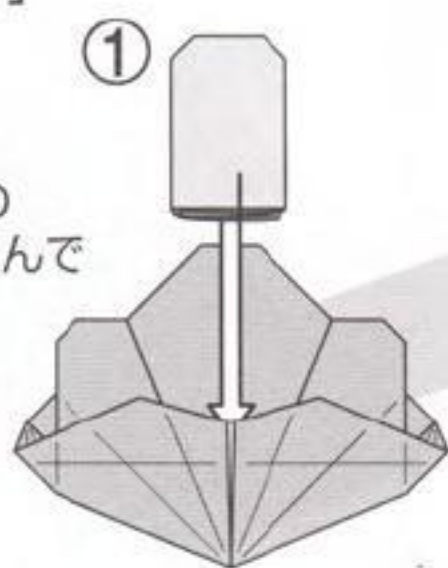
⑥



[組み立て方]

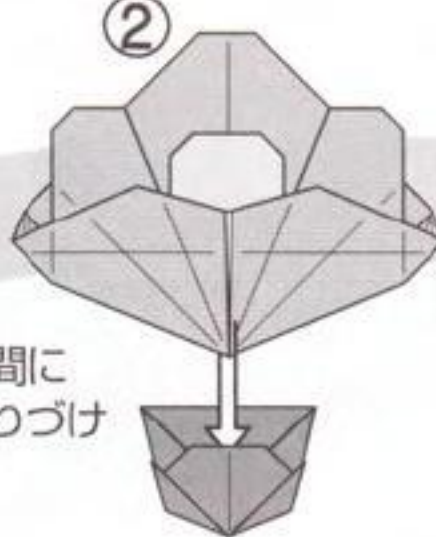
①

[花芯]を[花]のすき間に差し込んでのりづけ (Insert the flower core into the gaps of the flower and glue)

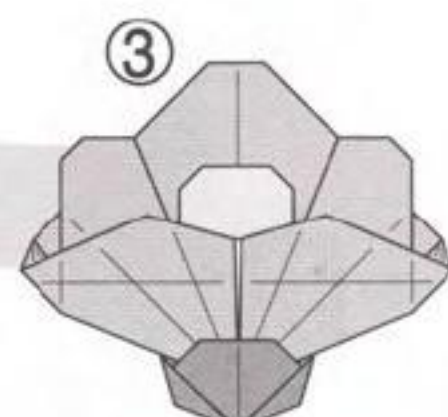


②

[がく]のすき間に差し込んでのりづけ (Insert the petals into the gaps and glue)



③



見立てと折り紙

Mitate (Modelling) and Origami

羽鳥公士郎

Hatori Koshiro

折り紙において見立てという概念を最初に強調したのは、西川誠司です。西川は、本誌の前身である折紙探偵団新聞の最初の年度(1990)に「折り紙批評体系」を連載しており、その中で折り紙の「見立ての面白さ」を指摘しています。また、今は休刊してしまった『季刊をる』のやはり最初の年度(1993)に「生物造形講座」を連載しており、その中で「折り紙は見立ての芸術である」と述べています。

しかし、「見立て」という言葉の意味は幅広く、また日本の多くの芸術や文化に見ることができるため、見立ての概念には慎重な検討が必要です。

『広辞苑』を引いてみると、「見立て」には

1. 見送り。送別。
 2. 見て選び定めること。
 - a. 選定。鑑定。
 - b. 診断。
 - c. 遊客が相方の遊女を選ぶこと。
 3. なぞらえること。
 4. 芸術表現の一技法。対象を他のものになぞらえて表現すること。
- の意味があります。ここで検討すべきは、4の意味での見立てです。

「見立て」という言葉をこの意味で用いた最初の芸術は、俳諧だといわれています。17世紀の松永貞徳とその門下(貞門)が、見立てを盛んに用いました。貞門の1人である松江重頼が編んだ『毛吹草』(1647)に、俳諧における修辞法がいくつも列挙されていますが、その中に「見立て」があります。

見立てを用いた句の例としては、昌意の「ちる花は音無の瀧といひつべし」が『毛吹草』に収められています。

ここでは、桜の花卉が散っている様子を滝になぞらえています。西洋の修辞法に対応するものを探すなら、見立ては暗喩(メタファー)と似たものだといえるでしょう。

暗喩を用いた芸術として歴史が古いものに、日本庭園があります。日本庭園の多くには池があり、池には島があります。このような形式の庭園は、少なくとも7世紀から作られていました。ここで、池は海のメタファーであり、島は山のメタファーです。水を使わない枯山水の庭園でも事情は同じで、白砂が海を表し、石が山を表します。

日本庭園は多くの場合、実在のまたは空想上の風景のミニチュアとして作られます。特によく表現される山は、中国の伝説ではるか東方の海上にあり仙人が住むとされる蓬莱山と、インド仏教で世界の中心にそびえているとされる須弥山です。

千利休が大成した茶の湯では、元々別の目的で使われていた道具を茶道具として転用したものを「見立て道具」と呼んでいます。例えば、現在香雪美術館に収められている「桂籠花入」(図1)は、桂川の漁師が魚籠とし

て使っていた竹籠を、利休が花入れにしたものです。

茶道具などの真贋や価値を判定する人を「目利き」といいますが、利休と、その師である武野紹鷗は、目利きを乗り越えて「目明き」だといわれていました。いわゆる「侘び茶」より前の茶の湯では、中国舶来の「唐物」が用いられていました。ところが利休や紹鷗は、日常使われているものの中からしばしば茶道具を見出しました。

落語もまた、見立てに大きく依存しています。落語家が使うことのできる小道具が、扇子と手拭いの2つしかないためです。扇子は、箸にもなり、刀にもなり、ペンにもなり、少し開けばお盆にもワイングラスにもなります。手拭いも、財布や帳面などに見立てられます。

浮世絵には「見立て絵」と呼ばれるジャンルがあります。これは、中国や日本の故事や歌などを、舞台を当世に変えて描いたものです。例えば鈴木春信の『見立孟宗』(1765年以降・図2)では、二十四孝の1人である孟宗の故事が描かれていますが、孟宗



図1 「桂籠花入」



図2 鈴木春信『見立孟宗』

見立てと折り紙

Mitate (Modelling) and Origami

羽鳥公士郎

Hatori Koshiro

が遊女に置き換えられています。

春信は多くの見立て絵を描いていますが、そのほとんどに題名がついていません。『見立孟宗』というのも、後世の美術史家がつけた題です。当時の人は、この絵を見ただけで、描かれている遊女が実は孟宗を表していることに気がつくことが期待されていました。その意味では、判じ絵と似たところがあります。

舞台を変えるという手法は、歌舞伎でも多く用いられます。典型的な歌舞伎や浄瑠璃の台本は、「世界」と呼ばれるメインプロットに「趣向」を加えて書かれます。見立ては、趣向の大きな部分を占めています。もっとも人気のある演目『仮名手本忠臣蔵』(1748)は、南北朝を舞台にした軍記物語『太平記』を世界としていますが、実際には赤穂浪士討ち入りの事件に基づいています。

以上、さまざまな芸術における見立てを確認してきました。共通していることは、何かを別の何かで表すということであり、2つの対象を伴っているということです。ただし、2つの対象が類似しているとは限りません。3世紀中国の官吏である孟宗と18世紀江戸の遊女は、似ても似つきません。

20世紀米国の哲学者であるマックス・ブラックは、暗喩を分析した論文の中で、暗喩の起こる仕組みを、ある対象が特別な枠組みに置かれることで我々の認識が変化すると指摘しました。見立てという表現も、ある対象を特別な文脈に置くことで、別の対象として見せているということができるでしょう。

ところが、日本を代表する美学者

の1人である佐々木健一は、芸術作品の題名は一般に「これを～として見よ」という命令である、と述べています。それならば、すべての芸術作品が、あるいは少なくとも題名がついているすべての芸術作品が、見立てであるといえるのではないのでしょうか。

ここで、19世紀末から20世紀初めにかけて活躍したフランスの画家モーリス・ドニの言葉が思い起こされます。「絵画とは、軍馬や裸婦、あるいは物語である前に、特定の仕方で組み合わせられた色に覆われた平面であるということを忘れてはならない。」日本庭園において池が海を表し、折り紙において折られた紙の形が鶴を表すように、絵画においては特定の組み合わせで配置された絵の具が軍馬を表すのです。

そう考えると、「見立て」という言葉の意味を広くとれば、すべての芸術は見立ての芸術だといえます。すると、「折り紙は見立ての芸術だ」という言明は、当然のことをいっているだけで、ありがたみがないということになります。

「見立て」をもっと狭い意味にとることもできます。春信の見立て絵を思い出すと、絵の具が遊女を表し、遊女が孟宗を表すというように、表現が2重になっています。あるいは忠臣蔵でも、役者が塩谷判官を表し、判官が浅野内匠頭を表します。

見立てを、このような「重ね合わせ」と解釈すると、折り紙には重ね合わせの表現はほとんど見られませんから、折り紙は見立ての芸術ではなくなってしまう。「見立て」には、広すぎも狭すぎもしない中間の意味があるはずです。

ドニがいうように、すべての絵画は

色の構成と見ることができます。しかし、同じ絵画を軍馬と見ることもできます。そのとき、絵そのものは変わっていません。では、何が変わっているのでしょうか。20世紀を代表する哲学者ルートヴィヒ・ウィットゲンシュタインは、「～として見る」ような知覚のあり方を「相(アスペクト)知覚」と呼びました。この用語を使えば、相が変わっているといえることができます。

そこで、見立てを、相変化を起こすような命令であると解釈することができます。ここで重要なことは、相変化は意志を必要とするということです。例えば、有名なアヒルウサギの絵(図3)を考えてみましょう。ある人がこの絵を見たとき、アヒルに見えたとしみましょう。その後で、この絵の題が「ウサギ」であることを知ったとしみましょう。そのとき、この人は、この絵をウサギとして見ることで、この絵の相を変化させます。

逆にいえば、普通のウサギの絵がウサギに見えた場合、相変化は起こりません。ウィットゲンシュタインは「普通のライオンの絵をライオンとして見ようとすることはできない」といっています。したがって、見立てを伴う表現は、普通でない表現でなければなりません。

折り紙は、確かに、普通でない表現に満ちています。例えば、折り鶴の腰から伸びている細長いカ

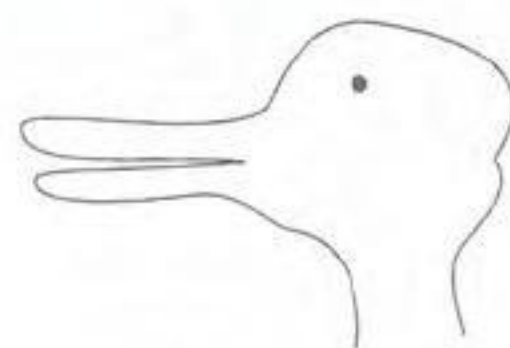


図3 アヒルウサギ

○羽鳥公士郎(はとり・こうしろう) = 1972年東京生まれ。翻訳家・折紙研究家。折り紙関係の翻訳もするが、本職はIT(情報技術)関係。



ドは何でしょう。尾にしては細すぎますし、脚にしては上を向きすぎています。折り鶴は、鶴の表現としては、普通でないといえます。これを鶴と見るには、意志が必要です。だからこそ、鶴に見立てることができるのです。

一方、神谷哲史の「鶴」(図4)は、鶴の表現としては普通です(折り紙作品として素晴らしいことは言えません)。これは、鶴に見立てられるのではなく、鶴に見えます。したがって、「折り紙は見立ての芸術だ」という言明は、部分的に正しいということになります。見立てを伴う折り紙もあれば、そうでない折り紙もあるのです。

もっとも、「普通の表現」と「普通でない表現」の違いは相対的で、明確な境界が引けるわけではありません。それに対応して、広い意味での「見立て」と中間の意味での「見立て」との違いも連続的です。広い意味では、すべての芸術は見立てを伴いますが、見立てに依存する程度の強弱の差が、芸術の分野間にも、同じ分野の作品間にも、あるでしょう。

芸術の分野間では、見立てへの依存度は、制約の強さと関連しているように見えます。俳諧には五七五という形式があります。日本庭園には面積という制約があり、落語の舞台装置はきわめて限定されています。忠臣

蔵が『太平記』を世界としたのも、当時実際の事件の舞台化が禁じられていたことが要因の1つです。

折り紙も、原則として紙を切ったり貼ったりせず折るだけで造形するという点で、他の立体造形と比べると制約の多い芸術です。そのため、折り紙は見立てに依存する度合いが大きいといえます。一方で、創作技術の発展によって、見立てに依存しない折り紙作品が次々と作られるようになっていきます。

西川の見立て論を詳しく見ると、作品全体を何かに見立てるという表現の側面に加えて、部分の見立てを組み合わせるという創作法の側面が強調されています。それも、程度の差はあれ、すべての芸術に共通することです。例えば馬の絵を考えてみましょう。たてがみや尾は、毛の一本一本まで描いているわけではไม่ใช่。また、筋肉の表現も、明るい色と暗い色で立体感を出しているでしょう。刷毛のストロークは、あるときには馬のたてがみに見立てられ、あるときには流れる水に見立てられるでしょう。

見 立てというと日本独自のように思われるかもしれませんが、これまで見てきたように、洋の東西を問

わずあらゆる芸術に見立てがあるといえることができます。折り紙に限っても、見立てによる折り紙作品を創作しているのは日本人だけではなく、世界中の折り紙作品に見立てが見られます。

19世紀の折り紙を見ると、日本よりむしろ欧州の折り紙のほうが見立てに強く依存しています。一例として、森脇家旧蔵資料にある「馬」(図5)と、ザクセンフォークアート美術館所蔵の「馬上の兵士」(図6)を比べてみましょう。ともに19世紀前半に折られたものですが、ドイツの馬のほうがより「普通でない」表現であることは明らかでしょう。

これまで、あらゆる芸術にある程度見立てが伴うと述べてきましたが、実は、全く見立てを伴わない芸術作品があります。抽象作品です。そして、折り紙にも抽象作品があります。実際のところ、折り紙の起源といわれているものは、日本の包みにせよ、欧州の洗礼証明書にせよ、特定の対象の形をかたどってはいません。

したがって、折り紙は見立てを伴わずに始まったともいえます。しかし、抽象作品ばかりが作られていたのでは、折り紙が現在のような広がりを見せることはなかったでしょう。折り紙は、見立てを獲得したことで、普及し発展する機会を得たといってもよいでしょう。



図4 神谷哲史「鶴」

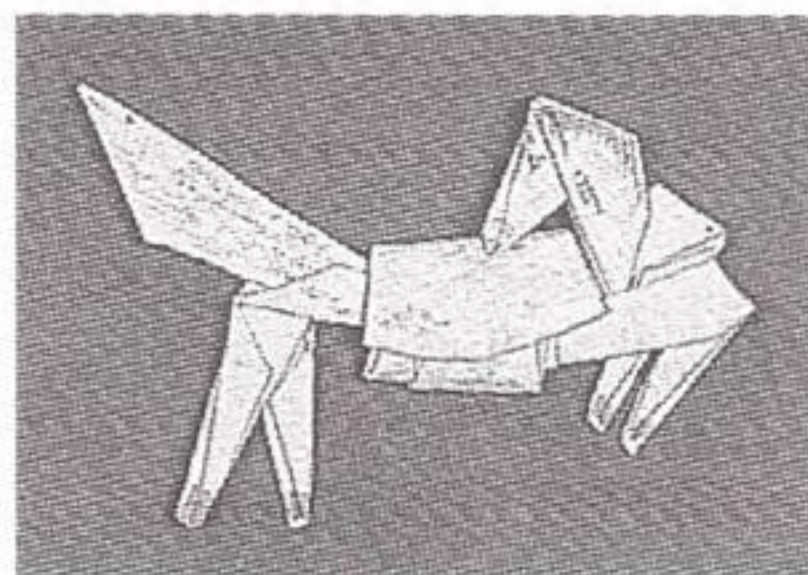


図5 「馬」



図6 「馬上の兵士」

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

川畑文昭

Kawahata Fumiaki

43冊目『一生スーパーコンプレックスおりがみ』吉野一生・著

“Issei Super Complex Origami” by Yoshino Issei

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/> にアクセスしてください。

◆著者・吉野一生氏について

吉野一生(よしの・いっせい)氏は1964年埼玉生まれの折紙作家。天才的な閃きと創造力により、次々と独自技法と作品を創作折紙の世界に送り出していった。この若き天才的折紙作家が癌に侵され、32歳の若さで惜しまれつつ亡くなったのは1996年のことであった。山口真氏は、吉野氏が存命中に作品集を完成したいと奔走したものの、病魔の進行は想像以上に早く、この本の完成を待たずして、吉野氏は旅立ったのであった。山口氏が巻末で「この本が若手折り紙愛好家達にとって良い影響を与えることを信じています」と述べているように、著者のエネルギーあふれる作品を後世に残す大変貴重な書籍である(写真1)。

◆掲載作品解説

この本は大きく2章に分かれ、I章は一生の挑戦と題し、吉野氏が描き

ためた数々の作品、II章は、トリケラトプス全身骨格より構成されている。

◇I章 一生の挑戦の作品紹介

・オートバイ

2種類のオートバイが紹介されている。1つはツーリングタイプ、もう1つはオフロードタイプ。いずれも2枚組作品である。2枚組作品といっても平易にするためだけではなく、オートバイのもつ躍動感を折紙で可能な限り表現するための挑戦的な複合作品であり、折工程には妥協はみられない。後で述べる恐竜骨格作品でもそうであるが、折紙により造形の限界と完成度の向上に挑戦しつづけた結果、時には不切1枚折りにこだわらず、新たな可能性に挑戦しつづけた作者の折紙スタイルが垣間見える作品である。

・兜

飾りを特に強調するわけでもなく、実戦的な戦国兜をみごとに折り上げている。技法的には、周囲を蛇腹折的に、中央部を伝統的な折工程でまとめた作品である。作者メモによれば1991年の作品であるが、今に発展をしている蛇腹と伝統技法の融合進化の技法の原点をそこに見ることができる。

・鮭

この作品が初めて発表されたのは1992年刊行の『折紙探偵団新聞』12号～13号である。風の基本形から折り始めるこの作品は、その後、幾多の折工程を重ねながら見事な鮭に折り上がっていく。今では魚類の創作折紙は多くの作家により考案されているが、当時としては魚類、かつ鮭という固有種を折るということは大変画

期的なことであった。探偵団新聞で発表された名作が、再びこの本で蘇ったことは吉野ファンにとってはたいへんありがたいことであった。尾ヒレの折り方がとても興味深い。

・虎

1995年、作者の短い生涯の比較的后期に創作された作品。当時はずでにinside-outによる縞の折り出しは知られていたが、あえてその技法に頼らず、虎のイメージを今にも獲物に襲いかかろうとする動きの一瞬をとらえることにより、見事に表現している。口の中の牙も表現されており、改めてその豊かな才能に驚かされる作品である。

・猪

龍のウロコ等に用いられる連続する段折り技法が体毛の表現に使われている。実はこの作品の折図は未完成であり、作者のオリジナル折工程は不明である。本書に収録されている折図は40工程まで描かれていたオリジナル図を基に、私(川畑)が作品(本書の巻頭作品写真に掲載されているもの)を参考に追加完成させていただいたものである。

・馬

吉野作品の代表作と言っても過言ではない名作。スピノサウルスの背中の帆の造形用に考案された技法をたてがみに応用したこの作品は、その後多くの作家に影響を与えた。最初に発表されたのは1994年の『折紙探偵団新聞』24号～25号の連載であった。創作過程は、綿密な設計というよりも、作者特有のイメージを重視して試行錯誤を繰り返す方法で作られた作品であり、幾多の試行を経



写真1『一生スーパーコンプレックスおりがみ』おりがみはうすより1996年10月20日刊行。現在はiOS向け電子書籍として発売中

○川畑文昭（かわはた・ふみあき）＝
1957年長野県生まれ、愛知県在住。
サラリーマン生活の傍ら創作折紙作品を
発表している。主な著書に『空想おり
がみ』（おりがみはうす）、『恐竜のおり
がみ』1・2・3（誠文堂新光社）等



て本書収録の形が完成している。

・プテラノドン

本書には、いくつもの恐竜関連作品が収録されている。このプテラノドンは（正確には恐竜ではなく翼竜であるが）指などの細かな折り出しにはあえてこだわらず、見事なデフォルメで翼竜の造形をおこなっている。

・アパトサウルス

この作品も折紙設計というよりもイメージ重視による試行錯誤的造形によっている。竜脚類恐竜は、体の大きさに反して表面が平坦であることから、折紙で創作しようとした場合は平面的な造形になりがちである。しかしながら本作は紙を折ってできる辺が外側にフォルムを強調させる形に重なって配置されており、立体感表現に一役買っている。従ってこの作品は大きな紙を使って折りあげても立体感を失うことが無い。

・スピノサウルス

1989年の作品。背中の帆には馬のたてがみのルーツとなった技法が見事に埋め込まれている。“ぐらい折り”になりがちな、“たてがみ折り”のコツを折工程毎に詳細に解説をほどこしてあり、折り手に対する作者の気遣い、心配りが感じられる仕上がりである。

・子供のティラノサウルス、ティラノサウルス

ティラノサウルスは1990年、子供のティラノサウルスは1995年の作品。当初のティラノサウルス作品に比べ、子供は構造や折り方が非常にシンプルに洗練されている。子供の造形を完成させていたとき、作者本人が「以前のティラノサウルスは、なんでこん

な難しい折り方をしていたのだろう」と話していたことを思い出す。作者にとって、折紙の進化とは複雑化のみではなく、シンプル化も重要な方向性であった。

・トリケラトプス

立体感あふれる体が無理なく表現されている。頭部は設計的要素が、胴体部は伝統的な造形要素が強く、様々な手法を組み合わせていた感性の高さがうかがえる傑作。作者はこの作品以前にも同様のテーマで多くの創作を重ねていたが、本作品はその最終進化形になっている。

◇II章トリケラトプス全身骨格

I章のトリケラトプスと対をなす形で全身骨格が紹介されている。本書のページ数の約3割にあたるP.139～199までを使って掲載されているこの壮大な作品は、吉野一生・著『ティラノサウルス全身骨格折図』おりがみはうす刊の続編作品であり、同一サイズの正方形を19枚（頭部3枚、前半身8枚、後半身5枚、尾3枚）を用いた複合作品でもある。同一サイズの折り紙使用にこだわる点は、やはり吉野氏が非凡な作家であったことの証であろう。折紙愛好家はもちろんであ



写真2 「トリケラトプス全身骨格」

るが、一般の恐竜ファンにとってもぜひ知っていただきたい作品である（写真2）。

◆ガレージブックシリーズ

おりがみはうす刊によるガレージブックシリーズは、出版社では取り上げにくい難解な作品にもスポットを当て、折図として出版することにより、創作折紙の世界を広く広めるという画期的な出版シリーズであった。一般書店では扱われておらず、おりがみはうすの直販になったのも仕方のないことではあるが、その献身的かつ画期的な活動は現在も継続されており、心から敬意を表したい。今もお多くの若手作家がおりがみはうす刊の多くの書籍によって刺激を受け続け、互いに切磋琢磨しながら、次々と育っていることについても書き加えておきたい。

◆最後に

天才折紙作家・吉野一生氏。あまりに短かった生涯であったが、この本では、いつまでも若々しい吉野氏の写真や作品に会うことができる。今なお健在であれば、どんな作品を我々に見せてくれていただろうか。若手作家が次々と生み出す独創的な作品を見て、どういう反応をしてくれたらうか。この本を手にするたび、そういう感情を思い起こさせてくれる、そんな一冊である。

ぼくらは 折紙探偵団

Here We Are, THE ORRIGAMI TANTEIDAN

第15回 「千羽鶴折形」再現録

Recreating Hiden Senbazuru Oriката

昨年の6OSMEに合わせ開設された「Web折紙アートミュージアム」(www.origami-art-museum.com)。現在ここで公開されている「『秘伝千羽鶴折形』の再現」は、東京友の会例会に参加する若手によって折られたものだ。本稿はその1人が「千羽鶴折形」再現に奔走した半年の記録である。

「千羽鶴折形を折ってくれない？」

そんな依頼を受けたのは昨年1月の勉強会だった。翌2月例会後に受けた説明によると、「6OSMEまでに『千羽鶴折形』の紹介ページを作るので、そこに載せる作例写真がほしい。そこで良い機会だから若い人に任せようと思った」との事。要するに、この時はアートミュージアムなる計画の存在など知らされていなかったのだ。

依頼自体は二つ返事で受けた。若手は大勢いるし、私自身「千羽鶴折形」は半分以上折った経験がある。正直「1人4、5個折ればすぐ終わる」と楽観していた。

作業はまず紙の準備から行った。それなりの質と量の紙を購入する必要があるが、不運にも最良の紙屋は改装中で、平日夕方までしかやっていない。効率化のため、あらかじめ鶴の基本サイズと最小サイズを決めておき、和紙をまとめ買いすることにした。用紙とサイズが決まり、サンプルを出してゴーサインをもらったのが3月末。そして作業の難しさを知るのも、これ以降であった。

さっそく本格的に作業を始めるも、一向に進まない。一度の集まりで片づくのは3つがせいぜい。原因は明瞭、依頼者の要求が「作品」ではなく「作品の写真」だったから。そう、折るだけでなく撮らねばならないのだ。

しかも完成形のみならず、切込みを入れた用紙、途中の折り形状に至るまで。その都度折る作業を止め、撮影作業が入る。始めた当初は面倒程度にしか考えていなかったが、実際やると停滞度合いは予想以上だった。おまけに撮影係の私はカメラに関してずぶの素人ときている。順調に進む

★トリビア★

今回の作業で使った和紙の総面積は、
約42000平方cm(15cm折り紙用紙187枚分)

わけがない。

そして撮影工程は、作業場を撮影機器があるJOASホールに限定させた。だが若手といえど今やほとんどが社会人、呼びかけてもそう集まらない。10も終わらぬまま迎えたゴールデンウィーク、2人きり(途中Twitterで「助けて」と呟いたら、1人仕事終わりに来てくれた)で千羽鶴に

このコーナーでは、折り紙に関するちょっとした疑問を探求し、ちょっと面白い雑学的な豆知識をご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽にwebman@origami.gr.jpまで電子メールでお寄せください。

堀口直人

Horiguchi Naoto

励んだ2日間は、ただただ絶望に浸る時間であった。

6OSMEとコンベンションの準備を考えると、6月までに片をつけたい。それまでは作品ごとに割り振った担当が裁断を含めた制作工程を全て行っていたが、やり方を一新することにした。まず私が事前に用紙を全て裁断し、撮影も済ませておく。そして人の集まる例会後に、紙をばらまいて折ってもらう。途中図の撮影さえその日のうちに済ませてしまえば、残り

の完成形の撮影は別日に一括して行える。この結果、5月～6月頭の間に40作近くを片づけることができた。

ちなみに「千羽鶴折形」の翻字を追加で頼まれたのもこの頃である。最初は断ろうと思っていたが、例会に来ていた中村智晴氏に持ちかけたら引き受けてくれたのだ。その時は彼があそこまでやってくれるとは思っていなかった。時たまこういうことが起こるのが、例会の面白いところだ。

ようやく作業が軌道に乗り出したとはいえ、6月半ばとなっても最大の

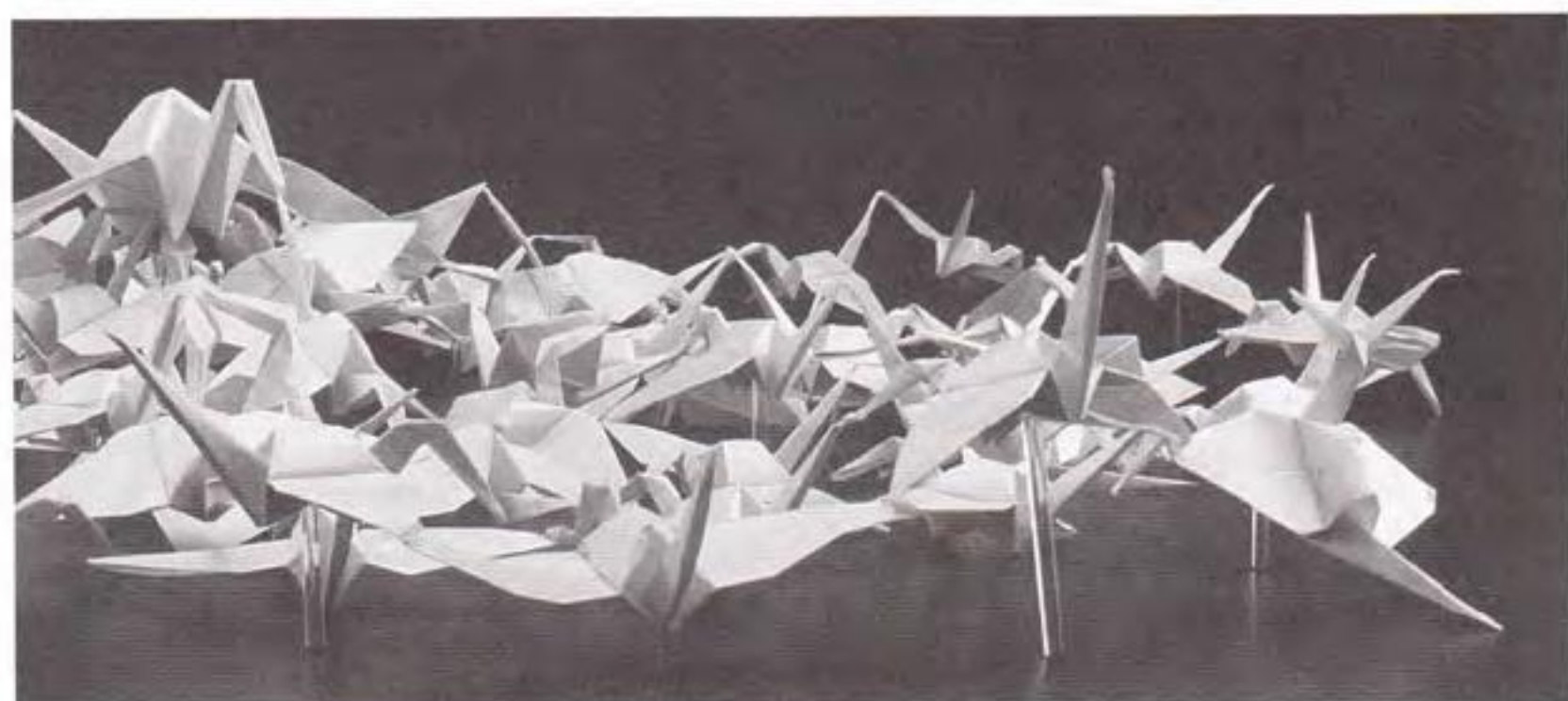


写真1 横から見た百鶴。長さの違うアクリル棒で小鶴に段差をつけてある

○堀口直人(ほりぐち・なおと)=座布団
折りして四隅の角が集まる側を表にして
折り鶴を折った時、尾と首の背側の折り
フチがばらけなくて綺麗にそろう折り技
術がほしいです。



障壁である「釣ふね」「迦陵頻」「百鶴」は手付かずだった。中でも手を焼いたのが「百鶴」で、切り込み・途中段階・完成までの各作業を自宅で行ったため、撮影の度JOASホールまで運搬せねばならなかった(しかも3日もなぜか雨)。また「百鶴」は撮影でも苦労を要した。「釣ふね」「布晒」「風蘭」など、連鶴は撮影に什器が要するものが多い。「百鶴」もそうで、鶴に高さをつけるため、台を自作せねばならなかった。

最後の「迦陵頻」を撮り終えたのは7月の半ば。そして折紙アートミュージアムの打ち合わせに参加し、「こんな大層な企画に使うのか!」と打ち震えたのも同じ頃であった。

苦労自慢ばかりしても仕方ないので、制作側からの見どころをいくつか紹介したい。1つ目は多数の改訂案。本誌読者には釈迦に説法だろうが、「千羽鶴折形」原典の切り方図にはいくつかミスがある。当然ここには

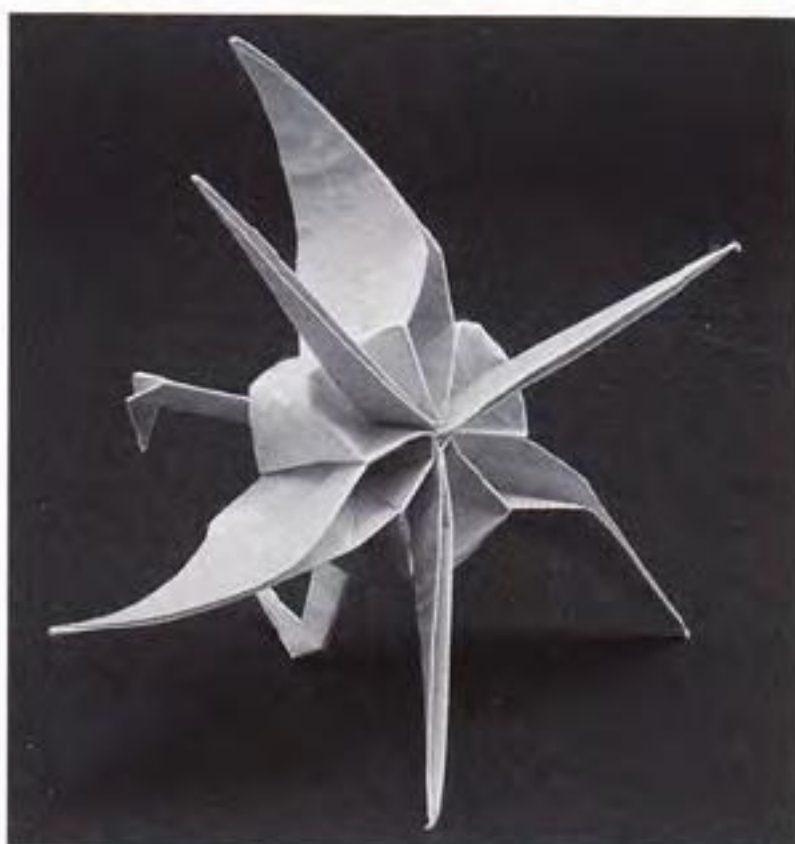


写真2 澤瀉(切り方図準拠) 後ろから見ると機械のようなフォルムをしている

見解の余地がある。今回の作例では岡村昌夫氏の著書『つなぎ折鶴の世界』に準拠し、原本修正案の他、掲載されている13の別案も全て折った。原典と写真を見比べながら、研究者の意図に注目するのも面白いと思う。特に見本絵寄りか切り方図寄りかでまったく異なる表情を見せる「澤瀉」は、驚かされた作品だった。

もう1つ、作例見本を様々な角度から見られることがある。これは事前に要請を受けていた点で、今回の展

示の大きな見どころだろう。1000枚近く撮影する中で「見慣れないけどちょっと面白いアングル」を見つけてはっとすることもあった。真上から見た「蓬萊」、正面下から見た「春の曙」、後方から見た「村雲」「竜胆車」などがお気に入りである。

と、ここまで思い出を色々と振り返ってきたが、心残りもある。例えば紙。今回は手間の関係から全て同じ和紙で折ったが、最適な厚みは作品によって異なる。事実、紙が薄すぎてピシッと折れてい

ない作品がチラホラある。理想を言えば、

作例に合わせ和紙の厚みを変えるべきだった。また、切り方図と見本絵双方に問題がある「瓜の蔓」などは、他の研究者の作例案なども載せたいところであった。これについては今後作例を追加してくれる人が出てくれるとありがたい。

最後に感謝の意を込め、今回の作業に協力してくれた方を紹介する。また撮影機器を貸して下さったおりがみはうすに深くお礼申し上げたい。

・今回の作業に携わってくれた若手一同

(敬称略)

作品制作:大内康治、森末圭、各務均、鈴木優作、室屋洋輔、谷田尚之、松田景吾、笹沼勇人、高村侑樹、宮本宙也、原司、大場雅人、井上俊介、松井恵里香、小菅章裕、板垣悠一、堀口直人

翻字作業:中村智晴

★トリビア2★

原図と切り方図とで、まったく表情が異なる連鶴がある

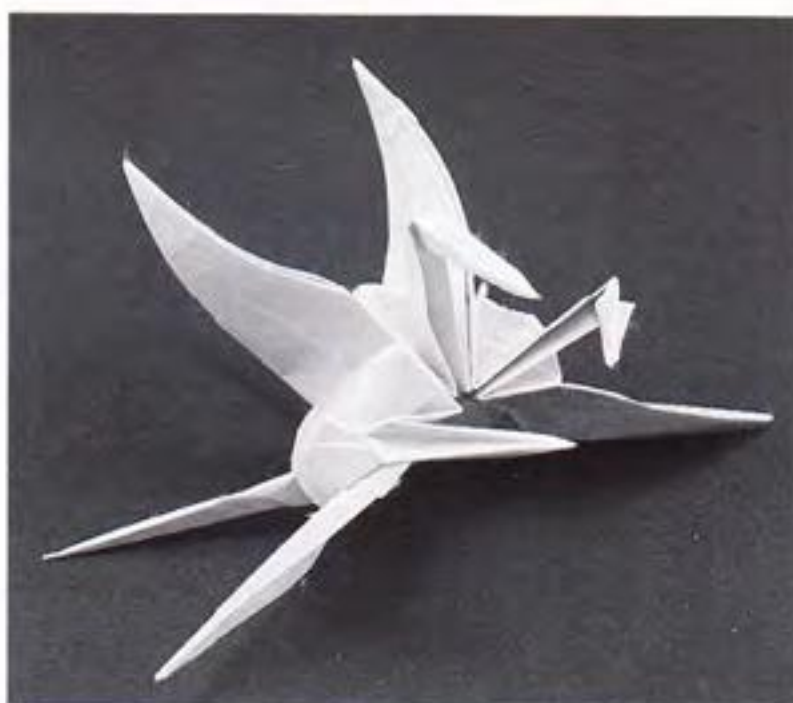


写真3 澤瀉(見本絵準拠) こちらは空想動物のような有機的フォルム

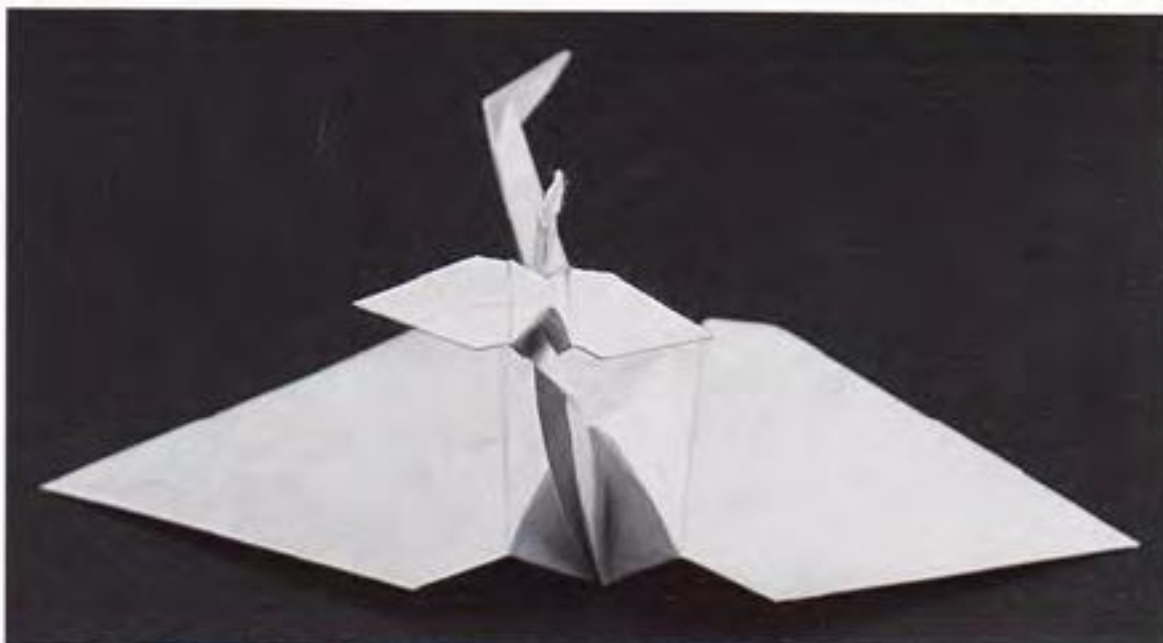


写真4 村雲(後方上より) 小鶴から見たアングル。大鶴のスケールを感じる

今号の折り図・展開図掲載作品より

解説：北條高史 (P.20-21)

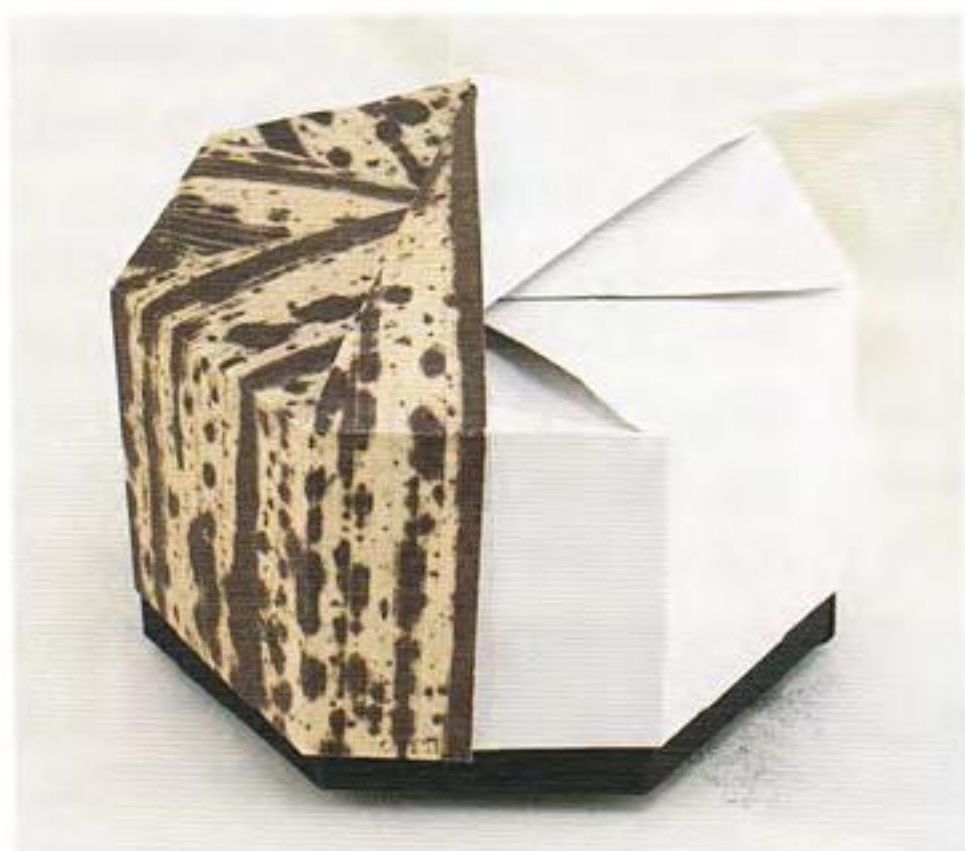
Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Hojyo Takashi (P.20-21)

暖房の効いた部屋に折り紙があれば、ここから抜け出すのは至難の業。新作を模索したり、ユニットを量産していたらいつの間にか一日が終わっていた…という正月、来年もまたやってしまうのか。

「正7角箱／星の容器」 作：川崎敏和(P.4)

Heptagonal Box, Star Box:
Kawasaki Toshikazu (P.4)

■折り目に沿ってねじってみると、なぜかいつのまにか多角形の箱型におちついてしまう!? 自動的に進むかのように思える工程の不思議感覚を、ぜひ味わってみてください。さらに改造を加えれば星形にすることも可能。用紙表裏の色がぴったり半分ずつ現れて、強烈で新鮮な印象となっています。



「4枚組みのトレイ／椿」 作：やまぐち真(P.8)

Tray with Four Modules, Camellia:
Yamaguchi Makoto (P.8)

■色紙や壁面構成の中で、まったくの平面であるにもかかわらず、はっとするような立体感を付け加えられるデザインとなった「椿」。さらに、風車のような模様が中心に出てきて華やかな印象の実用作品「トレイ」。今回の我楽多市は2本立て、折り作業の過程はもちろんのこと、活用方法を考えることも非常に楽しい作品です。

「ジャッカロープ」 作：神谷哲史(P.26)

Jackalope: Kamiya Satoshi (P.26)

■「複数の異なる生物を合成した空想動物」は多々あれど、「一体どういう経緯で、こんなアヤシゲな組み合わせを思いついたのだろう?」と考え込んでしまう題材。柔らかさ・かわいらしさを盛り込みたくなる本体部分と、蛇腹構造が入り組んで硬質な印象のツノ。仕上げの加工ではどのようにバランスさせるのが良いか、工夫のしがいがありそうです。



「ガルーダ」 作：神谷哲史(P.38)

Garuda: Kamiya Satoshi (P.38)

■展開図の中で翼や尾羽については、骨格となる構造・基本的な折り線だけが図示されています。そのため仕上げの段階では、折り手のさまざまな工夫や解釈を盛り込んでゆく必要があります。意識・感情のゆれ動きをそのまま作品に取り込んで、勢いにまかせて「そのときにしかできない完成形」を取り出す。このような作業過程も非常にエキサイティングだと思います。



第8回折紙探偵団静岡コンベンション

From the 8th Origami Tanteidan Shizuoka Convention

■10年ぶりに開催された静岡コンベンション。会場は三保の松原に近いということもあって、観光がてら参加された人も多かったようだ。講習では、ゲストのベス・ジョンソン氏の「ひつじ」（本誌148号に折り図掲載）が大人気で、2回の講習はそれぞれ満員御礼だったようだ。

展示作品

展示スペースにあった▶
こちらの「ひつじ ver.3」は、
毛皮の部分が金属で
できている



▲三保の松原から見た富士山。会期中は天候にも恵まれた



Beth Johnson

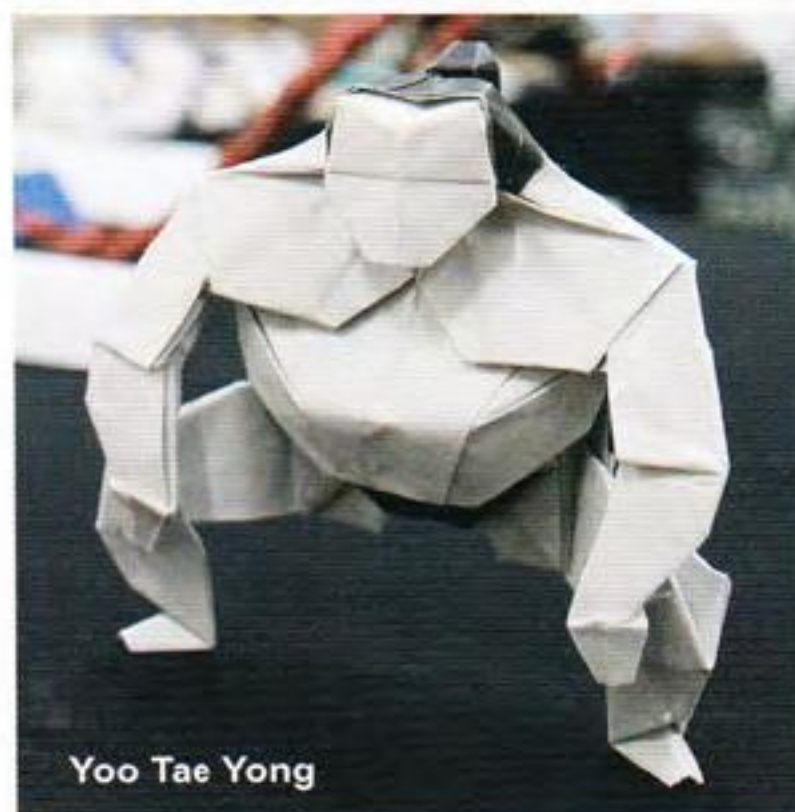


Beth Johnson

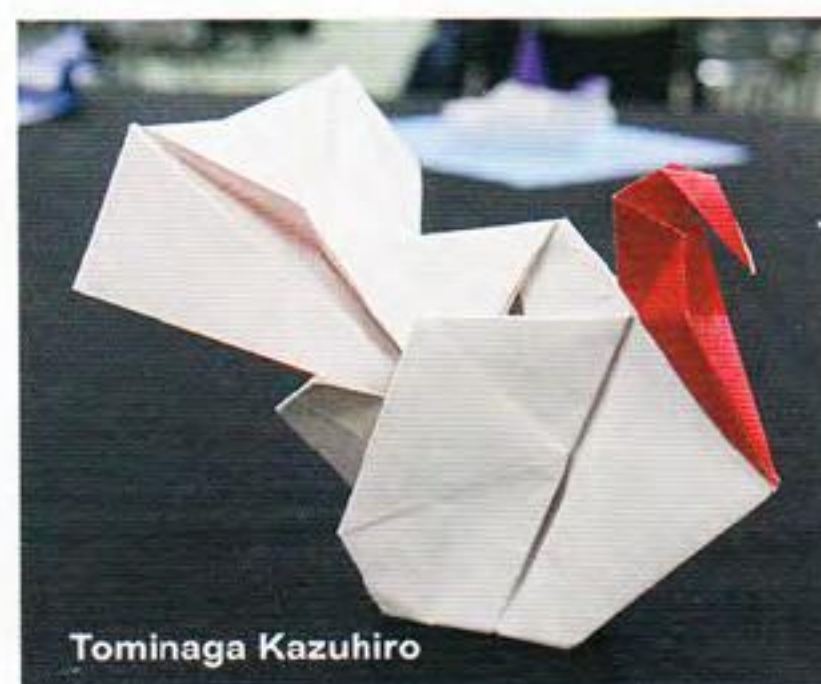


Beth Johnson

■ベス・ジョンソン氏の作品は、写実的な表現と幾何学（平織り）的な表現が融合したものが多い。コンプレックス好きと平織り好きの両方から支持されているようだ。



Yoo Tae Yong

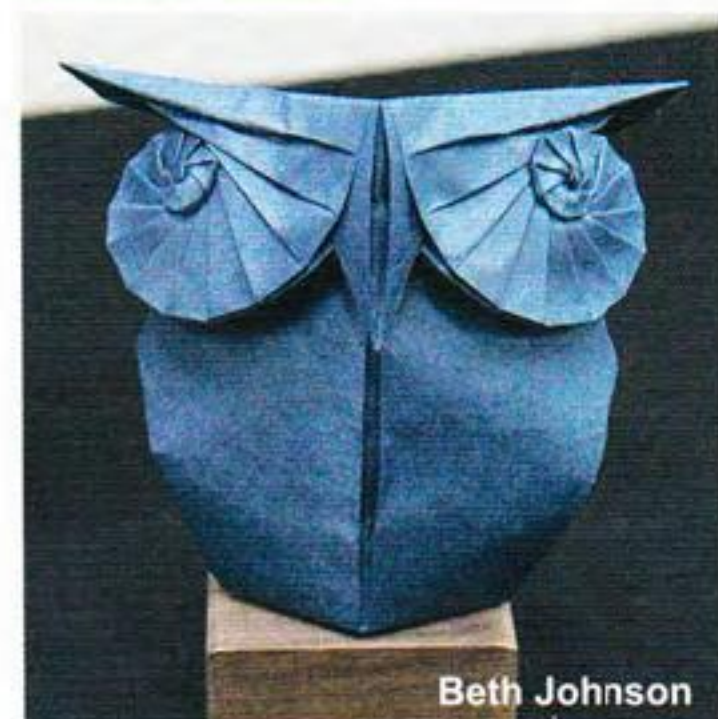


Tominaga Kazuhiro



Tsubo Tadashi

講習作品



Beth Johnson



Kawahata Fumiaki



Inayoshi Hidehisa



Yamaguchi Miyako

講習風景

■講習は、大広間を3つに分けたスペースと、3つの会議室を使って行われた。



▲3つに区切った大広間での講習



▲会議室にはやわらかな日差しが降り注ぐ



▲日本に留学中のユ・テヨン氏



▲「ひつじ」の講習を受ける参加者達と、講師のベス・ジョンソン氏、通訳のマルシオ・ノグチ氏



▲新聞紙を折って作品を作るユニークな講習も



懇親会

■本大会の目玉の1つは、水族館での懇親会。一番大きな水槽を囲んでの立食パーティ。これに参加したくて、コンベンションに申し込みした人もいたようだ。食事が一息ついたところで、「片手で折り鶴を折る」というゲームも開催されて、大いに盛り上がった。



▲外国人勢も参加

▲両手にそれぞれ紙を持って折る余裕を見せた羽鳥氏



■審査は、作品に番号を振って、参加者に投票をしてもらう人気投票形式。その結果、15番の稲吉氏が優勝者となった。

折り紙コンテスト

■静かな盛り上がりを見せたのは、「富士山を折る紙」を使った作品コンテスト。紙は1人に1枚ずつ配られた。2日間の間にじわじわと作品が増えて、最後には32作品(?)が集まった。



▲コンテストに使われた紙。色は6色



Inayoshi Hidehisa

15



Kakami Hitoshi

9



Ashimura Shunichi

10

折紙探偵団東京友の会例会より

From the Regular Meeting of
Origami Tanteidan Tokyo Group

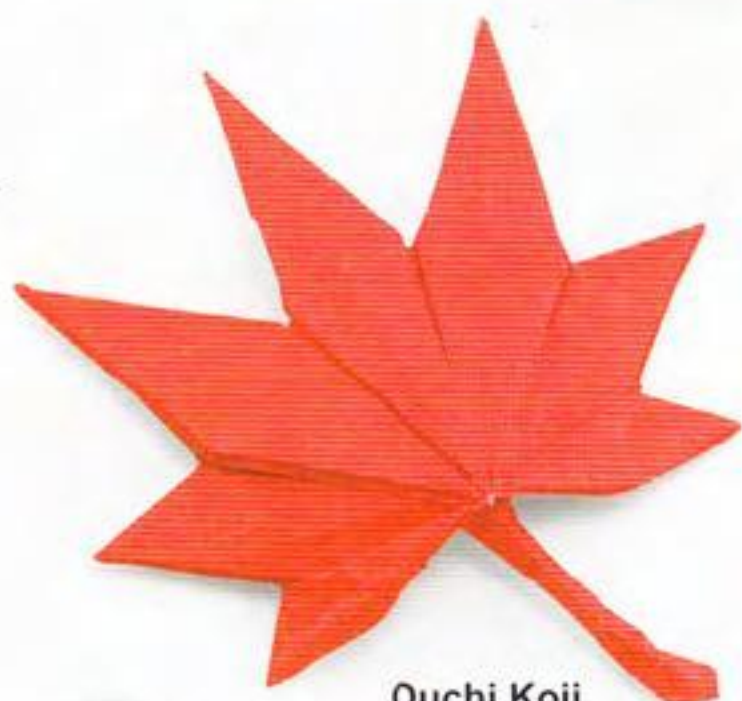


Hagiwara Gen



Imai Kota

▲今井幸太氏による『龍神3.5』(作:神谷哲史)は、
30cm四方の紙で折られている



Ouchi Koji



Hagiwara Gen



Hagiwara Gen



Kawashima Hideaki



Horiguchi Naoto



Mineo Shotaro
(Age 14)



Yoo Tae Yong

秋の折り紙サークル学祭展示レポート 2(P.41)

Report on the Exhibits of Origami Circles for Fall 2014 Part 2 (P.41)

■「前号に引き続き、11月22～24日に東京大学「駒場祭」と慶應義塾大学「三田祭」で行われた折り紙サークル展示を見学してきた。」(P.41より)



▲東京大学
「フロッピーディスク」新井悠介・作



▲東京大学体験折りスペース



▲東京大学駒場祭公式マスコット「こまっける」
道場貴大・作



▲慶應義塾大学展示場全景



▲慶應義塾大学 水野 翔・作



▲慶應義塾大学 富田岳陽・作

Origami ATC研究会より

To the Participants of the Workshop for Origami ATC

■ATCとは、アーティスト・トレーディング・カードの略。2.5×3.5インチ(約64×89mm)のカードに好きなように表現して、交換するというものだ。Origami ATC研究会は、JOASホールで2ヶ月に1回開かれている折り紙を使ったATC愛好家の集まりだ。会では、各自制作してきたカードの交換や情報交換をしたり、全員で同じ材料を使ったカードを作って比べたりしている。参加資格などは特にないので、気軽にご参加いただきたい。(要事前登録) <http://www.origamihouse.jp/informations/joascourse/index.html>

前回(2014年12月4日)のテーマは「クリスマス」でした。

Origami ATC交換会(2015年2月5日)の
郵送参加方法

◆作品規定

- ・2.5×3.5インチ(約64×89mm)で作成する。
- ・折り紙の要素を1つ以上入れる。
- ・定形郵送するため、厚みは8mm以下にする。
- ・テーマ:いきもの
- ・裏面には、A.作品の題名と、B.作者名(ハンドル可)、C.使った折り紙作品の名前と創作者名、又は参考文献名とその著者名の3つを必ず記入のこと。できれば作成日やコンセプトも書くといよい。

◆応募方法

- ・Origami ATCを3枚(1口分)作り、宛名(名前に「様」も)を記入して82円切手を貼った返信用封筒を同封して、おりがみはうすへ送付する。
- ・返信用封筒(1口ごとに1枚)は、「長形3号(120×235mm)」を使うこと。

Origami Artist Trading Card

Title:	大輪のバラを君に。
Name:	スタッフhanako
HP, ブログ	スタッフhanakoの おりがみはうす日記 http://ameblo.jp/hanako-origami/
作品について	折り紙の作者名・作品名を記入 (120×235mm) (厚みは8mm以下)
	バラ (山口 真・作) 「すてきな花の折り紙」(P.117)より
	2014年11月15日

▲裏面表記の例

▲この黒枠が2.5×3.5インチ(約64×89mm)

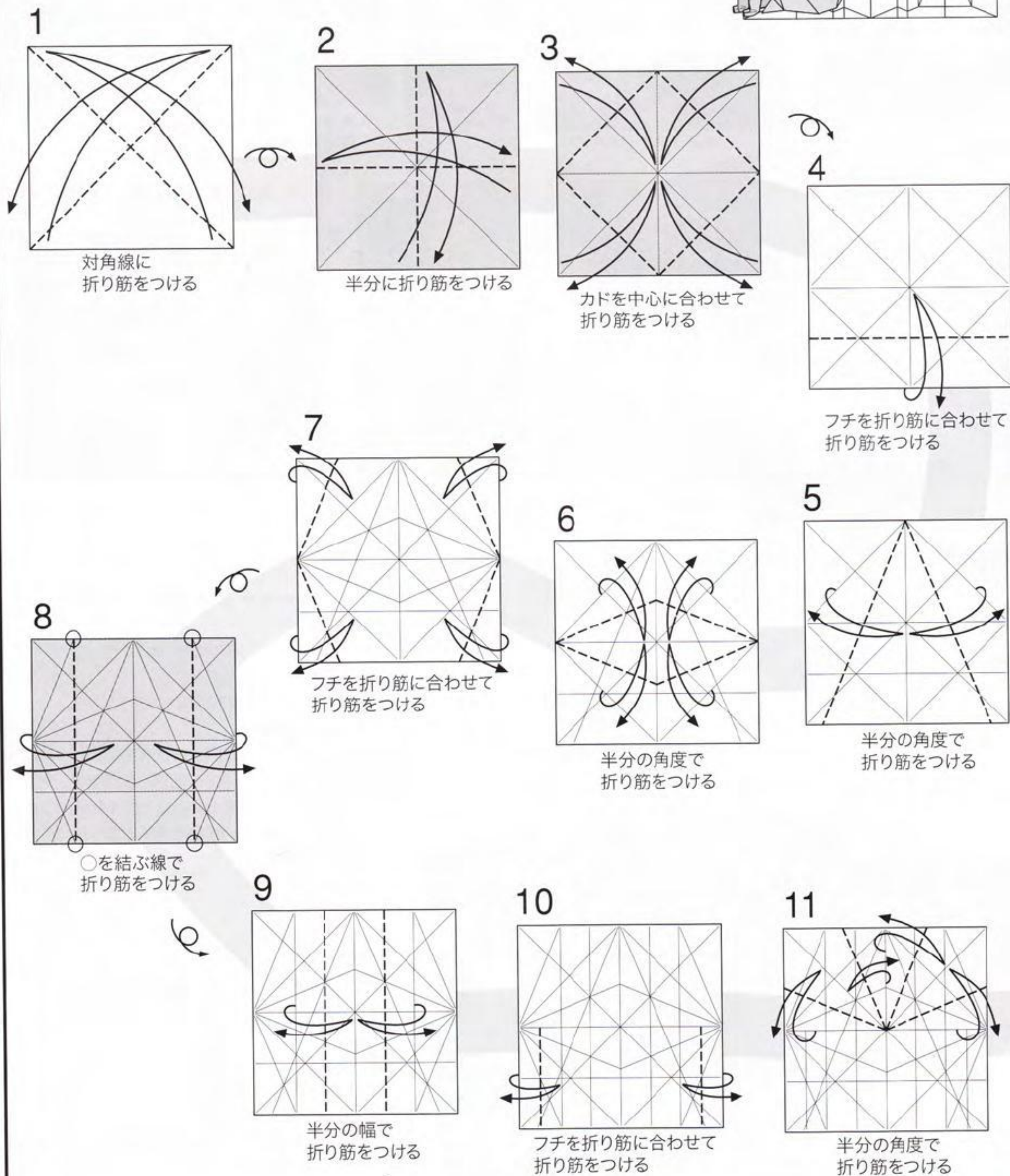
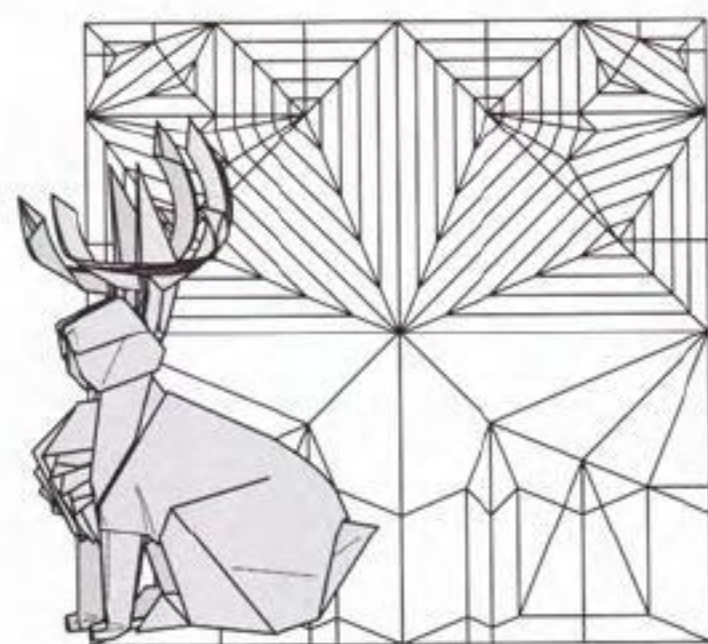


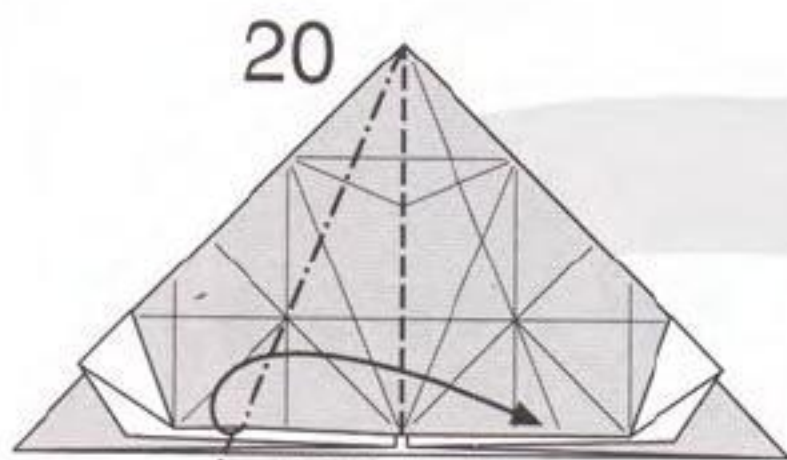
タイトル:サンタ in スノードーム
作者:高智千鶴子
使用作品:ATCのためのサンタ(小松英夫・作)、
き、くつした(山口 真・作)

ジャッカロープ Jackalope

神谷哲史

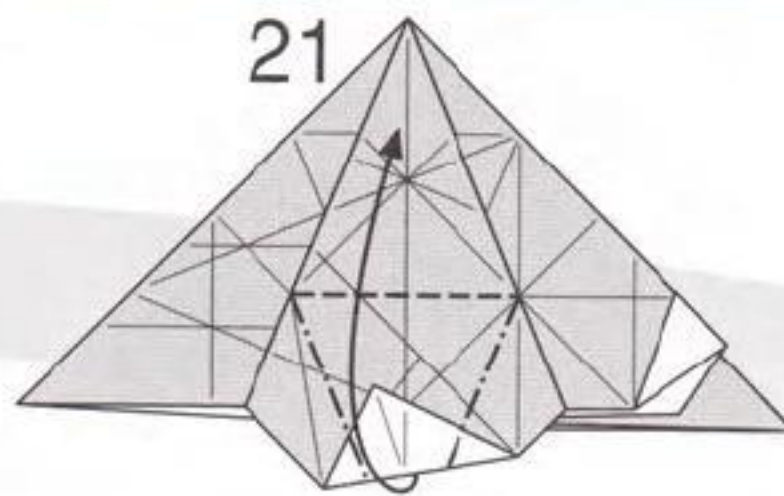
Model & Diagrams by Kamiya Satoshi





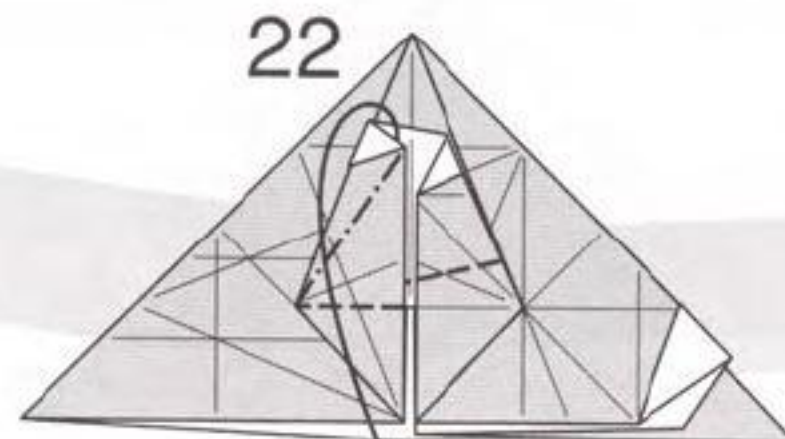
20

内側を広げて
つぶすように折る



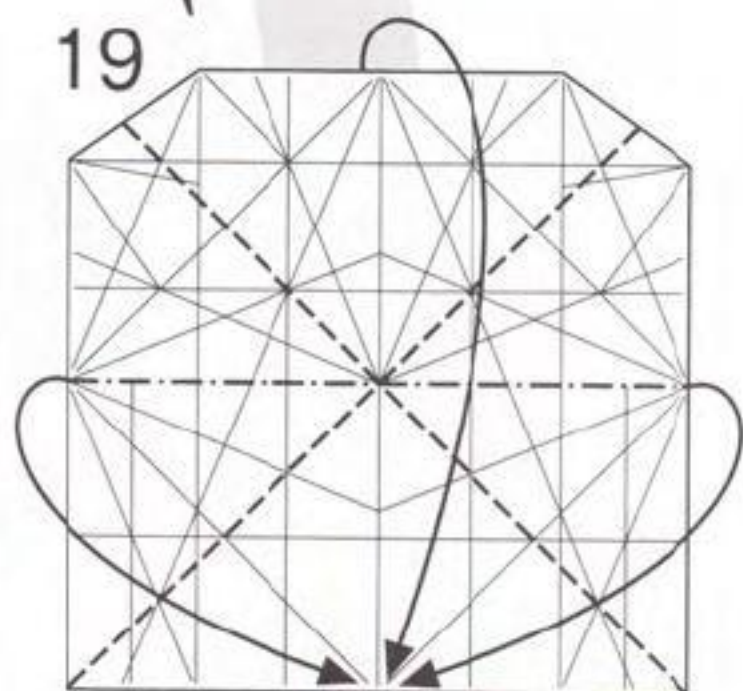
21

内側を広げて
つぶすように折る
(花弁折り)



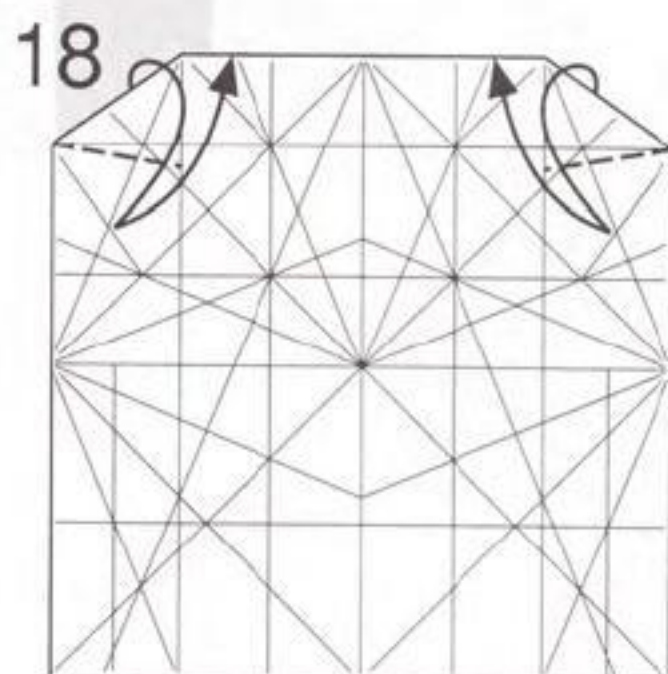
22

ついている折り筋を使って
内側を広げて
カドを下へ折る



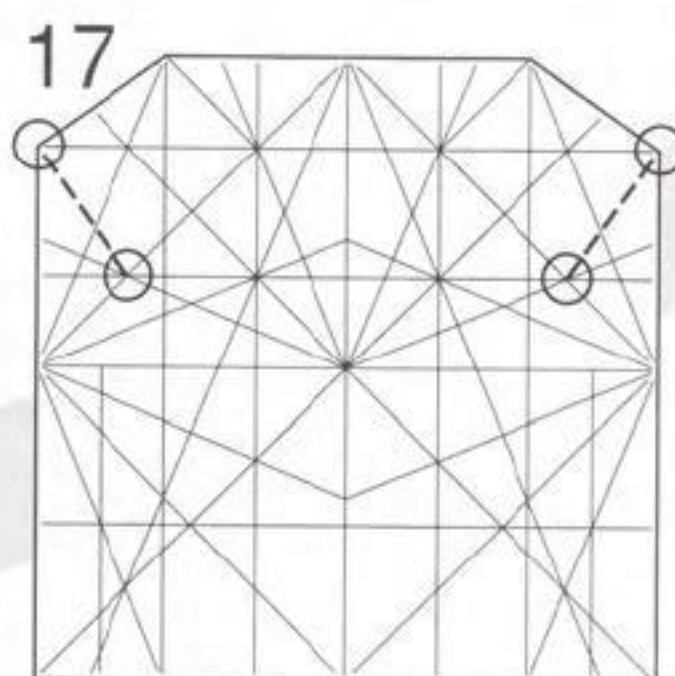
19

風船の基本形状に
折り畳む



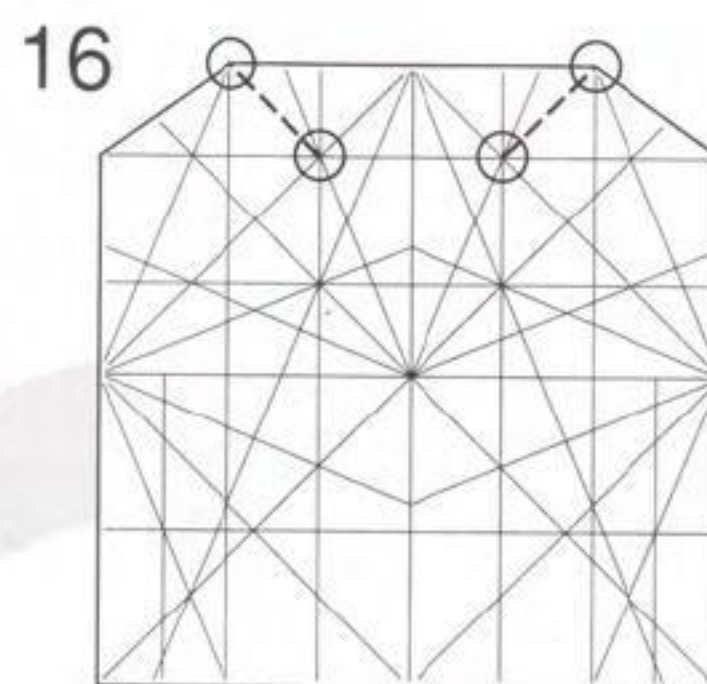
18

フチを折り筋に合わせて
折り筋をつける



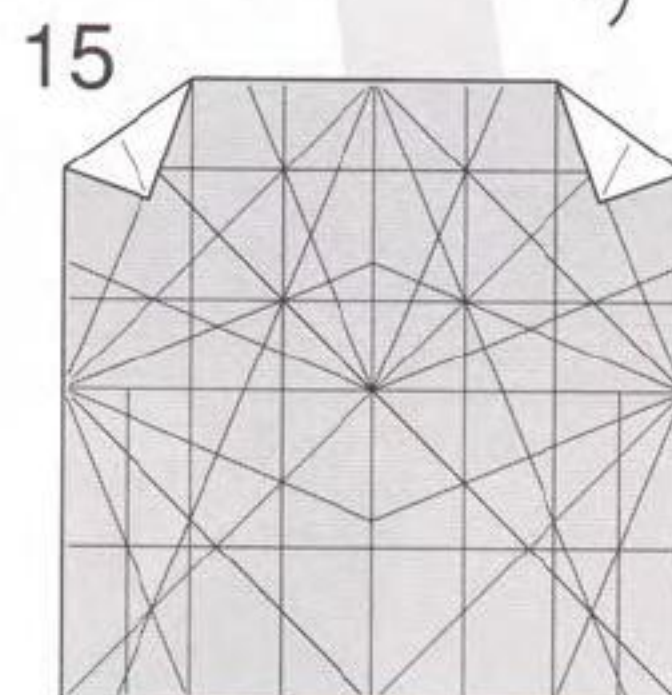
17

○を結ぶ線で
折り筋をつける
(45度ではない)

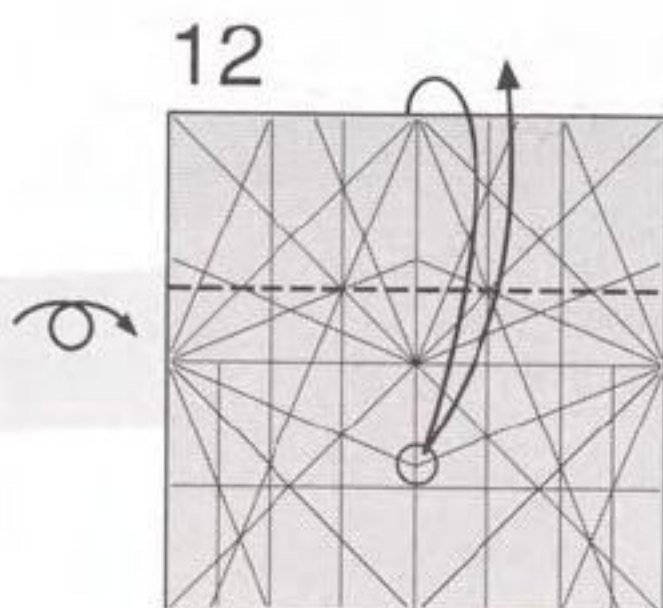


16

○を結ぶ線で
折り筋をつける

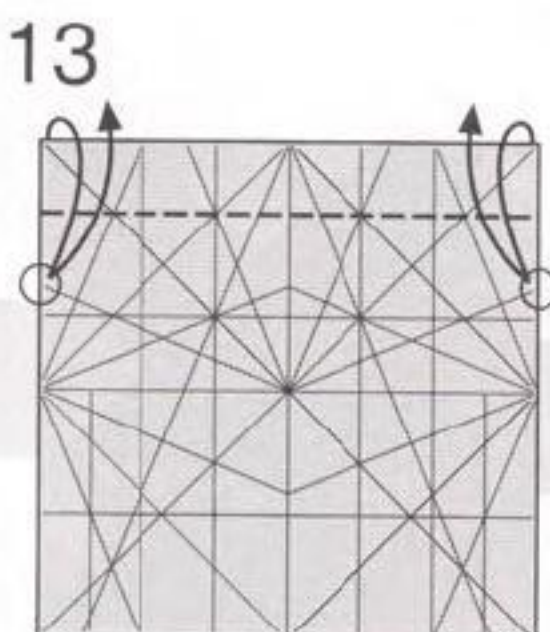


15



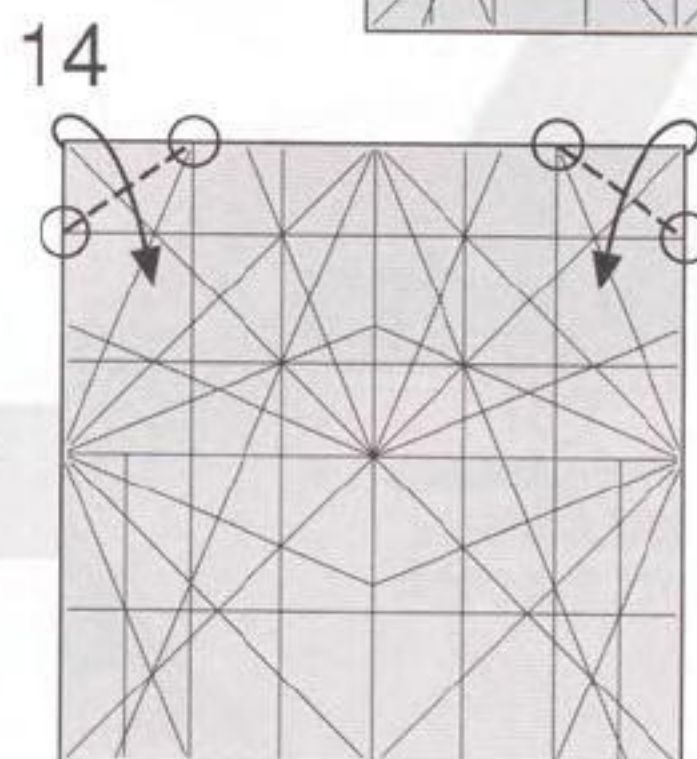
12

フチを○に合わせて
折り筋をつける



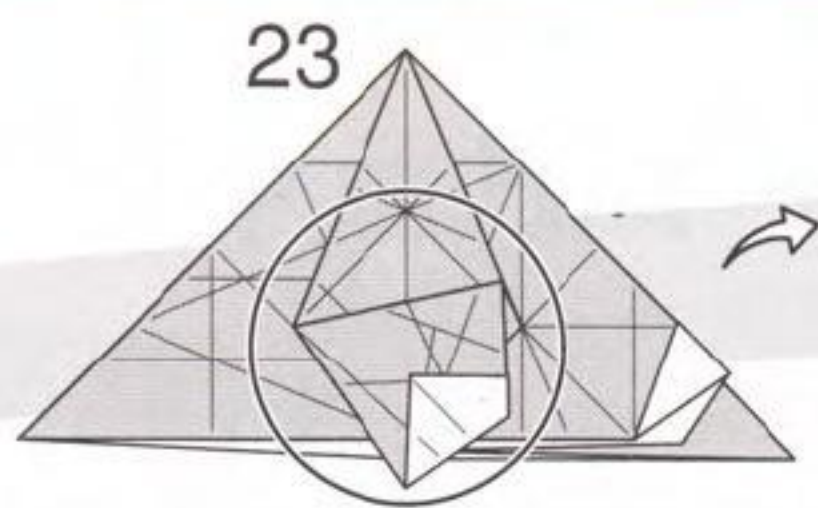
13

カドを○に合わせて
折り筋をつける

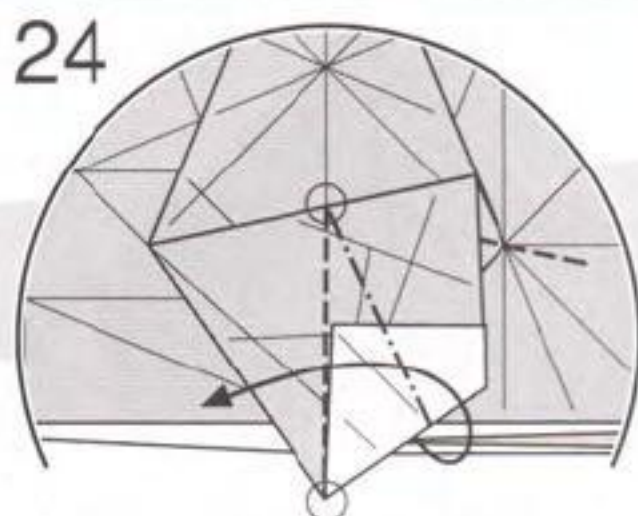


14

○を結ぶ線で折る

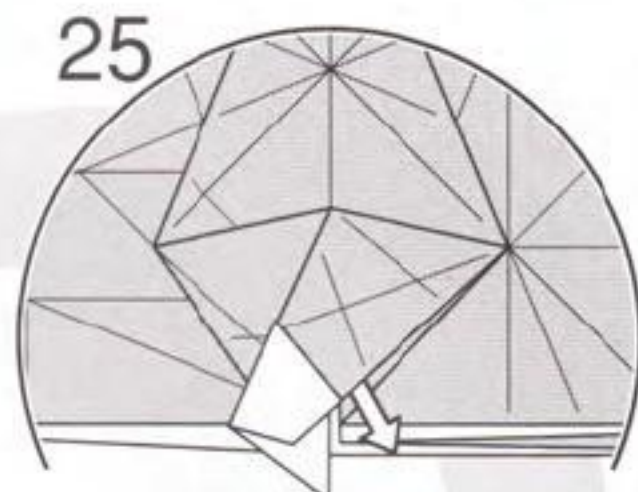


23



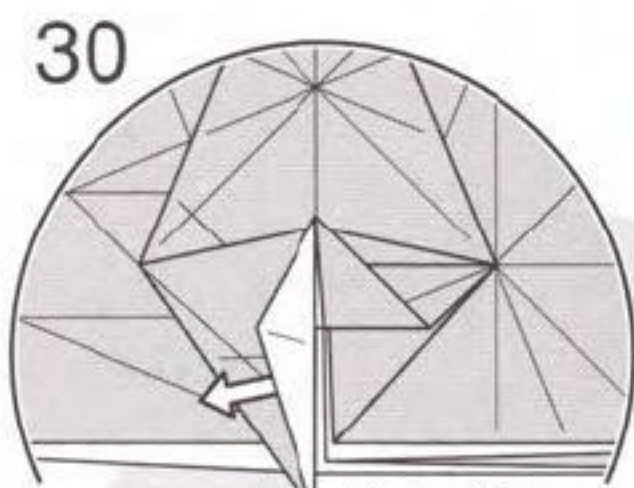
24

○を結ぶ線で
つまむように折る



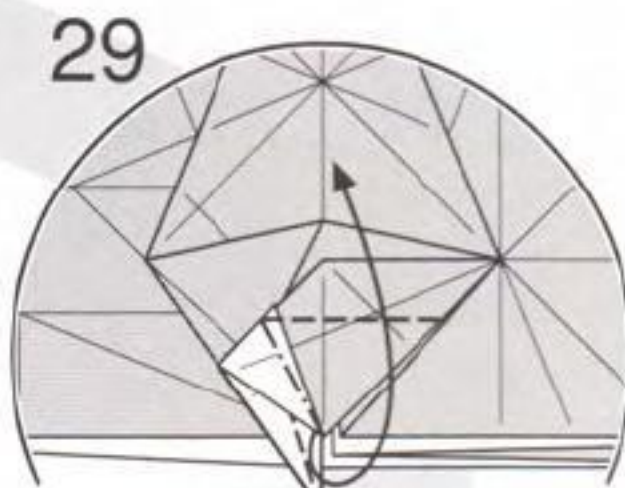
25

内側のカドを引き出す



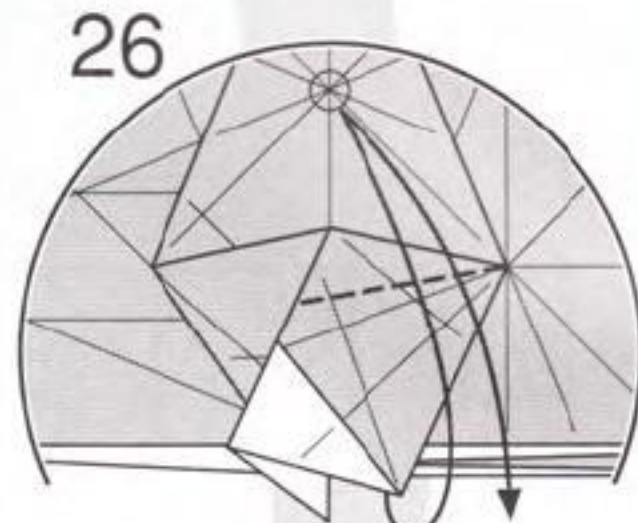
30

後ろの紙を
引き出す



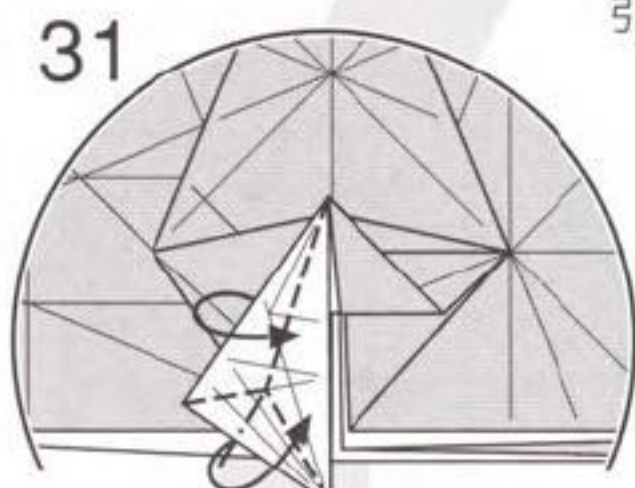
29

内側を広げて
つぶすように折る



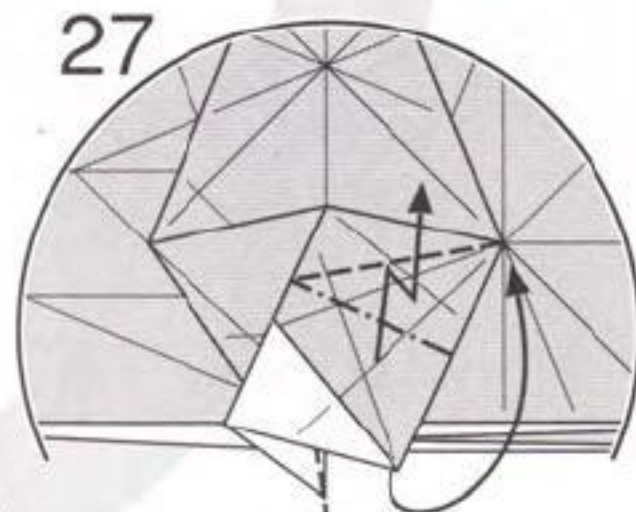
26

カドを○に合わせて
折り筋をつける



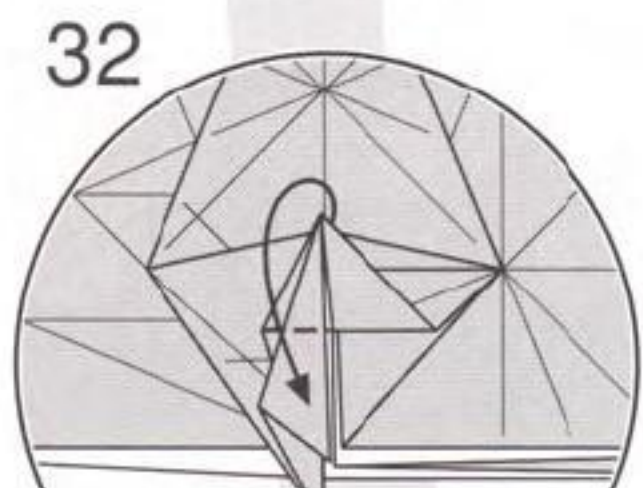
31

カドをつまむように折る



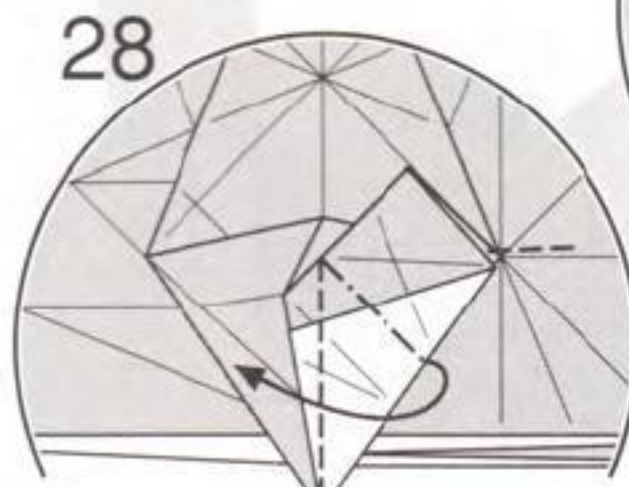
27

ついている折り筋を使って
カドとカドを合わせて
ずらすように段折り



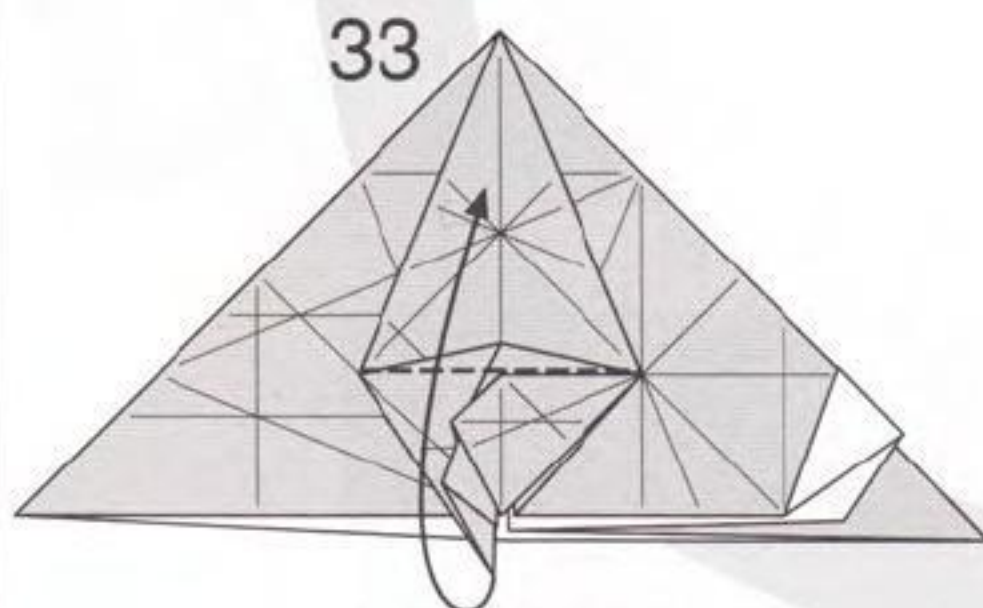
32

カドを下へ折る



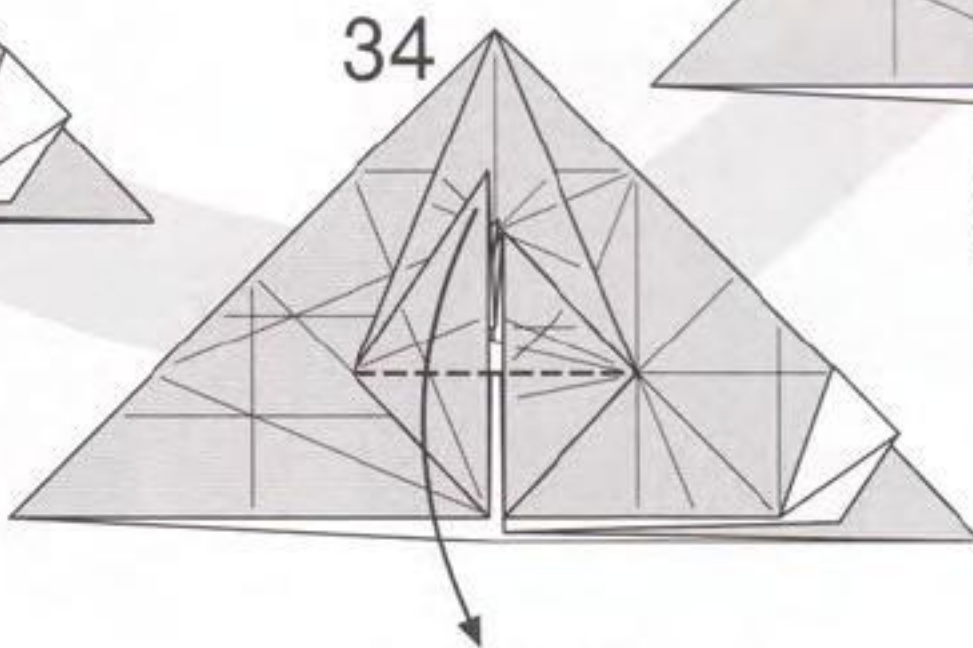
28

内側を広げて
つぶすように折る



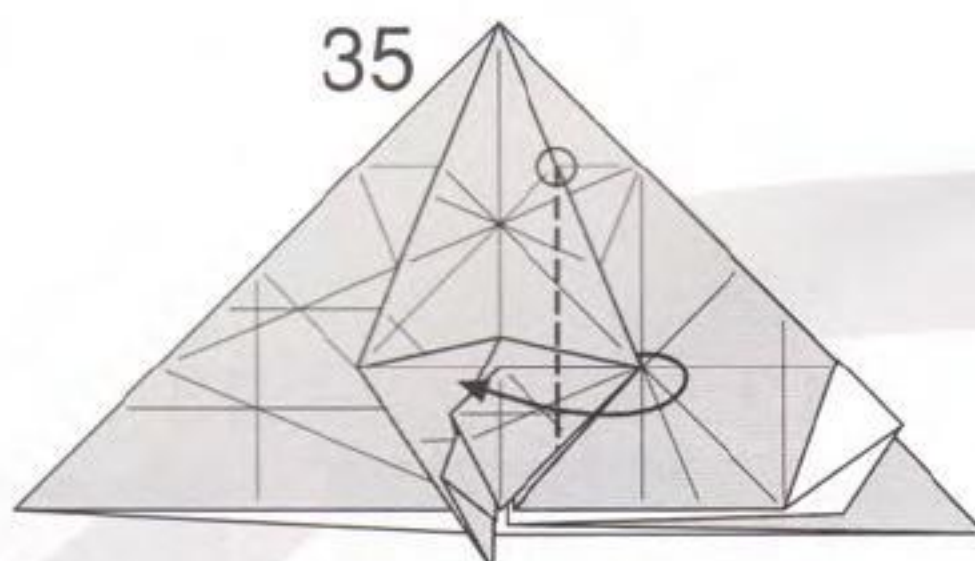
33

内側の紙の重なりを
整えながら
カドを上へ折る



34

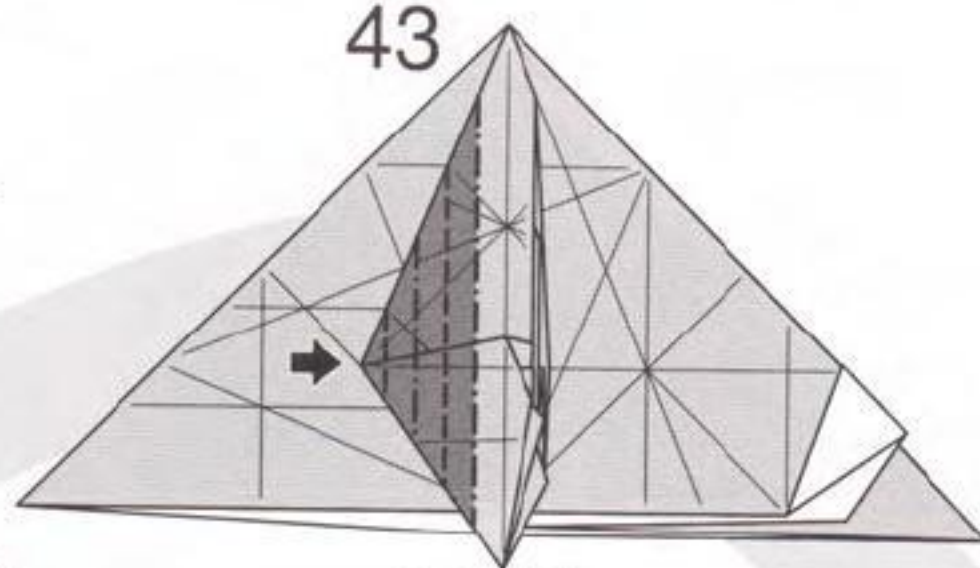
カドを下へ折る



35

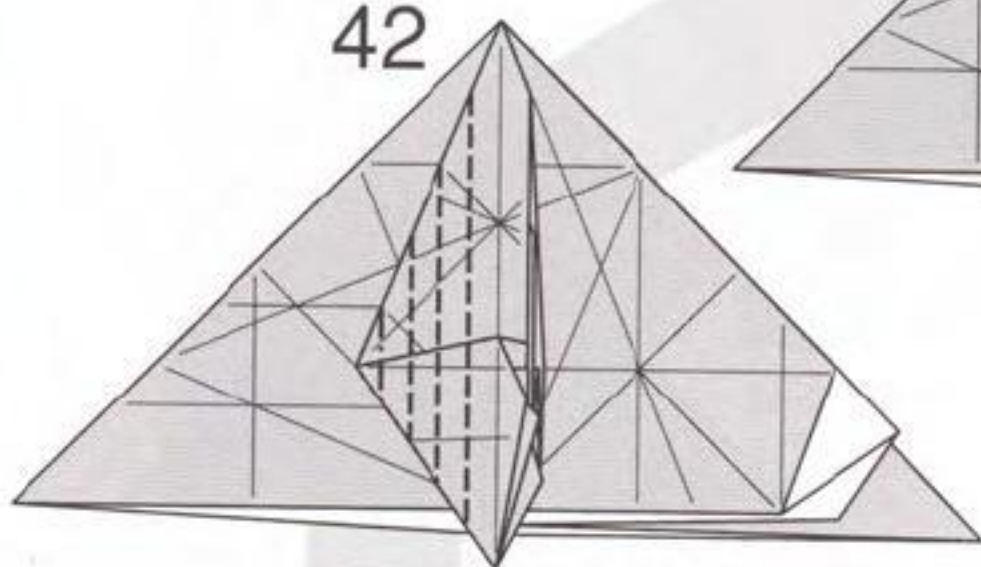
○のところから
垂直に折る

43

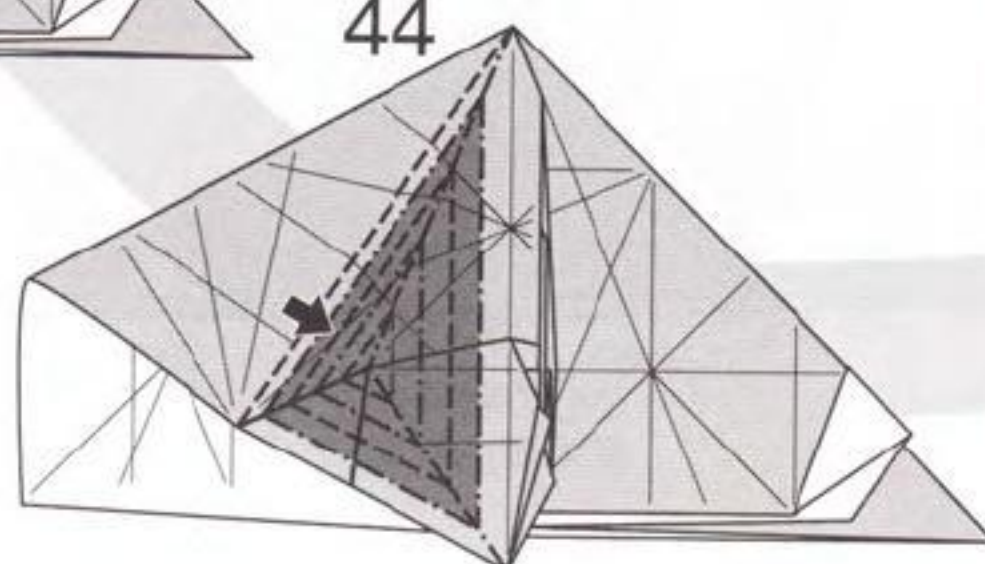


しずめ折り

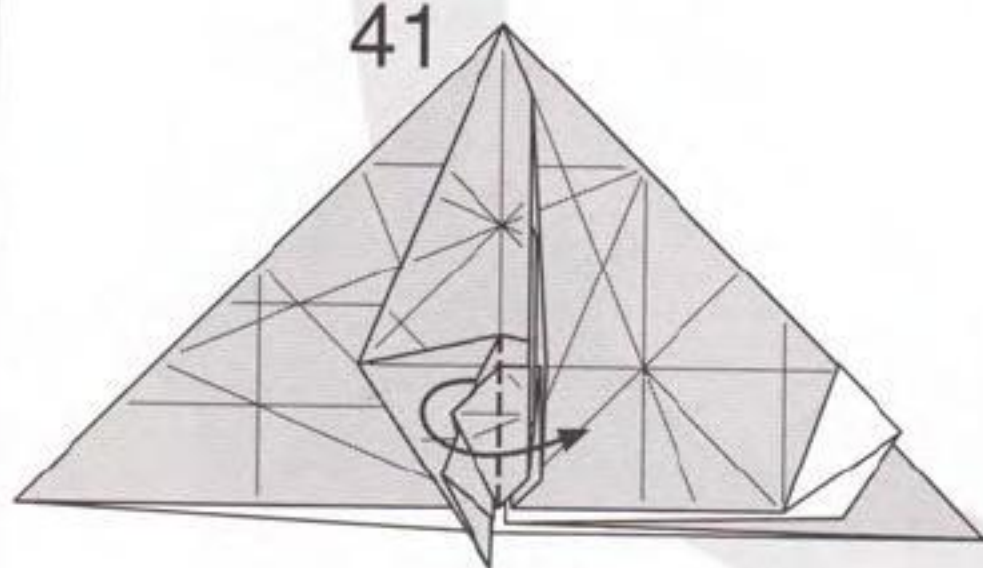
42

35-38と同じようにして
折り筋をつける

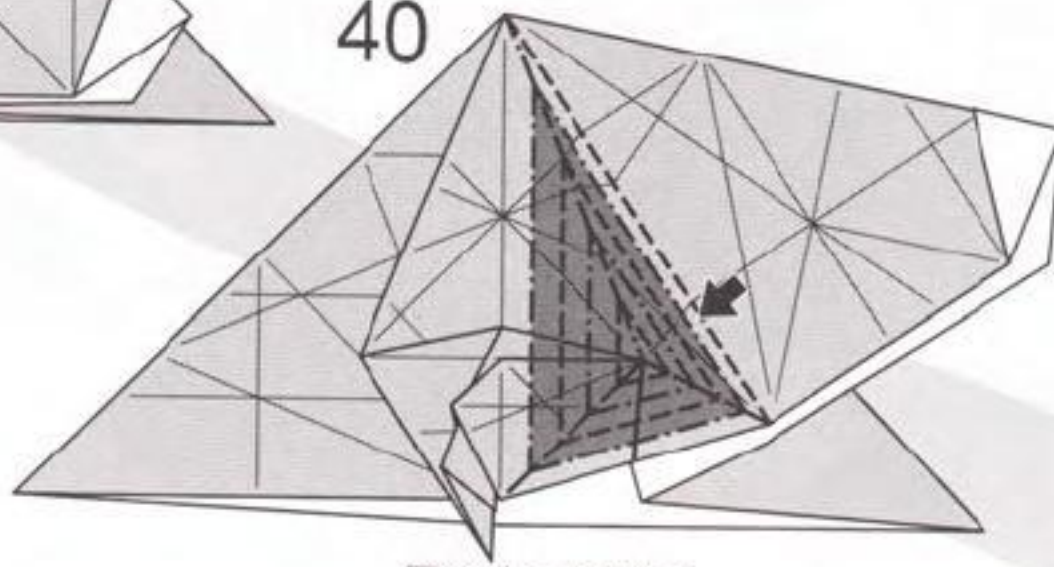
44

図のような形で
しずめ折りする

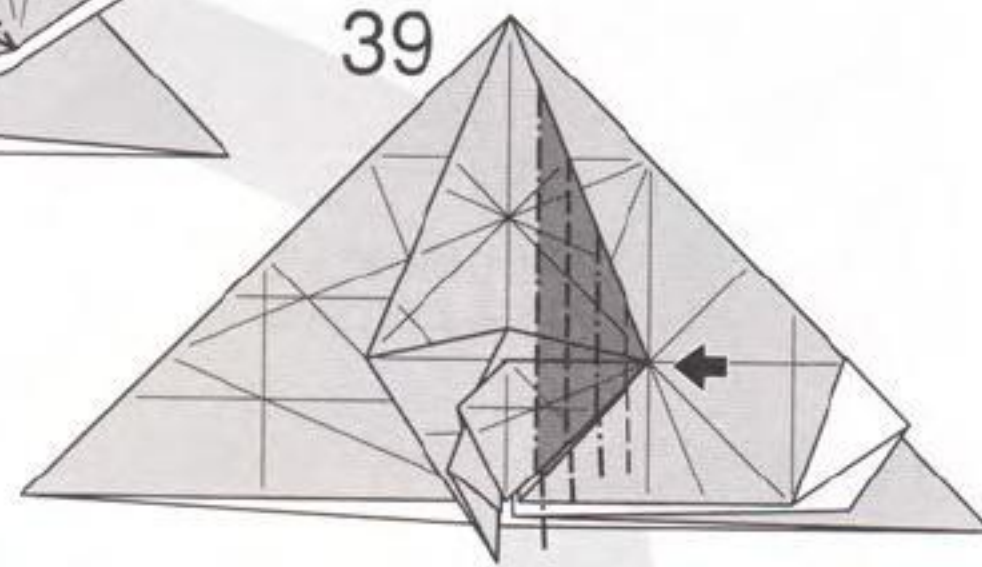
41

手前の部分を
反対側へ折る

40

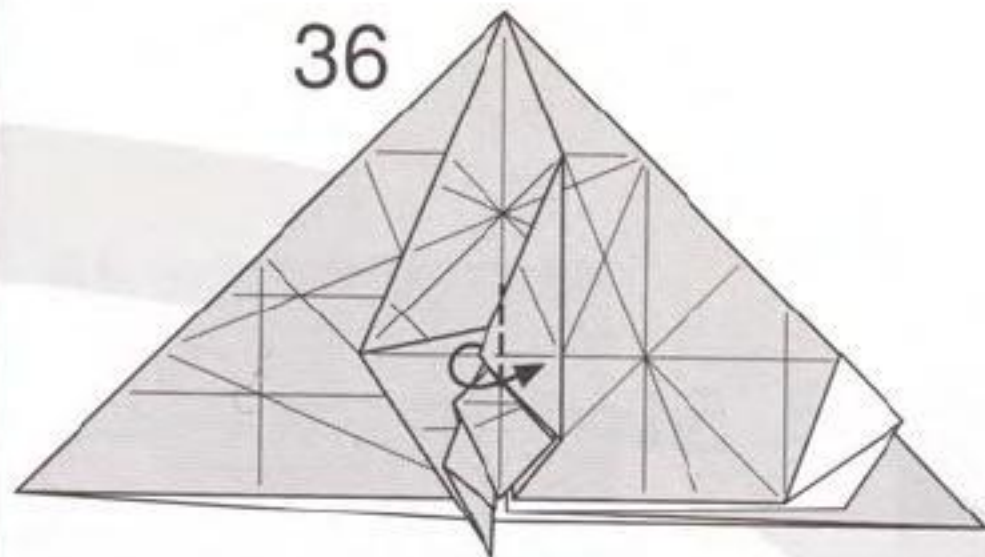
図のような形で
しずめ折りする

39

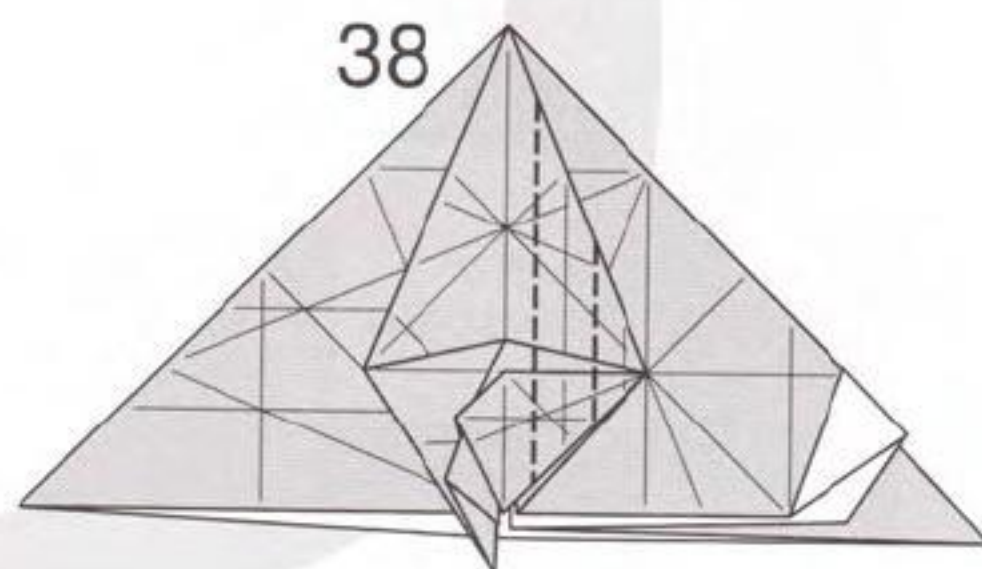


しずめ折り

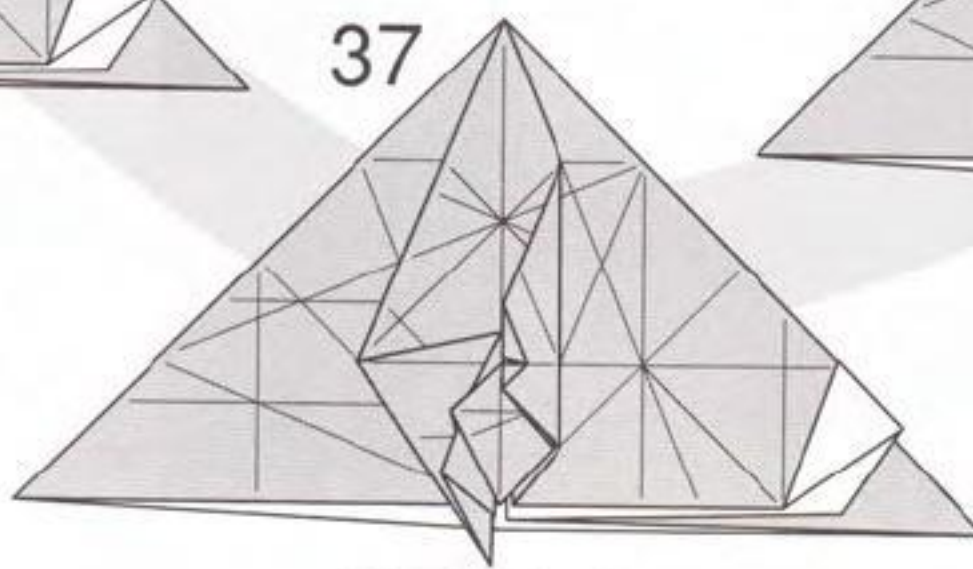
36

中心線のところで
反対側へ折る

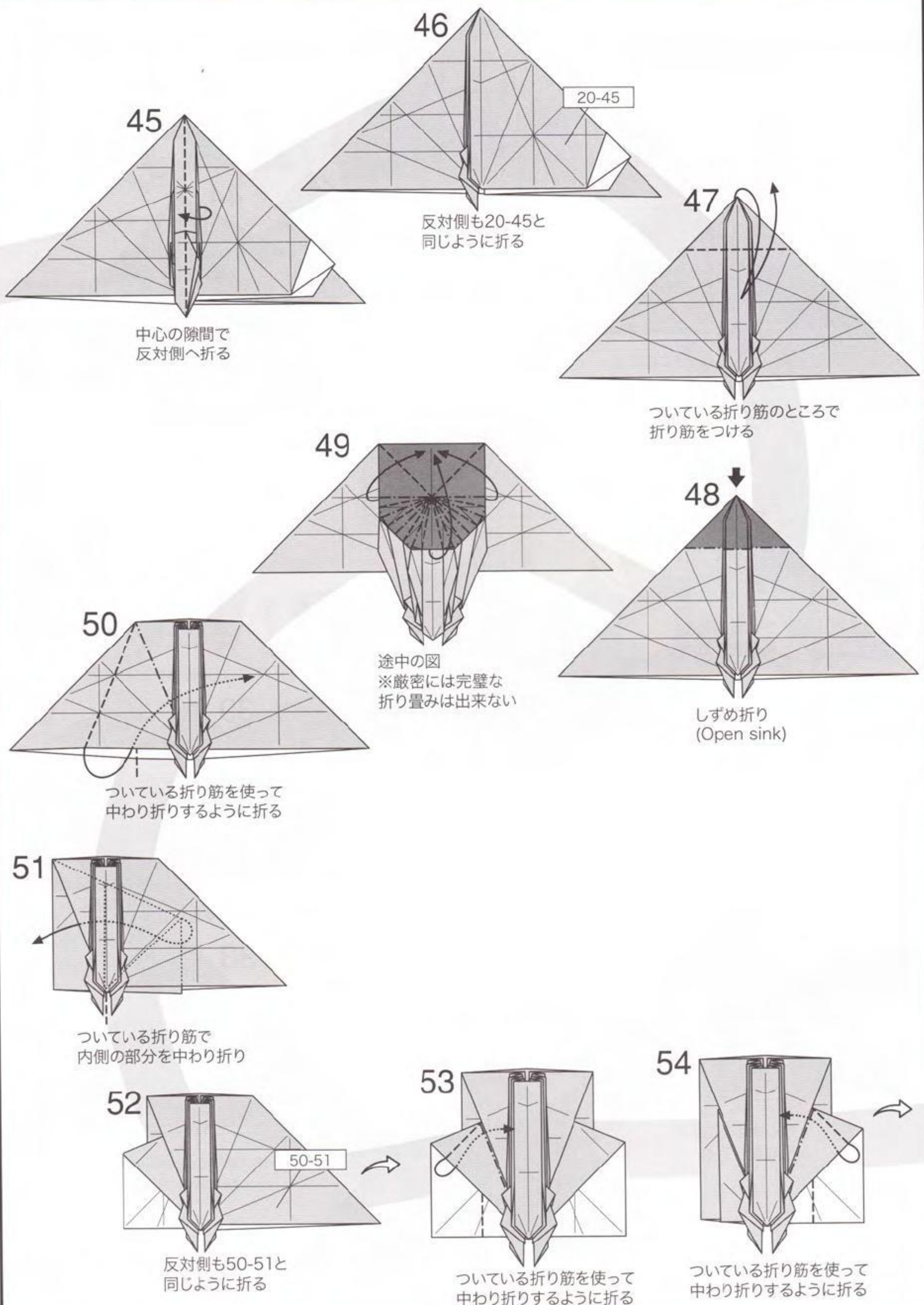
38

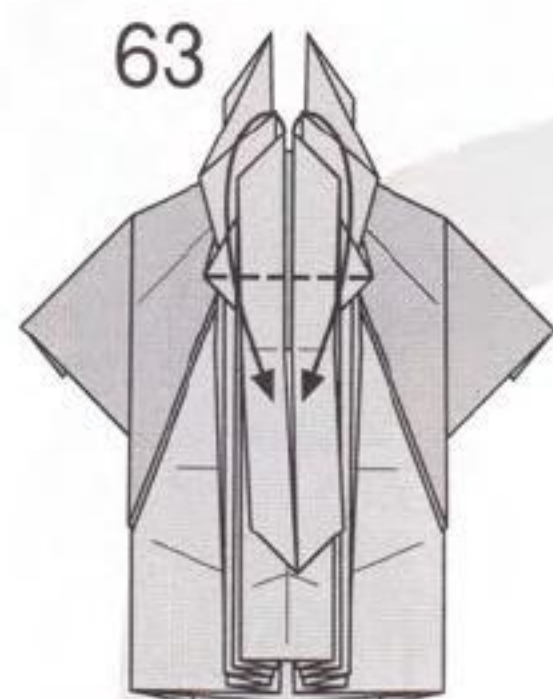
半分の幅で
折り筋をつける

37

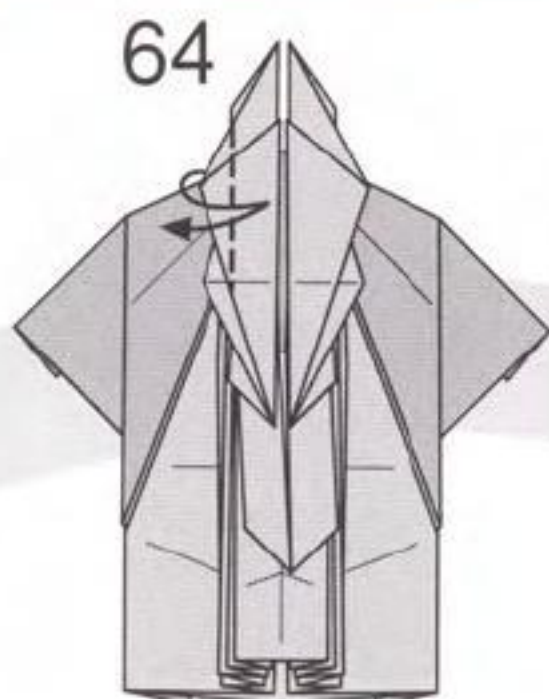


35の形にもどす

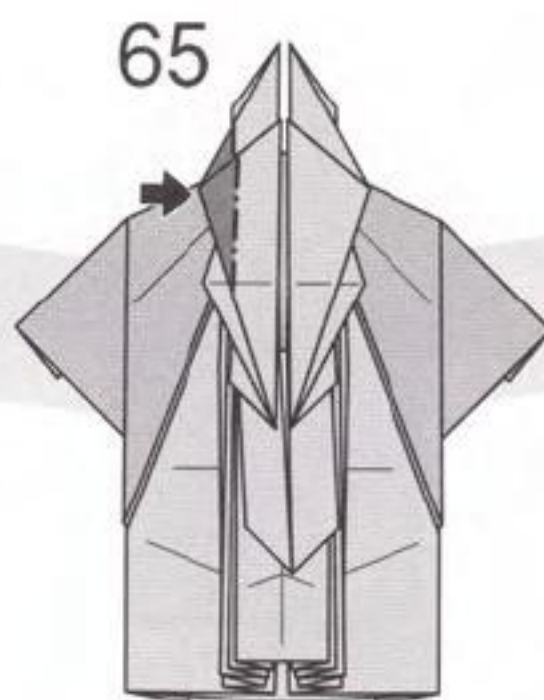




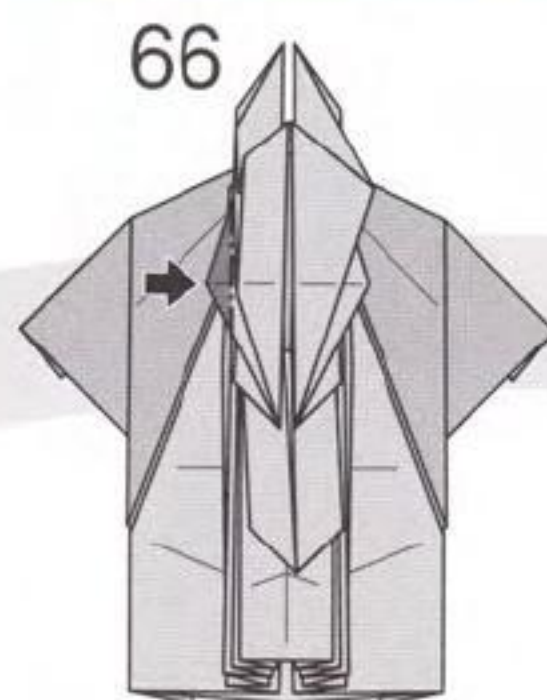
カドを下へ折る



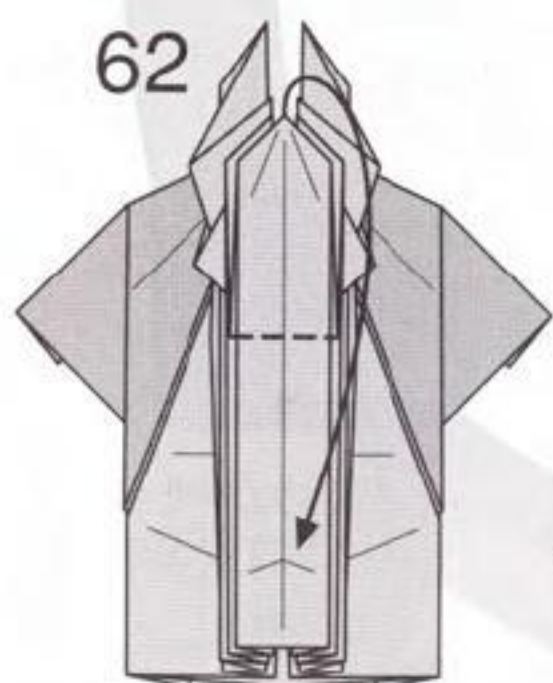
後ろのフチの幅で
折り筋をつける



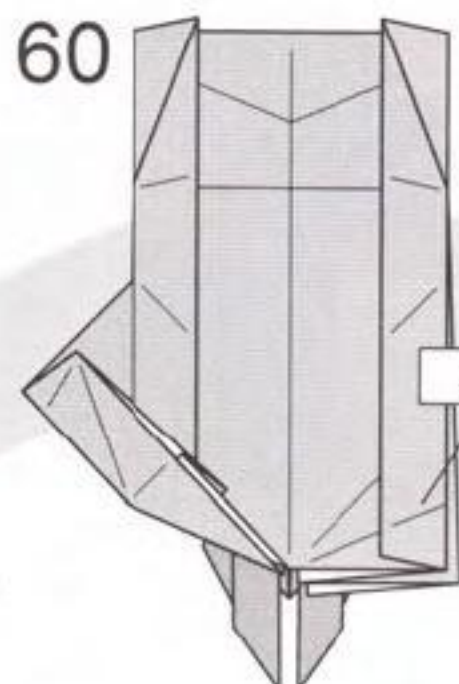
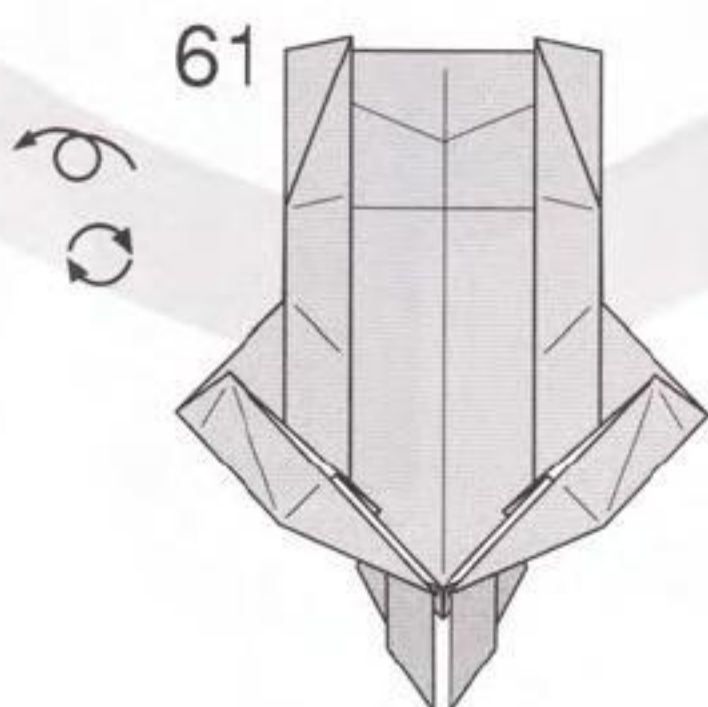
しずめ折り
(Open sink)



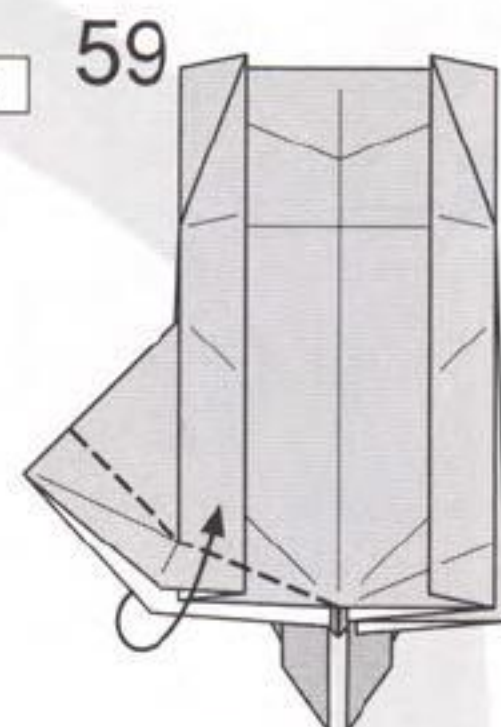
後ろのカドも
64-65と同じように
しずめ折り



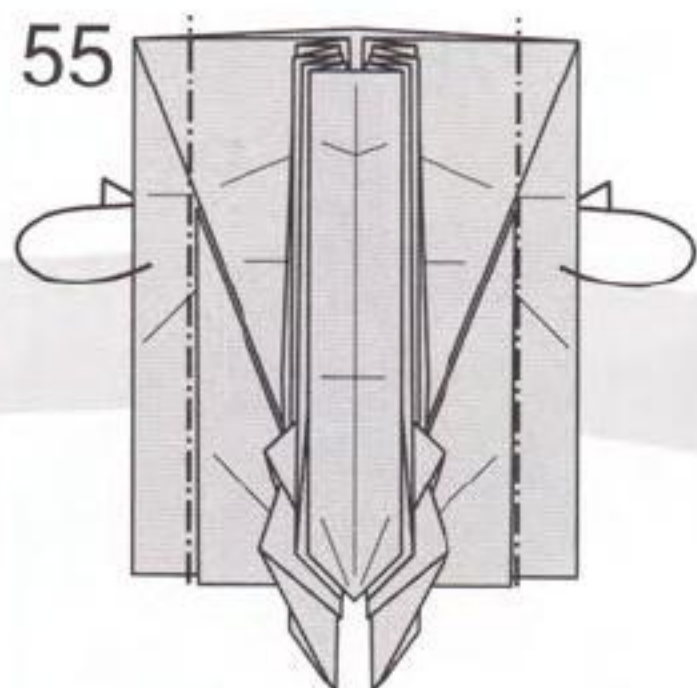
カドを下へ折る



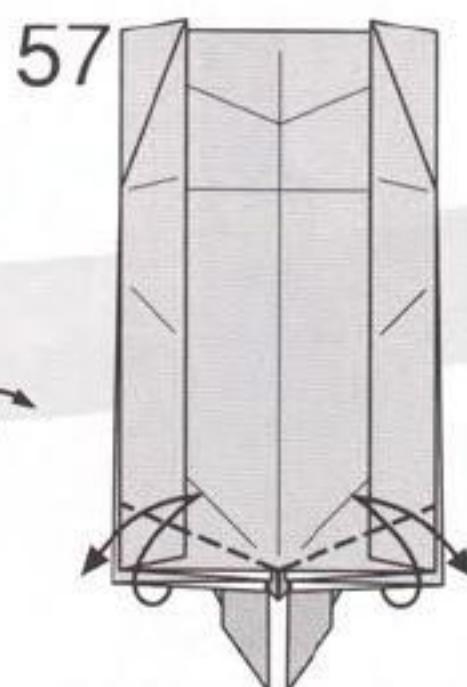
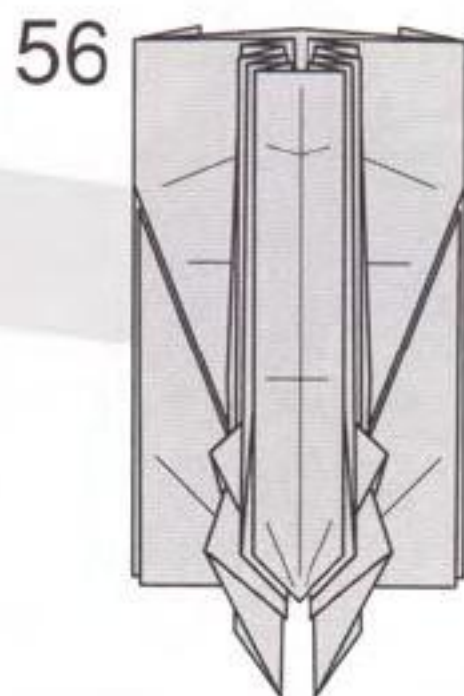
反対側も58-59と
同じように折る



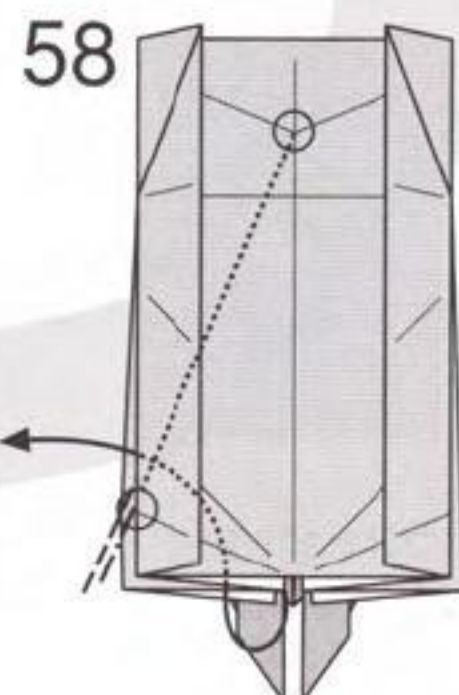
フチをまとめて
手前に折って
平らに折り畳む



手前のフチのところで
後ろへ折る

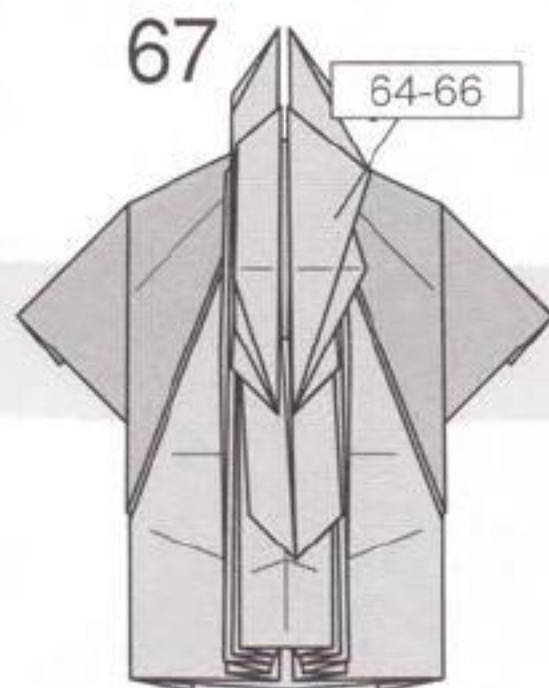


フチを折り筋に合わせて
折り筋をつける



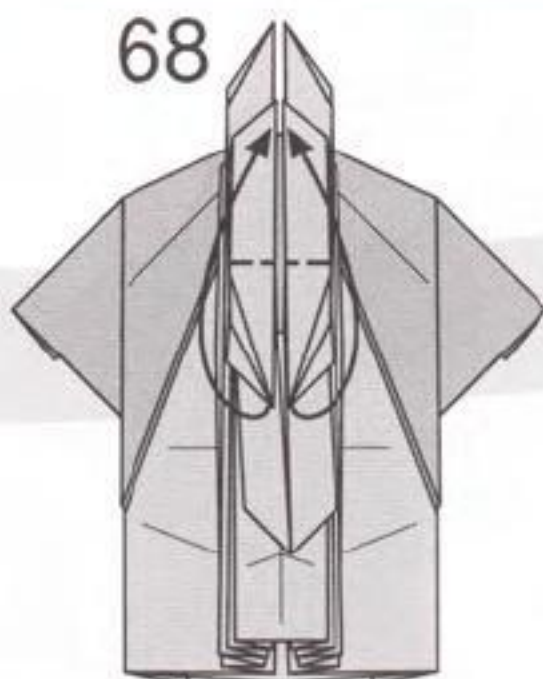
○を結ぶ線で
内側のカドを中わり折り
平らにはならない

67



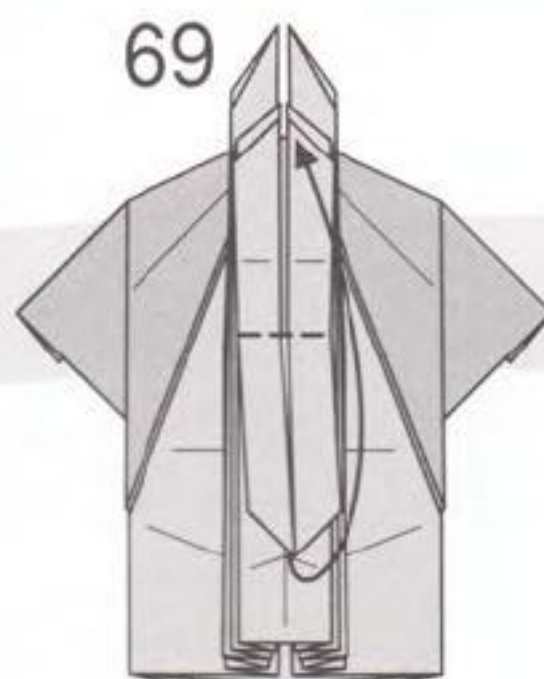
反対側も64-66と
同じように折る

68



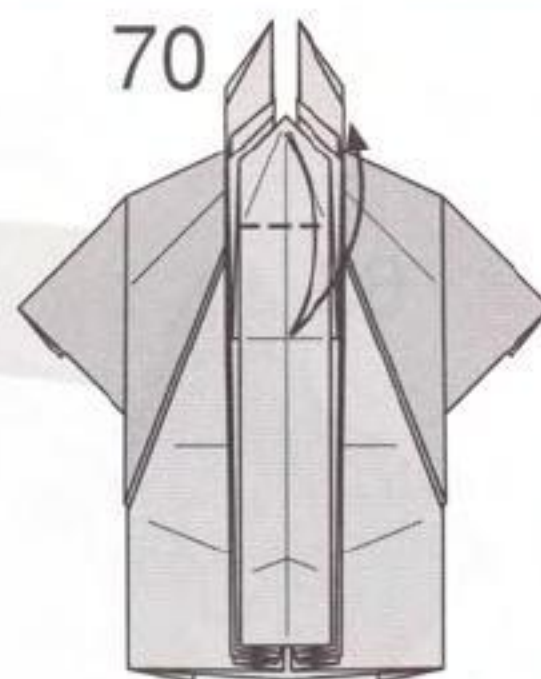
カドを上へ折る

69



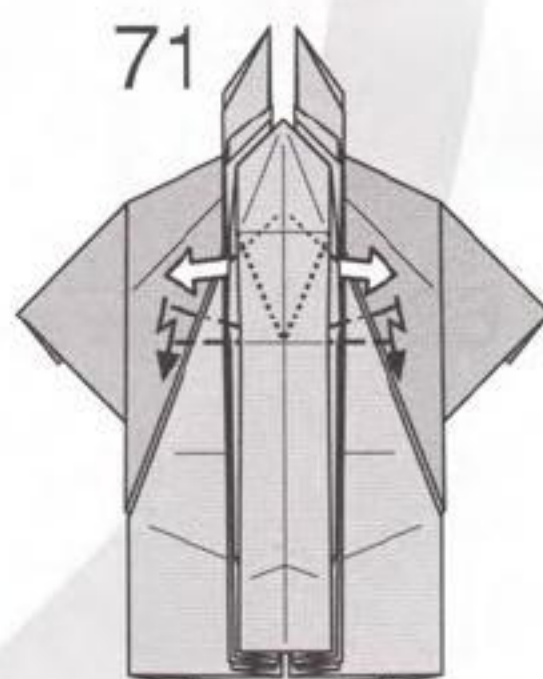
カドを上へ折る

70



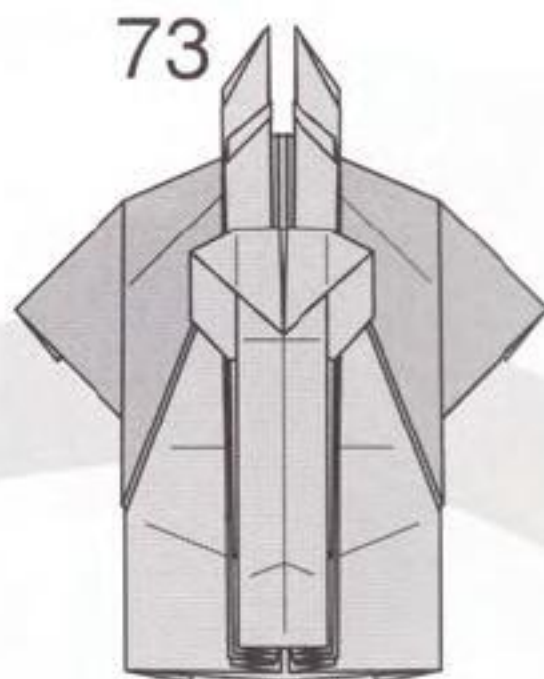
カドを折り筋に合わせて
折り筋をつける

71

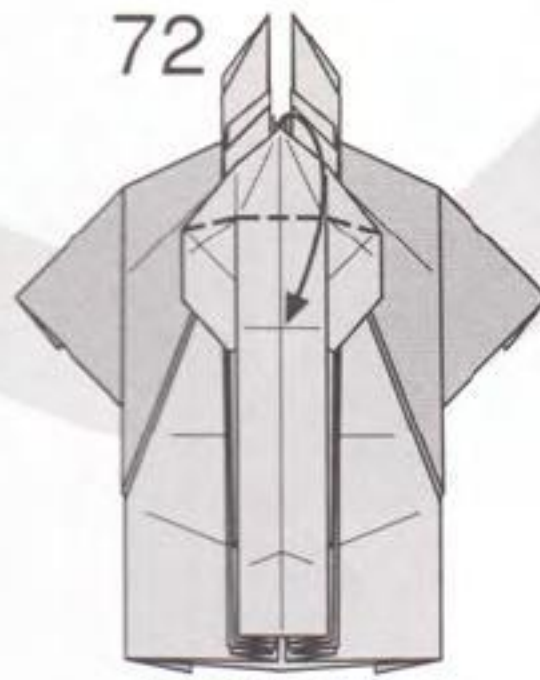


内側のカドを
引き出すように折る

73

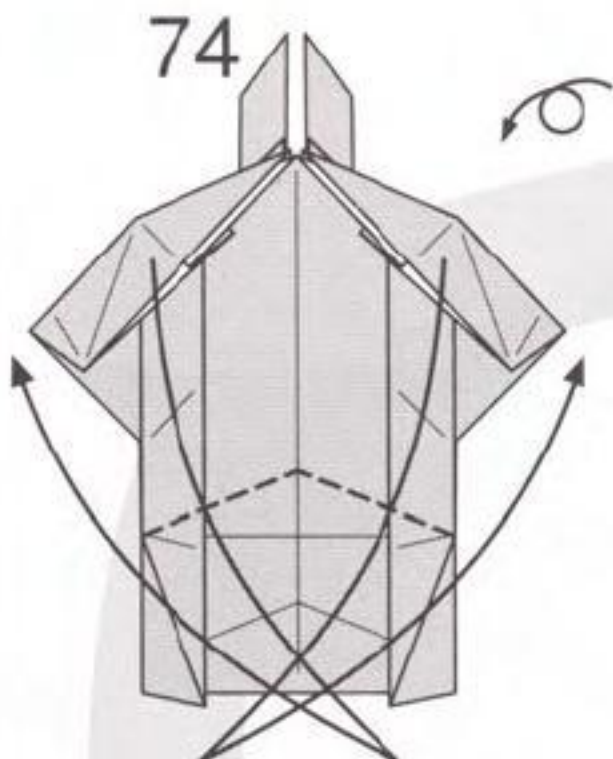


72



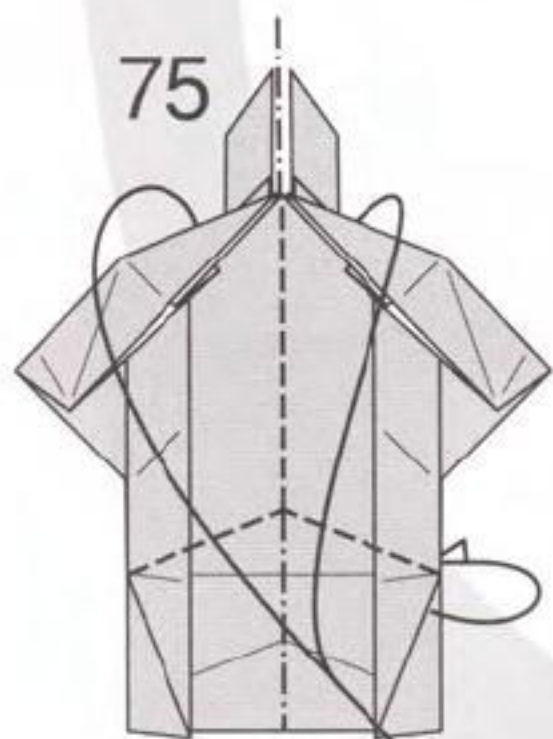
カドを下へ折って
平らに折り畳む

74



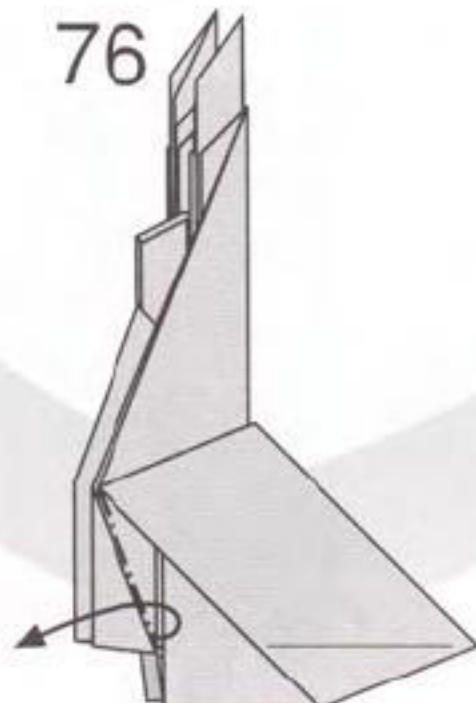
裏側についている
折り筋のところで
折り筋をつける

75



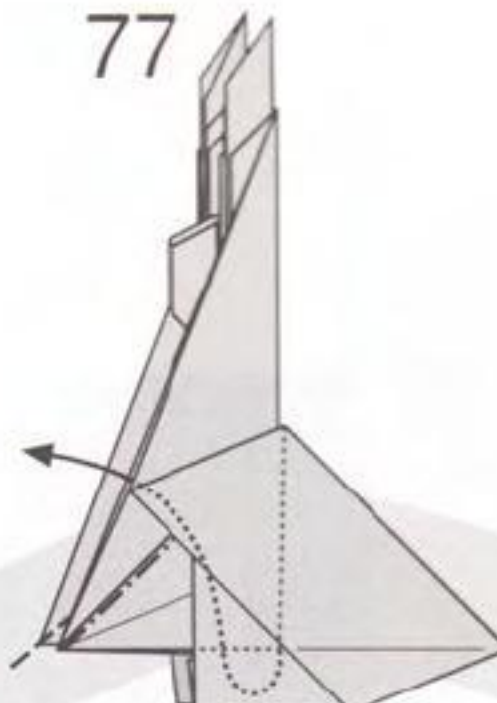
つけた折り筋で
手前の部分を
かぶせるように折り畳む

76



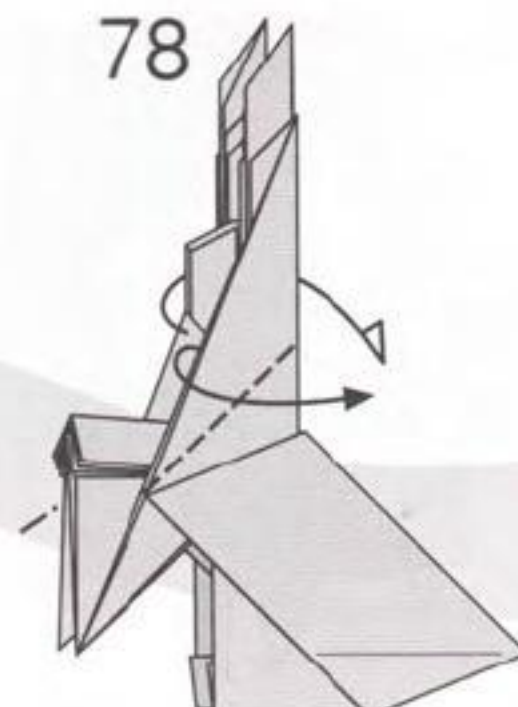
カドを引き出すように折る
反対側も同じように折る

77

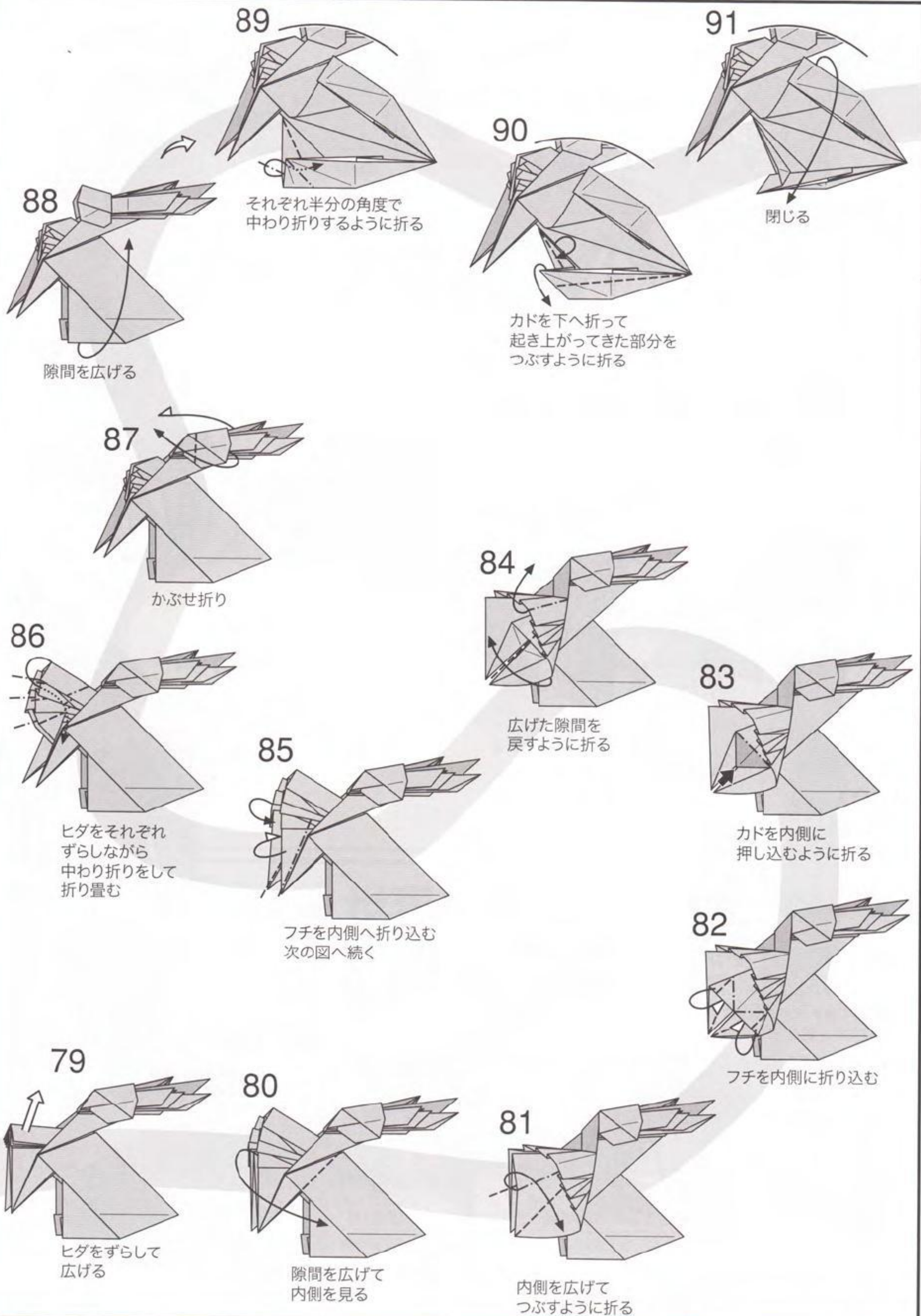


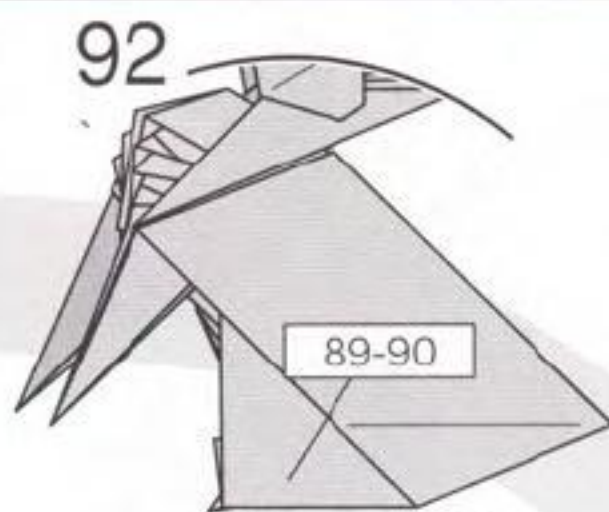
内側の部分を中わり折り

78

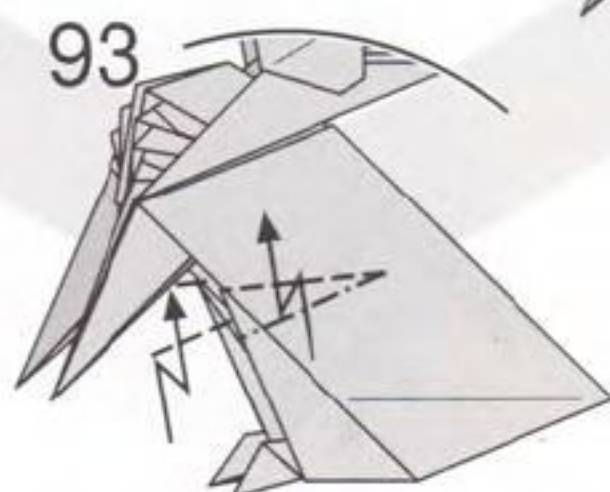


かぶせ折り

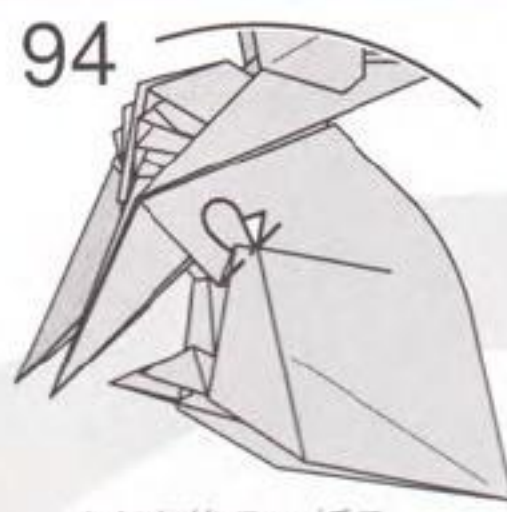




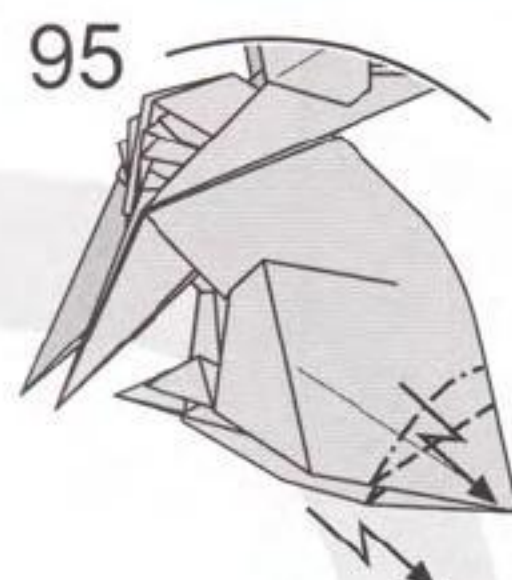
手前側も89-90と
同じように折る



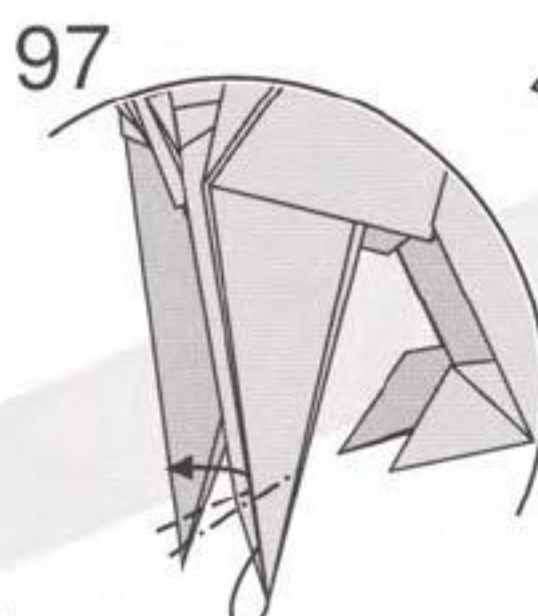
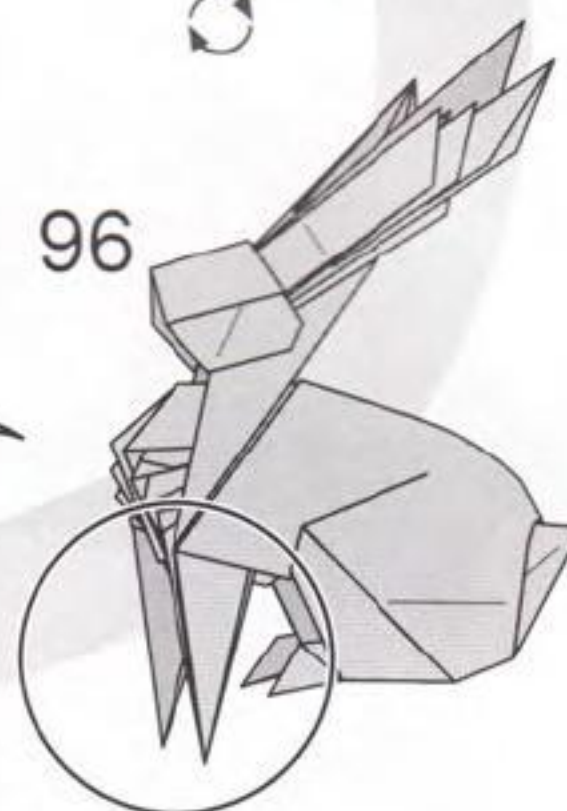
両側で段折り



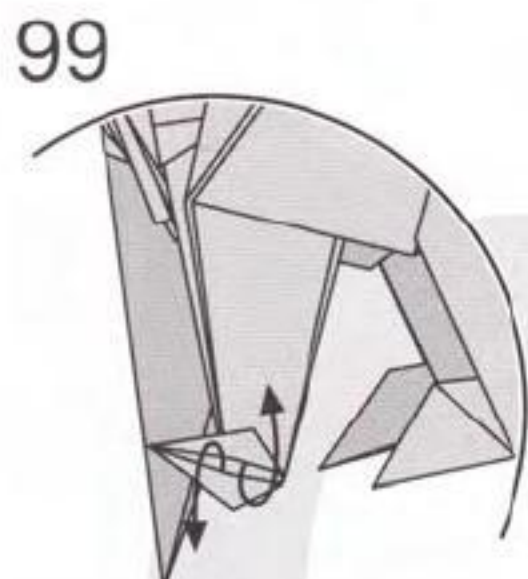
カドを後ろへ折る
反対側も同じように折る



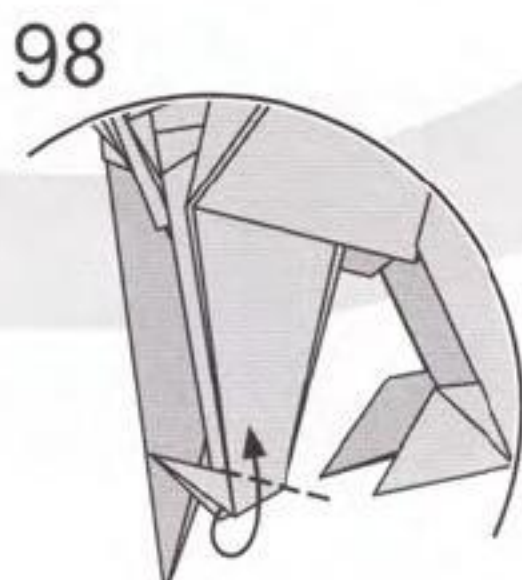
両側で段折り



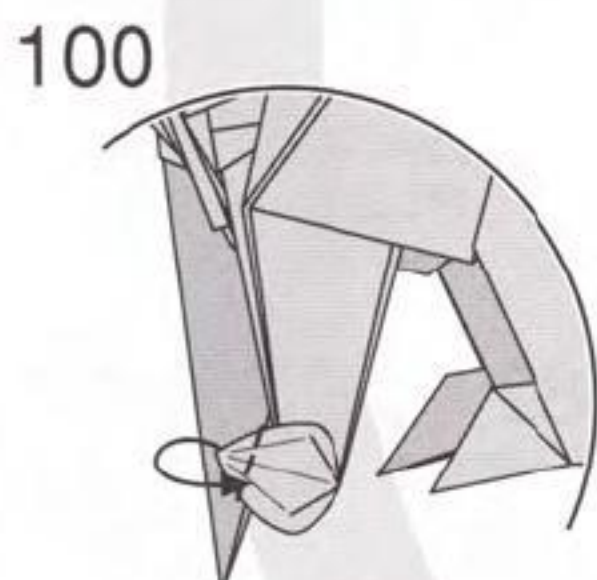
中わり折り



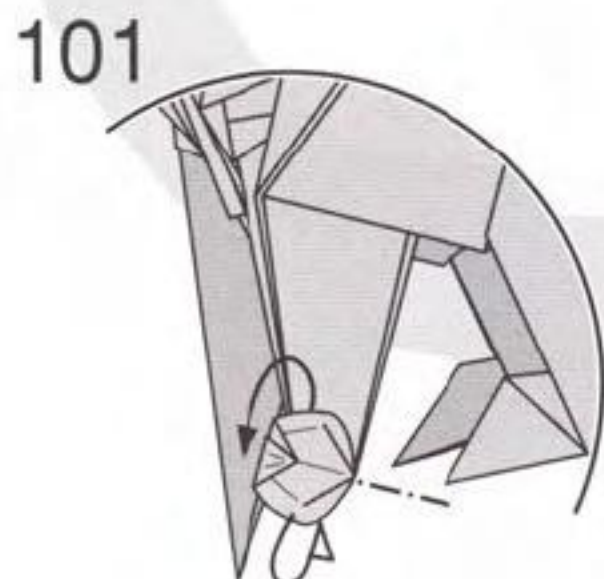
内側を広げる



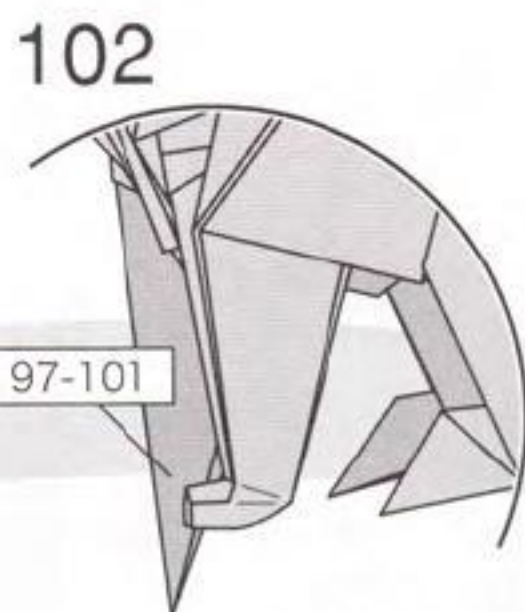
隙間を開くように折る



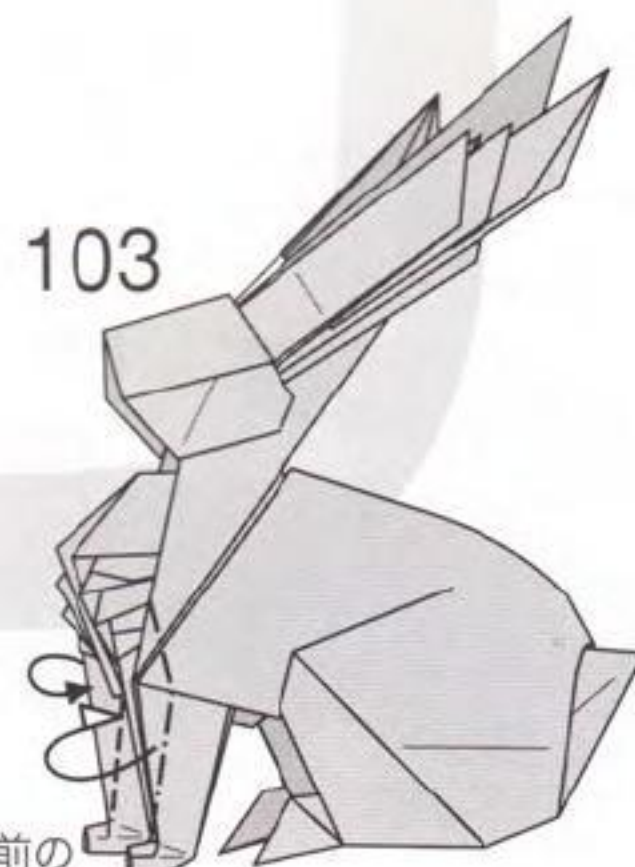
カドの先を折る



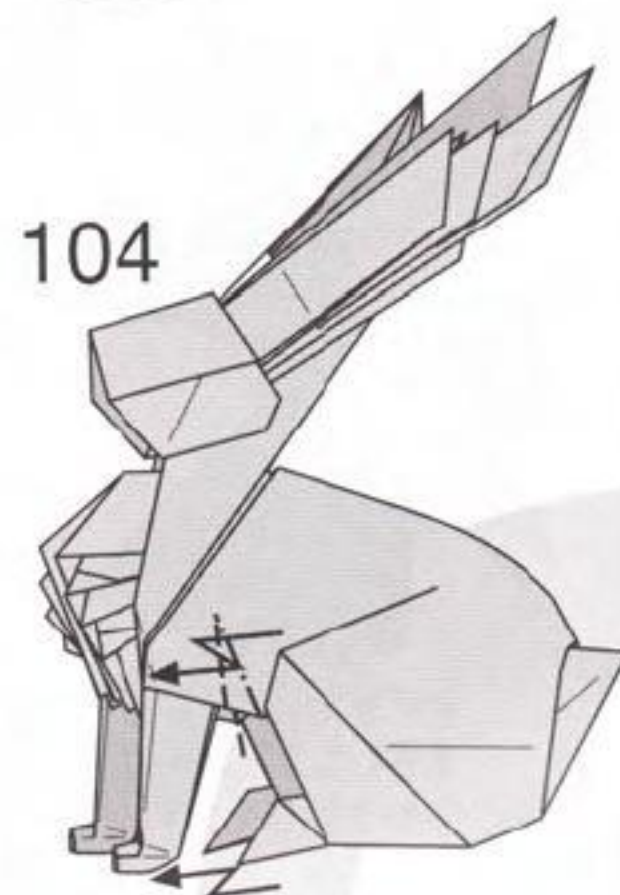
開いた部分を
下へ向けるように折る



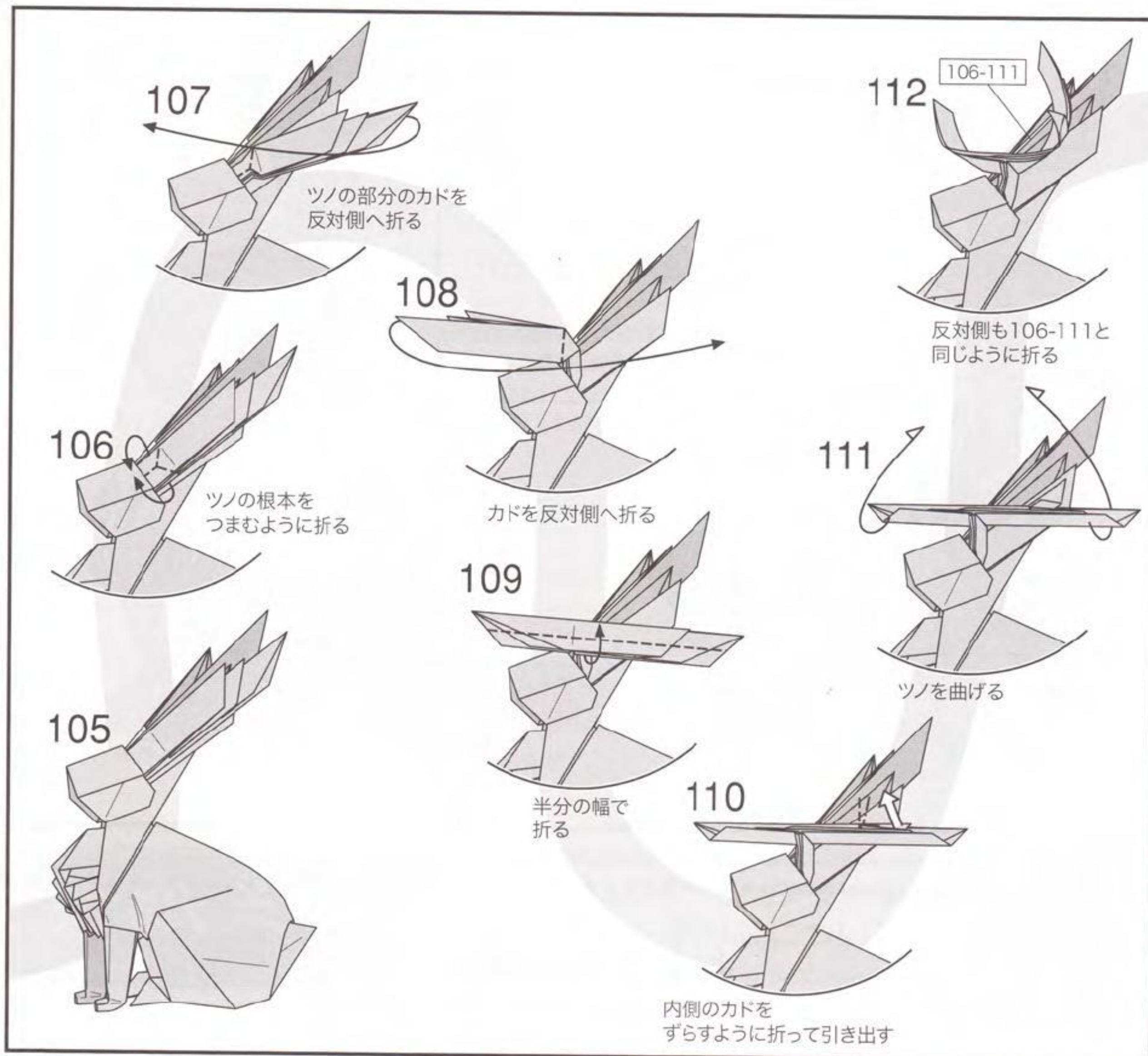
反対側も97-101と
同じように折る



脚の前の
フチを折り込む



両側で
段折り



世界のオリガミ・マスタース BUGS

「昆虫戦争」は折り紙をここまで変えた!

マルシオ・ノグチ(作図) 他 小川未来(訳)

ISBN 9784905447368 / ¥2,500(本体)+税 / A4変型(260×210) 上製 / 本文184P

進化を遂げ日本に戻って来たORIGAMI設計理論!

「昆虫戦争」は海を超え、アメリカ大陸の折り紙作家達にもこんな影響を与えていた! 本書は、'90年代、日本で起こった「昆虫戦争」の先駆者達の設計理論を踏まえ、さらなる進化を遂げた昆虫折り紙の姿を見せてくれます。

——山口 真(折り紙作家・日本折紙学会事務局長・おりがみはうす主宰)

海外7作家(W.パーク、S.アレラーノ、M.カーシェンバウム、D.ロビンソン、J.クー、S.カトウ、R.J.ラング 掲載順)の全12作品を丁寧な折り図付で徹底解説。展開図も5作品掲載!

オール
カラー

国際
共同印刷

◆「世界のオリガミ・マスタース」シリーズとして、第2弾「FLOWERS」も今夏刊行予定

駒草出版 株式会社 ダンク 台東区台東 3-16-5 ミハマビル 9F <http://www.komakusa-pub.jp/>
出版事業部 TEL 03-3834-9087 FAX 03-3831-8885

※『BUGS』は、おりがみはうすのウェブサイト(<http://www.origamihouse.jp>)でも取り扱っております。

113

フチとフチを
合わせて折る

114



かぶせ折り

115

反対側も113-114と
同じように折る

116

カドを両側で
つまむように折る

117



カドを下へ折る

118



完成

「ジャッカロープ」は、アメリカに棲息
すると言われる未確認生物です(実際
は、ウサギの剥製に鹿のツノをつけた
作り物だそうです)。
OrigamiUSAにお世話になっていた
時に、事務所に届いた絵ハガキの写
真を見て、即興で折ったものをベース
に整理したのがこの作品です。

おり すじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

神谷教室体験記

Learning through Kamiya's Class

小原智美

Ohara Tomomi

私の初めての「ある折紙作家の
教室」への参加は2008年4月の「セ
ミの幼虫 フルバージョン」でした。

折り紙とはいえ、難解コンプレッ
クス系折り紙の教室では私のような
女性は珍しく、小学生の付き添いの
お母さんが数名来られるくらいです。
折り紙好きな息子のために読書や
編み物をしながら飲み物や昼食の
心配をしてくれる母たち。見ていて
温かい気持ちになります。

神谷先生の教室では、はじめに
折り図と紙を受け取るとあとは自分
との勝負です。分からないときは早
めに先生に聞く。間違っ折り進め
てからでは修正がきかないこともあ
ります。先生は逆向きから見ている

のに、どこを間違えているのか、どこ
まで戻れば良いのか、すぐにアドバ
イスをしてくれ、しかも極力手を出さ
ないのです。人に折ってもらったとこ
ろは後で自分では折れないから。余
計な線を付けないように慎重に折り
進めるのでかなりの集中力が必要で
す。さすが、若い学生さんはささっと
完成します。小学生も上手です。ある
お父さんが先生に話していました。「こ
の子はいつの間にか本を見ながら折
るようになったんです。」先生は「ここ
に来る子は大概そんなものですよ。」
と笑っていました。

そんな神谷先生の教室で5時間も
の間皆が折り図に向かって集中しま
す。私も仕事、子供、家の事など日々

のいろいろな事を忘れて取り組み
ます。女性がたくさん参加する折り
紙教室は和気あいあいとして楽しい
ものですが、ここは各々が無言で
集中するので心地良い緊張感があ
ります。まるで修行の場です。

折りながら雑念を払い、完成す
れば達成感に包まれる。難解だか
らこそ得られる深い感動がありま
す。

神谷先生が素晴らしい作品を創
作し、折り図まで書いて教えてくだ
さるので、また自分でも折ることが
できるのです。本当に感謝の一言
に尽きます。これからも神谷先生の
教室に通って心と腕を磨いていき
たいと思います。

付録:48~49のしずめ折りについて

48~49のしずめ折りは、厳密には折り畳む事ができません。気になる人は、以下の2つのうち、どちらかの方法で対応して下さい。

●しずめ折りするカドを、事前に1/2の角度でSpread-sinkをしておく事で、一応は平らに折り畳む事が出来るようになります(図1)。ただし、相当細かい折りになるので、正確に折るにはかなりの精度が必要になります。

●ヒダの幅を変えて、折り畳みの内心が48で沈めるフチと一致するように調整しておく、この部分に限ればきれいな折り畳みが可能になります(図2)。ただし22.5度的に見ると、ヒダの幅はあまりきれいな比率ではありません。実際に行う場合は、35で折り筋をつける時に、少し幅を狭く折る事になります。

なお、問題となる部分は内側へ折り込んでしまうので、どちらにしても外見上はほとんど変わりません。

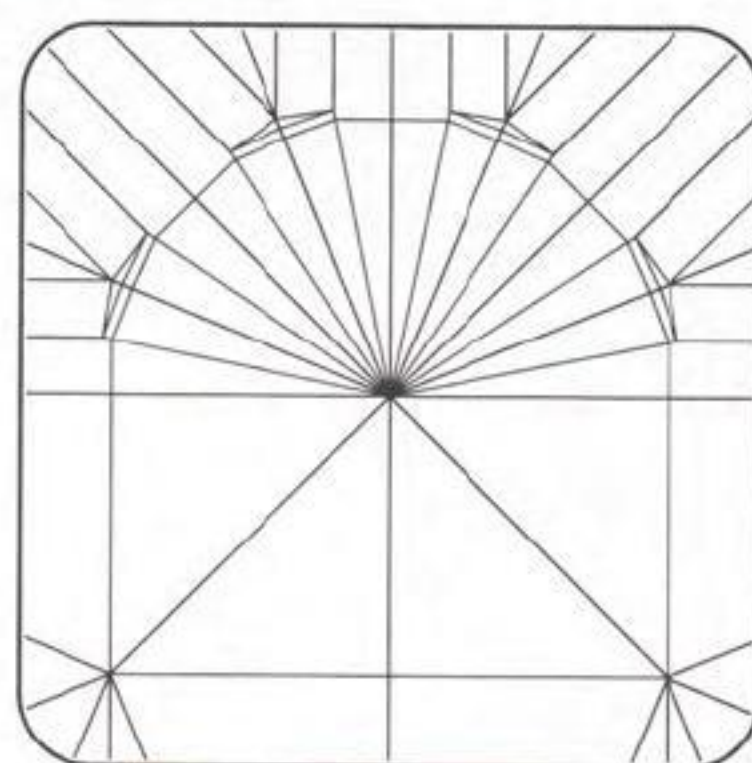


図1

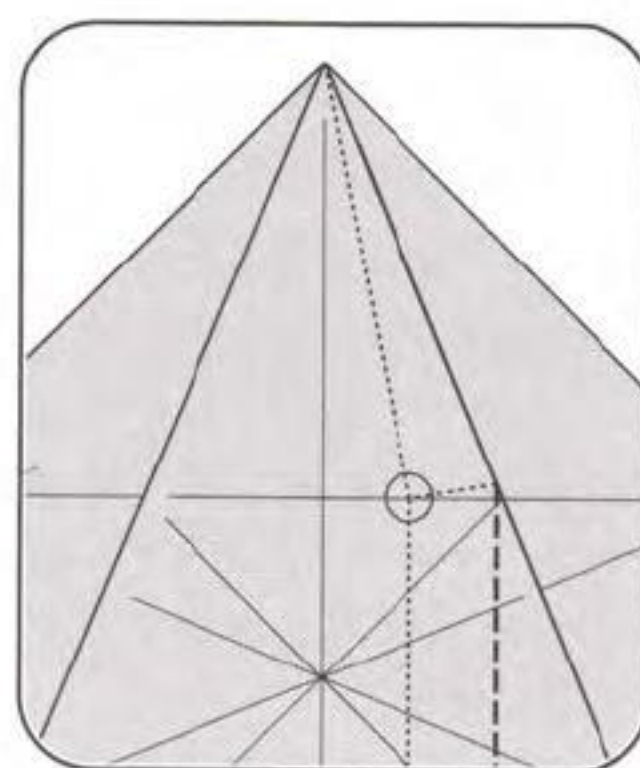
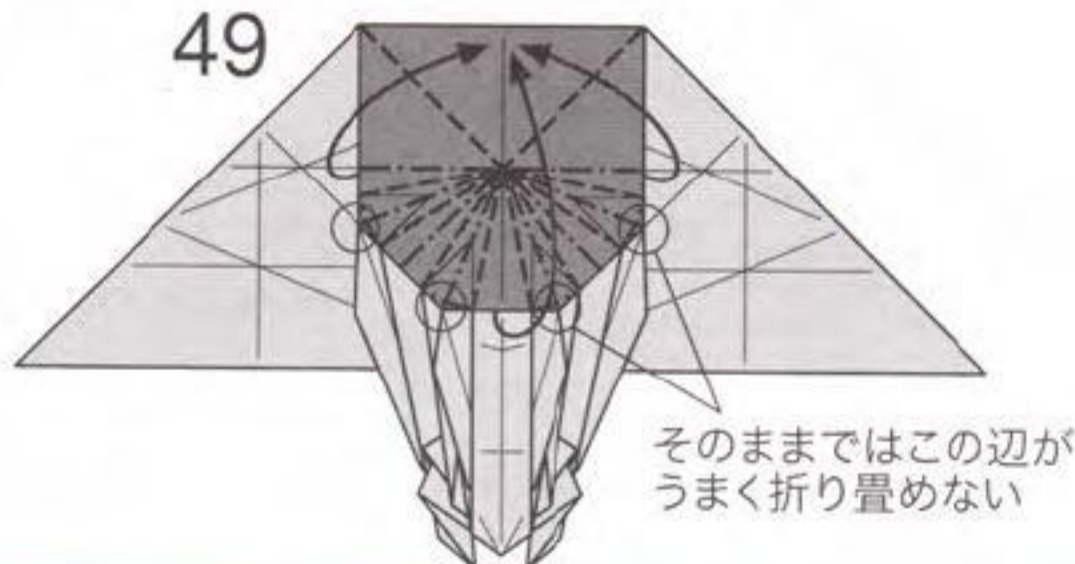


図2

49



そのままではこの辺がうまく折り畳めない

折紙三昧⁷⁴

Origami-Zanmai (This Origami and That)

前号でも少々ふれたように折り紙は、美術であり科学でもあります。しかし、科学と美術は必ずしも独立ではありません。いかにも幾何学的な絵画や彫刻は数多くあり、またその成り立ちになんらかの数理的な裏打ちが見え隠れしていて、そのことが作品の存在意義を構成しているということもままあります。折り紙作品の展開図の幾何学的な構成が絵画等の素材として魅力的であることも、近年事例が知られるようになってきました。折り紙作品やそれと紐づく展開図の著作物性については、折り紙作品を美術と捉え、十分に保護、尊重していただきたいと思います。

ところで、折り紙を折って楽しんでいる私たちはプロセスを鑑賞す

るという音楽に似た時間芸術としての折り紙の存在をよく知っています。設計・構成としての展開図と美術・造形としての最終形の作品の間を繋ぐプロセスは、構成の妙を際立たせ、リズムカルに変形して、造形が現れる瞬間のドラマを演出します。このプロセスの効能は、折り紙が科学としても美術としても未発達な時代の折り紙を支えてきましたし、折り紙の芸術性を語る上でも極めて重要な要素だろうと思います。しばしの時間を共有し、空を美しく滑空したり、突然何かに見える喜びは、はじめて体験する人にも全く説明不要の共感を与えます。日本人が旅行やビジネスで海外の人とコミュニケーションするのに折り紙が役立ったという話は未だによく耳に

します。

折り紙を通じたコミュニケーションが、時に結婚という実を結ぶこともあります。共に折紙探偵団東京友の会の常連の小野友彰・奈穂美夫妻の結婚披露宴に昨年末に山口真さんと折り紙関係者代表で出席させていただきました。二人が折った作品に彩られた素敵な披露宴でした。小野さんは弁理士の資格者で折り紙著作権の研究でも活躍いただいています。折り紙に限らず、共通の興味が人と人の距離を近づけるツールとなることは至極もっともなことです。が、東京友の会の常連同士が結婚に至ったのは私の知る限り20年前に1例あった以来ではないでしょうか。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員

コミュニケーションツールとしての折り紙について

Origami as a Tool for Communication

展開図折りに 挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第93回

ガルーダ

Garuda

神谷哲史

Kamiya Satoshi

Created: 2014/08

Paper Size: 100cm×100cm

Height: 27cm



ガルーダは、ずっと昔から折りたかった題材です。愛知県にあるリトルワールドという場所で見たとて印象的で、最初に見た時からいつかは折ってやろうと考えていました。そのため本作品も東南アジア系の形をしています。

これまで部分ごとの試作は何度も行っていて、蛇腹で全身版も試した事はあったのですが、当時は実力不足もあり、必要なカドは出せてもなかなか面白い形にはなりませんでした。2014年の夏に行われた60SMEやコンベンションの準備をしている時に、ディバインドラゴンの尾を持ち上げたら折れるのでは?とふと思いました。……タイミングの悪い時に思いついてしまったのです。結局準備の合間を縫って制作、コンベンション直前に完成して無事に展示をする事が出来ました。

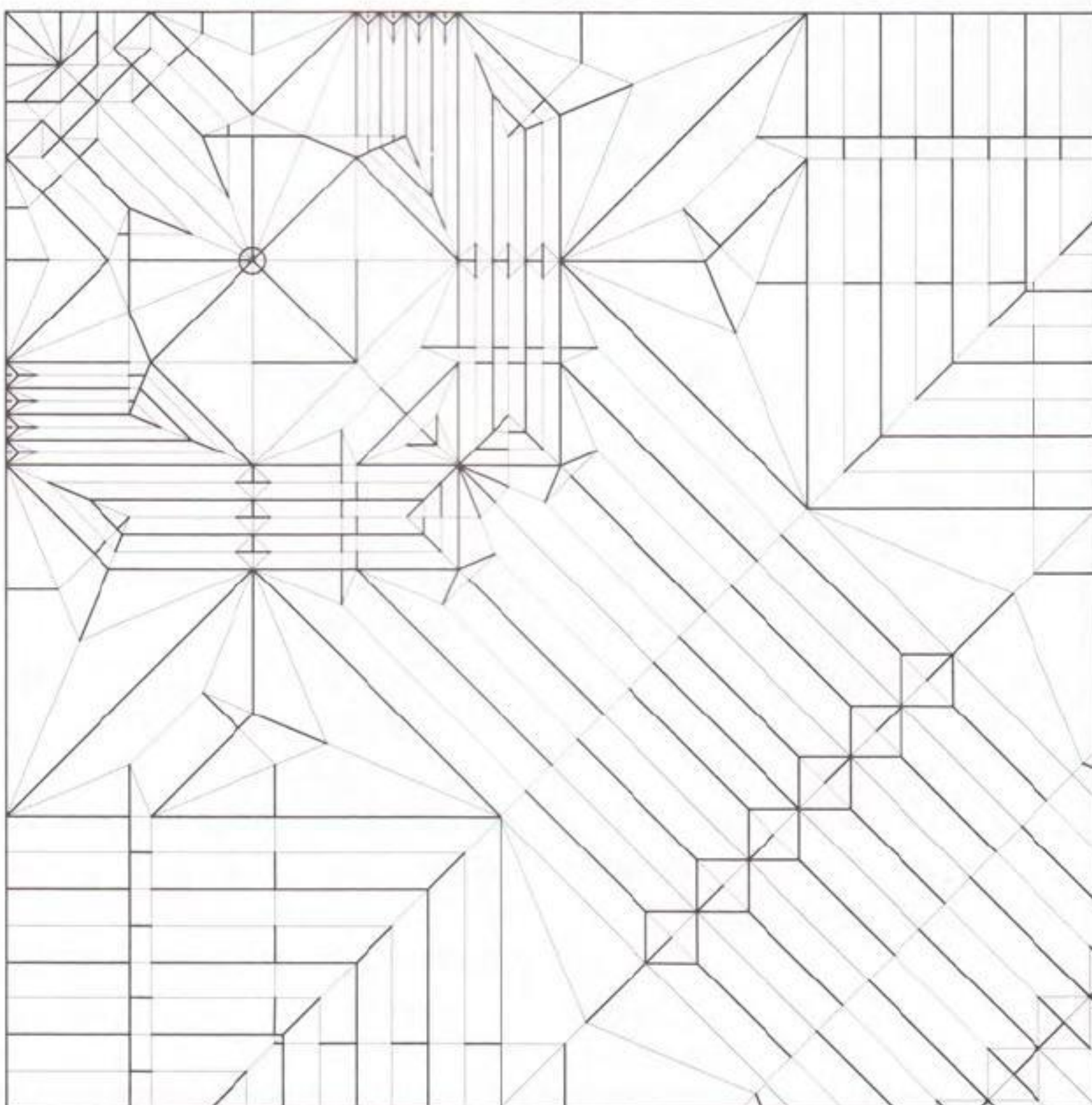
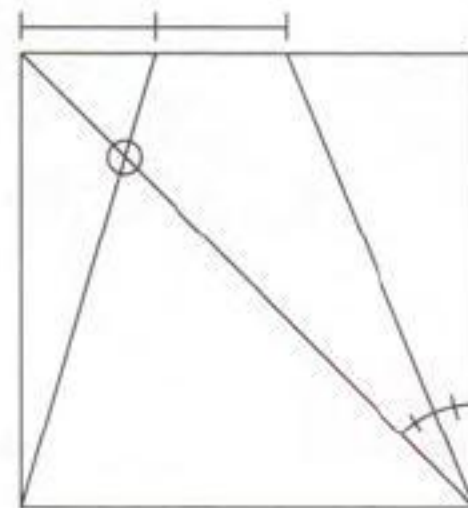
という事で、今回の作品では、それまでの蛇腹構造を捨てて22.5度ベースを採用しています。基本的な構造に指と翼のヒダを追加するような形になっています。指を折り出すためのヒダは、直接繋がっているわけではなく、ずらした形で折り出しています。これは手足のカドの位置が同じ線上に乗っていないのと、手の指は5本、足の指は4本と、それぞれ別の本数を出したかったのが理由です。実際には22.5度系の構造とヒダが同じ幅になるように調整して接続した上

で、必要な指の本数に合わせてしずめ折りをする事で実現しています。このようなヒダと角度系の融合はそこまで新しい技術というわけではないのですが、使い方次第ではまだまだ面白い事が出来そうです。

細かい仕上げについては、上記のような創作時の事情もあり、まだしっかりと確定していません。ぜひ各自が納得のいく形になるように工夫してみてください。

てください。

また、作例では1m程度の和紙を使用しています。頭部などはそれなりに細くなるので、なるべく大きな紙で折る事をお勧めします。



File-58

橋間 仁

Hashima Hitoshi

■折り紙を始めたのはいつ頃ですか。始めるきっかけは何だったのでしょうか。

たぶん4歳ぐらいだと思います。叔母に伝承折り紙の分厚い本を買ってもらい、それを手本に折り始めたのがきっかけだと思います。大量の折り紙をあっという間に消費していました。好奇心旺盛な子供の欲求を満たすのに十分な内容だったと思います。プラモデル、ペーパークラフトなど手を使うことは何でも好きだったと思います。その後、河合豊彰氏の著作群で創作折り紙を知り、小学5年生ころから動物やお面などを作るようになりました。

■『おりがみ新世紀』『おりがみ新世界』に作品が掲載されたときのきっかけは？

21歳ぐらいだったと思いますが、神戸ジュンク堂で『トップおりがみ』『ビバ！おりがみ』を見つけたのです。ものすごい衝撃でした。僕は、だいたい正方形2枚で創作していたのですが、モンローさんのステゴザウルスや前川淳さんの悪魔に代表される作品に打ちのめされてしまいました。自分に出来ることはないかと考えた結果、現在も続く長方形を用いての創作を始めました。そうすると気になるのが自分の作品に対するプロの評価でした。いきなりサンリオの出版部に電話して、「笠原邦彦さんに連絡を取りたい」と言ったのです。すると話がとんとん拍子に進み、笠原さんより連絡を頂けることになり、文通という形で作品を見ていただけることになりました。やり取りをさせていただいている中で、「今企画している著書で作品を紹介してもいいですか」とのお話があり、『新世紀』『新世界』掲載となりました。

■創作のときに、どのようなことを重視しますか？

最も重視しているのは、360度どこから見ても閉じていて鑑賞に堪える作品を作ることです。また、取り掛かる前にスケッチを描くのですが、出来得る限りイメージを具現化したのです。そのためには「折る」以外に「糊付け」「揉む」「ねじる」「破る」「塗装」なども使用します。折り紙という表現方法は、紙の特性を最大限に利用するという事柄も含まれると考えています。たとえば紙を部分的に濡らして引っ張って伸ばし、そこだけを盛り上げるというようなことも良しと思います。「スケッチする」と先にも言いましたが、実はその前に物語を考えてしまうのです。その登場人物を想像して創作することが多いと思います。

■「不切正方形1枚折り」にこだわらない作品が多いようですが、その背景を教えてください。

高校生ぐらいまでに見た書籍では、動物や昆虫を作るときなどは複合で作る作品が掲載されているものがありました。また長方形や直角二等辺三角形を使う作品もあったように思います。創作折り紙の歴史を進化にたとえると、僕らの世代がいた折り紙パンゲア大陸が「ビバ！おりがみショック」で不切正方形1枚折り大陸とその他の島に分かれ、僕はその島に残ってしまったのだと思います。大陸では百花繚乱の正方形作品が生まれていました。僕はその後30年ぐらい



「ケンタウロス」髪は揉んで辮髪にしてあります。ネイティブアメリカンの戦士のイメージ

ほかの作家の方と交流することがありませんでした。いわば有袋類のように生息していたのかな……なんて思ったりします。

現在は、形の違う長方形を2枚用いて作ることが多いのですが、その前は、やはり折り紙は1枚の紙で制作すべきと思っていました。拙作で「黒衣の男」というのがありますが、1枚折りで作しようとかかなり長い間悩みました。しかし、試しに衣服と体の2パーツに分けて制作してみたところ、満足できる仕上がりとなったのです。それからは1枚に拘らないようになりました。

■折り紙以外の分野から影響を受けることはありますか？

ロダンやジャコメッティなどの彫刻作品、さまざまな絵画、また小説などからも刺激を受けます。僕は静岡市在住で、近くにある県立美術館のロダン館によく行きます。

ロダンの作品に「カレーの市民」というのがありますが、その群像が実に素晴らしいのです。ロダンと僕とでは雲泥の差ですが、あのような作品を作りたい、折り紙の群像制作を通して情景を表現していきたい、と考えています。



「6人の傭兵」折りよりも揉みに重点を置きました。折りは武器、手、兜に用いています。死地に赴く兵士のイメージです



Rabbit Ear

つまみおり

Information

第15回折紙探偵団 関西コンベンション 参加申し込み受付開始

期日:2015年3月27日(金)・3月28日(土)

場所:神戸女学院大学文学館

兵庫県西宮市岡田山4-1

(詳細は「神戸女学院交通アクセス」参照のこと)

特別講演:前川 淳氏
「わたしの折り紙半生」

※内容は都合により変わることもあります。ご了承ください。

- 参加費:大人4,000円
中学生以下3,000円
(どちらも折り紙付)
親子割引は同封の案内書参照
- 懇親会参加費(希望者のみ)
大人5,000円、子供3,000円

●日程:

3月27日(金) / 10:00 参加受付開始
10:30 講習受付開始
12:30-13:00 全体会
19:30-21:30 懇親会
3月28日(土) / 9:00 参加受付開始
9:30 講習受付開始
16:30-17:00 全体会

- 問い合わせ・参加及び講師申し込み
先:参加申し込みは本号に同封の用紙をお使いください

立石浩一(たていしこういち)
〒657-0015
神戸市灘区篠原伯母野山町1-1-2-811
電子メール koichi.tateishi@minos.ocn.ne.jp FAX:078-861-6337

- 申し込み締切:2015年3月9日(月)必着。原則として先着200名様までとさせていただきます。ご了承ください。

●作品展示について

例年、講師の方に講習作品展示をお願いしておりますが、当日講習受付に間に合わない場合がございます。当日参加受付開始時刻までにご到着になれない方は、作品を2015年3月23日(月)必着で下記までお送りいただけますようお願いいたします。作品が無理な場合は、写真だけでもお送り下さい。

〒662-8505 西宮市岡田山4-1 神戸女学院大学文学部リサーチルーム
櫻木(さくらぎ)

講習作品以外の展示も例年通り大歓迎です。こちらは当日お持ち下さい。

●講師募集について

講師を引き受けていただける方へ。オリジナル作品でないもの(改作・アレンジも含む)の講習をされる方は、創作者の方の許諾を得るようお願いいたします。創作者の許諾の有無が明確でない場合は、こちらで確認調査の上、お断りする場合もございますので、お含みおきください。簡単な作品からコンプレックス物まで、幅広く講習題材を集めたく、また、作品の講習でなくとも、折り紙に関わる講義なども歓迎いたします。

◆情報処理学会で「情報処理と折り紙」セッション

情報処理学会が主催する第77回全国大会で、「情報処理と折り紙」というセッションが企画されている。JOAS会長である三浦公亮氏をはじめ、評議員の三谷純氏、館知宏氏、60SME運営委員として活躍された上原隆平氏、萩原一郎氏らが講演とパネル討論を行う。

- 大会名:情報処理学会 第77回全国大会
- 会期:2015年3月17日(火)~19日(木)
- 会場:京都大学 吉田キャンパス(京都市左京区吉田本町)
- 「情報処理と折り紙」のセッション開催日時:19日(木)9:30~12:00
- 会場:第3イベント会場(吉田南総合館2F 共北25)

本企画の聴講参加は無料だが、事前の参加登録が必要だ。

【セッション概要】広く一般に「折り」という操作にまつわる問題は、ミクロはDNAの折りたたみの問題から、マクロは宇宙における巨大建造物の伸展の問題まで、あるいは身近なところでは車のエアバッグなど、さまざまなところで幅広い応用を持つ。こうした「折り」に関する問題は、近年「計算折り紙」という枠組みで呼ばれて、活発な研究が行われている。これは幅広い分野にまたがったテーマであり、建築、機械工学、グラフィック、計算幾何学、アルゴリズムなど、さまざまな分野の研究者が研究を行っている。本企画では、こうしたさまざまなバックグラウンドを持つ研究者が、情報処理という切口から、最新の研究成果を講演し、分野横断的な研究の発展を狙いとしている。

9:30~9:55
講演(1) 科学が折り紙と出会うパターン形成とMiura-ori / 三浦公亮
9:55~10:20
講演(2) 折紙工学を推進する折紙式3次元プリンターの開発 / 萩原一郎
10:20~10:45
講演(3) 多面体の折りたたみとアルゴリズム / 奈良知恵
10:50~11:15
講演(4) 計算機による新しい折り紙の形の発見支援 / 三谷 純
11:15~11:40
講演(5) 折紙設計と剛体折紙 / 館 知宏
11:40~12:00
パネル討論 情報処理と折り紙 / パネル司会:堀山貴史、上原隆平 / パネリスト:三浦公亮、萩原一郎、奈良知恵、三谷 純、館 知宏

◆第20回九州折紙コンベンションin沖縄報告 川崎敏和

九州にある日本折紙協会の支部が持ち回りで毎秋開催している九州コンベンションの沖縄大会(11月22日(土)、23日(日))に参加した。琉球・沖縄支部の作品展は素晴らしかった。美しく作られ、沖縄が表現されていた。琉球・沖縄支部のセンスと技術力を知った。

報告者の講演「私たちは折り紙で何をなすべきか」で大会は始まった。折り・展示・創作に「社会に役立つため」などの目的を持つことの重要性を伝えた。仲間同士の評価は当然重要だが、外部評価や社会的役割を考えてもいい時期かもしれない。創作者はみな信念をもって折り紙と対峙しているが、作った折り紙の社会的役割を意識することで、今

以上に愛され意味ある作品が生まれると思う。

折り紙教室は大広間で文京区民センターの一倍半規模で行われた。20周年大会らしく、NOAの大橋理事長や元事務局長黒岩氏の教室もあった。古堅琉球支部長から支部の活動のことを相談され、昭和の名作を勉強することを勧めた。東京友の会は別として、多くの折り紙グループは高齢化が進み、ゲストを招いた大規模な大会の運営が困難になりつつある。

提案する。「ユニット祭り」、「色紙祭り」などのテーマを冠したミニ大会を。テーマで縛り普段折らないものを折ってもらうことでジャンルの壁を取り払う。折

る行為が折り紙の本質だと信じるから。何より、大村折遊会員宅での1泊2日10名程度のミニ研修会が、これまでに参加した中で一番楽しかったからだ。1泊2日、折り紙の科学研究集会の要領で30名限定 in JOASホール。前川さん、プログラム組みの負担は如何ほど。



▲沖縄支部作品展

◆折り紙サークル学祭展示レポート2 板垣悠一・堀口直人

前号に引き続き、11月22～24日に東京大学「駒場祭」と慶應義塾大学「三田祭」で行われた折り紙サークル展示を見学してきた。板垣悠一と堀口直人がその様子を報告する。

○「駒場祭」レポート:板垣悠一

私が人波渦巻くキャンパス構内へ立ち入ったのは最終日のことである。焼きそばソースの香り立つキャンパス内をぬけ、東大折紙サークルOristの展示教室に入るとすぐ、駒場祭の公式マスコット、身長1メートルほどの「こまっけろ」が出迎えてくれた(無論、折り紙である)。

『恐竜時代』と銘打たれたジオラマでは川畑文昭氏の恐竜作品群が闊歩し、

『進化』のテーマ展示ではポ○モンたちがわらわらと群れていた。また会場全体を通して部員さんの創作作品が多く、高度なコンプレックス作品から思わずにやけてしまうようなアイデア作品、ディスプレイにまでこだわりが感じられる平面作品など、作品ジャンルの幅の広さには舌を巻いた。教室の一角には体験折りスペースもあり、次世代の育成にもぬかりはない。私にとっても来年の大学受験にあたって非常によい刺激となった。いやそれよりもまず勉強をすべきなのだが。

○「三田祭」レポート:堀口直人

続いて田町へと乗り継ぎ、「折禅」にお邪魔させてもらった。初めての学祭という

ことで、規模こそOristと比べ小さいとはいえ、個性ははっきり感じられた。大部屋を間仕切りで分けるという、他にない展示スペースを逆手に取り、作品を天井から吊るしたり壁に貼ったりと、狭い空間を存分に活用していた。ストップモーションアニメなど、作品に留まらない展示があるのも面白い。大学サークルの有り様は一つでないと、改めて思われる内容だった。駆け足であったが、6OSMEに参加したサークルに出向く目標は達成できた。今回同伴した早稲田高折紙同好会の板垣氏共々、今年も引き続き学生折り紙界を盛り上げていってくれることを願う。(学祭展示の写真は、P.25に掲載)

◆若手作家勉強会活動報告 若手作家勉強会

気が付けば発足から1年と4カ月。年の瀬11、12月の「若手作家勉強会」を報告する。

第14回勉強会:11月30日

参加者は11名。個人発表は原司氏による「見立てを分類する(途中経過)」。氏の経験を基に「見立て」の概念を8つに分類し、その8つが文献の中でどの程度使われているかを調べた内容で、議論を呼んだ。また今年発行する『研究ノート vol.2』に向け、スケジュール管理や広報活動について確認した。

第15回勉強会:12月21日

参加者は4名、内1人が早退するという過去最少の人数で行われた。個人

発表は萩原元氏の「Melbourne Origami Group 及び Origami Australia 活動報告」。日本では普段知る機会の少ないオーストラリア折り紙団体の活動を紹介した。一時期参加者が平均3人程度に落ち込んでしまったメルボルンの例会を立て直していく件は、参加者が4名だった我々にとっても興味深い話題だった。続いて勉強会の2日前に行われた神谷哲史氏の特別講演「創作折り紙におけるデザイン 折り紙的なデザインとは」の録画映像をおりがみはうすから提供してもらい、鑑賞した。「羊」の創作過程を解説したもので、これに対し参加者が自身の創作過程などを意見しあった。最後

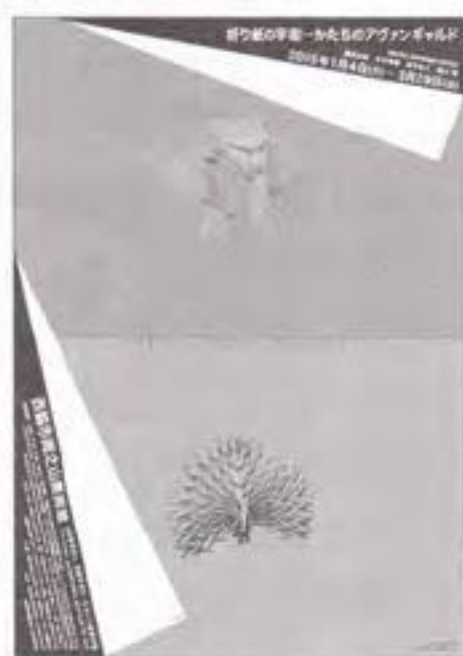
に、折り紙作品のレビューとして『研究ノート vol.1』収録の「潜水艦」を取り上げ、折り出しの比率や折り図についてまで細かく意見を出し合った。

これまでマガジン誌上を中心に行ってきた勉強会の活動報告だが、今後は広報により力を入れるためブログ(<http://kiranai.sakura.ne.jp/yocs/>)でも報告していくことになった。『研究ノート vol.2』より受け付ける投稿論文についてもブログで告知している。是非確認してもらいたい。また今回報告した萩原氏が今年6月に作品集を出す予定とのこと。こちらもチェックを。

◆折り紙の宇宙—かたちのアヴァンギャルド展

2015年1月4日(日)から3月29日(日)まで、兵庫県西脇市の西脇市岡之山美術館で、上記の展覧会があり、現代美術家・藤原志保氏、版画家・木村秀樹氏、建築家・阿竹克人氏の折り紙的な造形とともに、前川淳氏の作品が展示されます。開館時間は10:00-17:00、休館日は、月曜日(祝日の場合は翌日)と祝日の翌日です。関西コンベンション参加の折りに寄ってみるのもよいかもしれません。詳細は以下のサイトで確認してください。

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/okanoyama-museum/>



◀ポスターデザイン…横尾忠則

◆折り紙の新刊読者プレゼント

版元の協力により、折紙探偵団マガジン購読者に、折り紙の新刊書をプレゼントします。

応募方法:ハガキ又はメールにて、名前、住所、電話番号、年齢を明記し、本誌の感想なども添えて以下までお送りください。

■世界のオリガミ・マスタース BUGS



マルシオ・ノグチ著
■A4変型、ハードカバー、フルカラー184P
■駒草出版
アメリカで出版された同名書の日本語版。著名作家の昆虫折り図12点展開図5点収録
3名様にプレゼント

■ティーバッグの包み紙でゆかいな折り紙



山口真・小野友彰共著
■A5判、カラー口絵8P、本文モノクロ80P
■PHP研究所
ティーバッグの包み紙で折る、楽しい作品を、分かり易い折り図で25点収録
3名様にプレゼント

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール/参加費=大人500円(中学生以下300円)/時間=14:00~16:00/研究会=16:00~(開場は13:45)
●2月7日(土)/講師:ユ・テヨン/作品:バグ
●3月7日(土)/講師:高村 侑樹/作品:馬
※開場は13:45です。会場満員(40人程度)の場合は、先着とします。

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場=静岡の和紙処ますたけ(静岡市呉服町1-3-6 増武ビル3F)/参加費=500円(中学生以下200円)/時間=10:30~15:00 ※昼食は各自ご用意ください。スリッパ等上履きをご持参下さい。
●2月1日(日)=講師:大野博美/作品:ひつじ(Beth Johnson・作)

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟

/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=13:00~15:30
●2月21日(土)/講師:未定/作品:未定
●3月21日(土)/講師:未定/作品:未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

次回定例会は6月前後を予定しています。詳細が確定の際には、友の会公式サイト http://tatekoo.net/KT/fold_it_or_go/と葉書にてご案内致します。

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ/参加費=500円(中学生以下は100円)/時間=13:00~16:00
●2月22日(日)会場=3階美術工芸室/講師:浜田勇/作品:「八羽根花車」「八重椿」他(24cmの紙があれば折り易いです)
●3月22日(日)会場=4階第3研修室B/時間=13:00~16:00/講師:未定/作品:未定

JOASホール今後の予定

※それぞれ定員になり次第締め切ります

◆「Origami ATC研究会」

2月5日(木)/参加費=1,000円(材料費別)/11:00~16:00/講習内容=ATC交換会、ATC作り、折り紙講習、折り紙の情報交換等/講師=松浦英子/定員=20名/お茶を飲みながらの気軽な集まり。初心者歓迎。ATC交換会は、郵送参加も受け付けています。詳細はP.25。

◆「ある折り紙作家の教室」

3月1日(日)/講師=神谷哲史/講習作品=未定/参加費=3,000円(材料費別)/11:00~16:00/定員=28名

※対象は、小学校5年生以上です。

※小学生の方が参加される場合は、必ず保護者の同伴をお願いします。

※会場へは参加者および同伴者(会場費500円が必要)のみ入場可能です。

※「ある折り紙作家の教室」は、2週間前(今回は2月16日以降)からキャンセル料(受講費の半額)が発生しますので、ご注意ください。

参加のお申し込みはメール info@origamihouse.jp で氏名、住所、Email、電話番号、参加希望教室名、希望日をお知らせください。

予告:「知子の部屋」1年に1度復活

昨年惜しまれつつ最終回を迎えた「知子の部屋」が、1年に1度だけ復活する。まだ日程などは未定だ。決まり次第本誌で案内するので、お楽しみに!

編集後記

■若手勉強会も定着してきた。■昨年は冊子を発行するまでになり、今後が楽しみだ。■他にも楽しみがある。■各地に大学折り紙サークルが生まれている。■ネットなどでご覧になっている方も多いと思う。■昨年開催された6OSMEに於いても彼らのボランティア活動に助けられたことは記憶に新しい。■今年はサークル共同活動として3月に京都で第3回のイベントが予定されている。■場所は未定のようなが、日程は3月14、15日となっている。■少々不安なところもあるが着実に進んでいるようだ。■更に組織化して活動ができれば。■そんな彼らに微力ながらお手伝いしたいと思っている。■折り紙の魅力を世間にアピールする1つの方法ではないかと。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団マガジン

2015年1月25日発行 第25巻5号 通巻149号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/津田良夫

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

■ORIGAMI TANTEIDAN MAGAZINE / No.149 / Published on 25, January 2015 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hokusai Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Garuda" Produced by Kamiya Satoshi; Photographed by ORIGAMI HOUSE / Publisher: Tsuda Yoshio / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはずべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第20回記念折紙探偵団国際コンベンション

折り図集vol.20 NEW!

日本折紙学会 編 / 2,480円 / 送料430円
B5判 / 全288頁 / 61作品収録

オルガネラ:川村みゆき / ニワトリBOX:山梨明子 / 超新星:川崎敏和 / カマキリ:神谷哲史 / うさぎ:霞 誠志 / ダーサ・スター:アレックス・ド・ペパー / ハムスター:ユ・テヨン / オコジョ:マヌエル・シルゴ / アメリカマナティ:クエンティン・トリップ等、国内外の61作品を収録。

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円	国内一律 1冊 430円 (梱包込) 書籍2冊の送料は540円です 3冊以上の複数冊は本により異なります お問い合わせください	B5判 / 全228頁 / カラー口絵4頁 / 19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成
神谷哲史作品集2 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円		B5判 / 全323頁 / カラー口絵8頁 / 16作品収録 折り紙界の最先端、神谷氏の約8年ぶりとなる作品集
小松英夫作品集 小松英夫 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円		B5判 / 全323頁 / カラー口絵8頁 / 20作品収録 折り図も1つの作品として捉える小松氏の初作品集
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,460円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折り図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,780円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面～The Mask～ 布施知子 著 山口 真 編	3,560円		B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
エリック・ジョワゼル 山口 真 編著 —折り紙のマジシャン— 立石浩一 訳	5,180円		B5判ハードカバー全144頁 / カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第19回折紙探偵団コンベンション 折り図集vol.19 日本折紙学会 編	2,480円		B5判 / 全288頁 国内・外から集まった秀作 53 作品を収録
第18回折紙探偵団コンベンション 折り図集vol.18 日本折紙学会 編	2,380円		B5判 / 全272頁 国内・外から集まった秀作 48 作品を収録
第17回折紙探偵団コンベンション 折り図集vol.17 日本折紙学会 編	2,160円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 50 作品を収録
第16回折紙探偵団コンベンション 折り図集vol.16 日本折紙学会 編	2,160円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 47 作品を収録

書籍2冊の送料は540円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙はそれぞれ別発送となります。

商品名	価格(税込)	送 料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,080円	1～2セット	35×35cm / 10枚入り / 70kgの洋紙(コルキー)に細かなウロコ柄を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,300円	450円	恐竜柄おりがみ用紙+ドラゴン(北條高史・作)の折り図セット
『折紙探偵団マガジン』専用ファイル	810円	1冊285円 2冊330円	193×268×28mm / 箔押しロゴ入り / 『折紙探偵団マガジン』1年分(6冊)と、会員特別配布物が収納可能なプラスチックファイル

折り紙用紙専門のオンラインショップ!

おりがみはうす オンラインショップ

<http://www.olshop.origamihouse.jp/>

おりがみのトーヨーの商品を

25%引きで販売中!

※創作専科・アウトレット商品等を除く / 発送は週1回木曜日

詳しくは
検索サイトで

おりがみはうす

検索

CLICK!

オンラインショップ限定価格で
一般店舗では取り扱いのない
大判折紙や単色折り紙等々、
700種類を超えるおりがみを
豊富に取り揃えています!



商品のお申し込み方法

先に**郵便振替**か**現金書留**で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※PayPalによるお支払いも可能です。

詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp/>まで

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は下記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です(お盆・年末年始等を除く)。

※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。



ギャラリー

おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216

TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080

E-mail: info@origamihouse.jp

月～金 12時～15時 土・日・祝 10時～18時

和紙風 両面千代紙づくり 30柄



30 柄の裏面にも色がついた
和柄千代紙。
保存に便利なケース入り。



¥500 (税抜き)



¥1,000 (税抜き)

 **株式会社トヨー**
ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色が違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡出張所 / 札幌出張所